

【様式1】

自己評価書

四日市市立 中部西小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	【知：深さ】（1）確かな学力の定着（2）自ら進んで学ぶ子の育成（3）児童の実態把握と指導方法の工夫	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>学校評価児童アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の内容はよくわかる AB評価 96%（目標90%）</li> <li>・自分からすすんで学習に取り組んでいる AB評価 91%（目標90%）</li> </ul> <p>○「家庭学習のすすめ」及び「夏休み版家庭学習のすすめ」では、よいノートの見本を示すなど、具体的な取り組み目標が見える化された。</p> <p>○朝読、司書や図書館ボランティア、図書館まつりなどを活用して、読書の推進を図ることができた。</p> <p>○全教科・領域の特性に応じた表現活動については、授業での発表の場のみならず、行事のような大きな舞台での発表に対しても児童の意識が向上した。</p> <p>○商店などの協力の輪が広がり、地域教材を活かした地域のものづくり等の体験活動が、より充実した。</p> <p>○研修計画に基づき、指導案検討や授業公開に深く取り組むことができた。</p> <p>○研修主題「表現し、みがきあう子」に向かい、教職員が共通理解をもって、年間を通して計画的に授業研究などに取り組むことができた。</p> <p>△少人数指導の環境整備を進める必要がある。</p> <p>△3年生段階における家庭学習のあり方については、一層の工夫がいる。（親子から自分ひとりとする家庭学習の変化に対応するため）</p>	

重点目標2	【徳：広さ】（1）生活習慣の向上（2）心の教育の充実（3）問題行動の未然防止	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>学校評価児童のアンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分から進んであいさつができる AB評価 92%（目標値95%）</li> <li>・学校の決まりはきちんと守っている AB評価 95%（目標値95%）</li> </ul> <p>○あいさつ運動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→取り組み期間中、すすんであいさつすることができた。</li> </ul> <p>※アンケートの文言「すすんで」を「気持ちのよいあいさつができる」に変更し、よりよいあいさつができるよう日常的な取り組みの実施。</p> <p>○清掃活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→子どもたち・教職員ともに清掃活動への意識を高めることができた。</li> <li>→「きらきら金曜日」には、よりていねいに清掃することができた。</li> </ul> <p>○決まりを守る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→児童会役員・代表委員による、毎月の生活目標の呼びかけで、学校全体の意識を高めることができた。</li> </ul>	

重点目標 3	【体】（１）健やかな体づくり（２）命を守る取り組みの推進 （３）食に関する教育の充実	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>学校評価児童アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝ごはんを毎日食べる CD評価 4%（目標値 5%以下）</li> <li>・安全に気をつけて生活している CD評価 3%（目標値 5%以下）</li> </ul> <p>○かけ足・外遊び強化月間の実施</p> <p>→学年問わず外で遊ぶ姿が見られた。また、かけ足記録会やなわとび集会に向けて、休み時間に自らトラックを走ったりなわとびの練習に励んだりする姿が見られ、運動に対する意識を高めることができた。</p> <p>○年間を通したふれあいパトロールの実施</p> <p>→月 1 回実施することで、子どもたちの安全意識を高めることができた。</p> <p>○年間 5 回の避難訓練の実施</p> <p>→定期的に行うことで安全意識を高めることができた。また、今年度は緊急時全児童引き渡し訓練を 1 月に初めて実施した。</p> <p>○食育の授業及び委員会やクラスの取り組み</p> <p>→全校で系統的な食育の授業の取り組みを進めることができた。また、給食指導や委員会の給食ワゴンのチェック等により、残菜が少なくなった。また、朝食をとっている児童は例年と同様に多かった。</p> <p>○養護教諭・栄養教諭からの発信及び連携の確立</p> <p>→アレルギーをもつ児童のアレルギー対策について教職員間で共通理解することができた。</p> <p>△基礎体力の向上に向け、各学年を横断的な計画を考える必要がある。</p>	

重点目標 4	【トライアングル】参加・参画による学校づくり	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>学校評価保護者アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・回収率 98.9% へ向上。</li> <li>・参加参画型の教育活動や体験活動は充実している AB評価 97.6%</li> <li>・学校は、子どもたちの様子や学習内容がよくわかるようにしている AB評価 95.2%</li> <li>・学校の教育活動は全体的に見て、満足できる状態である AB評価 96.2%</li> </ul> <p>○これまでの功績がたたえられ、文部科学省から表彰を受けた。</p> <p>○春(5月27・28日)と秋の学校公開(11月12・15日)</p> <p>→保護者、地域のゲストティーチャーが学習活動を支え、共に参加・参画する活動を行うことができた。</p> <p>○まちかど音楽会(11月15日)</p> <p>→地域・保護者ボランティアの支えで、準備・当日の進行・後片付け等行うことができた。一方で、定着してきたために、人数が増え、子どもの姿をあまり見られないという声も聞かれるようになってきている。また、今後会場についても検討していかなければいけない。</p> <p>○学習支援員(図書、生活科、総合学習、家庭科、書写、クラブ)を活用することができた。</p> <p>○資料室の充実</p> <p>→昔のくらし(3年生)について、実物を見ながら学習することができた。</p> <p>○学校参画委員会(年5回)の実施</p> <p>→参画委員、拡大委員の意見をグループ討議などから収集し、教育活動にいかすことができた。</p>	

## 2 改善方針

- ・「学校づくりビジョン」をはじめ、平成30年度から実施される「道徳の教科化」や「英語の教科化」等、新教育課程を見通したものにしていく必要がある。
- ・連絡表の検討委員会を設け、平成30年度に向けての対応していかなければならない。
- ・若手教職員が増えるなか、より職員間のコミュニケーションの充実を図り、組織的な指導体制を整備していく必要性を強く感じる。
- ・安全意識への向上を、一年間を通じて計画的にしていく必要がある。

【様式1】

自己評価書

四日市市立

浜田小

学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学びのある学校	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○主体的に学ぶ子の育成 ○特別支援教育の推進 ○教職員の力量アップ</p> <p>〈主な方策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年に一回の授業の公開</li> <li>・公開研究会の継続的な開催</li> <li>・特別支援委員会の定例化・職員会議後の報告会</li> <li>・特別支援学級の授業公開と校内研修</li> <li>・管理職の定期的な授業の見回り</li> </ul> <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが興味・関心をもって取り組めるように、教材や課題や発問を考えることができた。</li> <li>・学び合いを行うことで、どの子も学びに向かう姿が見られた。</li> <li>・視覚的に学べる d b o o k (デジタル教科書)の活用を図ったことで、子どもたちの学習意欲が上がった。</li> <li>・高学年の先生が、特別支援学級への入り授業を行い、交流学級以外の職員に特支児童と関わる機会が増え、理解が深まった。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学びが生まれる」「学びが深まる」授業づくりの具体性に欠け、明確ではなかった。</li> <li>・学習部や生指部とも連携しながら授業の基礎基本の定着や支援のあり方を考えていきたい。</li> </ul> <p>〈アンケートより〉</p> <p>「授業は、わかりますか。」約97%の児童が「十分」または「概ね十分」と回答している。</p> <p>「学習や学級会などで、友だちの思いや考えをきこうとしていますか。」「十分」と「概ね十分」を合わせて79%である。</p> <p>「学年に応じた学力を身につけるためにわかりやすい授業をしていると思いますか。」「十分」と「概ね十分」を合わせて87%である。また、児童アンケートの「授業はわかりますか。」では、「十分」と「概ね十分」を合わせて98%である。</p>	

重点目標 2	豊かな人間性を育成する学校	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○道徳・人権教育の推進 ○心と体の健康教育の推進 ○読書活動の充実</p> <p>〈主な方策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間づくりレポートによる子ども理解の共有</li> <li>・発育測定後の保健指導、朝のかけ足の実施</li> <li>・朝の読書の実施、教頭先生の読み聞かせ、図書館祭りの年2回の実施</li> </ul> <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四同研の発表を通して、学校としての人権教育について考える機会を持つことができた。</li> <li>・学級の実態に合わせて、自作教材を作り、指導を行ったことで、自らの生活を振り返ることができた。</li> <li>・全国体力調査の結果を分析して、弱みの「走・跳の運動」を重点に、朝のかけ足や持久走記録会、縄跳び月間などを長期的に実施した。</li> <li>・学級文庫の本を入れかえることで、子どもの興味のある本が手に取りやすくなった。</li> <li>・教頭先生の読み聞かせが、子どもの心にしみた。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校全体で子どもの捉え方や人権課題について学ぶことが必要である。</li> <li>・道徳の授業で学んだことを、継続的に日常生活の中で生かしていくことができていない。</li> <li>・道徳の年間計画の形式の変更により、これからしっかりと道徳の授業づくりをしていく必要を感じる。</li> <li>・全国体力調査の結果をふまえ、課題を明らかにして、学校として取り組んでいくことを明確化する。</li> </ul> <p>〈アンケートより〉</p> <p>「人権を大切にしたい教育を行っていると思いますか。」</p> <p>「命の大切さや社会のルール、人権問題について学習していますか」では、「十分」と「概ね十分」で94%ある。</p>	

重点目標 3	安全で安心できる学校	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○居心地のよい学級づくり ○安全に対する意識の向上</p> <p>〈主な方策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学期に一回のいじめ調査、年2回のQ Uの実施による実態把握</li> <li>・いじめ防止対策委員会の定例化と職員会議後の報告会</li> <li>・不定期のケース会議の実施で方向性の確認</li> <li>・月一度の安全点検の実施、年3回の避難訓練の実施</li> </ul> <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ調査を定期的実施したり、いじめ防止対策委員会にて情報を交流したりすることで、いじめの早期発見につながり、解決のための方法を探ることができた。</li> <li>・3・6年生を対象に海上保安庁の方を講師に招き、着衣水泳を行った。児童を対象にした授業であるが、担任も一緒になって学ぶ機会となっている。</li> <li>・9月に、大津波警報発令時の避難訓練を行った。PTAや地域の方に見守りをお願いするなど連携し、博物館前市民公園まで避難する取り組みを行った。</li> </ul> <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・S Cには、子どもや保護者の悩みやニーズに対して丁寧に対応してもらっている。しかし、相談時間が限られているので、S Cと担任とゆっくり話す時間が取れない。</li> </ul> <p>〈アンケートより〉</p> <p>「子どもたちが安心して学校生活を送れるような安全に配慮していると思いますか。」では、「十分」と「概ね十分」を合わせて93%である。ほとんどの保護者が満足していると考えられる。また、児童アンケートの「安心して学校生活を送ることができますか。」でも「十分」と「概ね十分」を合わせて94%ある。</p> <p>「学校生活は楽しいですか。」では、「十分」と「概ね十分」で90%である。</p> <p>「困ったとき、先生に相談できますか。」では、「十分」と「概ね十分」で79%である。何か起きた時の、学校からの説明不足を指摘する声がある。</p>	

重点目標 4	保護者や地域に信頼される学校	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○全員参加による学校経営  ○コミュニティスクールの推進  ○保護者・地域への情報発信  ○地域の教育力を活用</p> <p>〈主な方策〉  ・学校だよりの配付、HPの月2回の定期更新  ・ゲストティーチャーによる復興体験の聞き取り  ・学習ボランティア（英語、クラブ）の活用</p> <p>〈成果〉  ・HPや学級通信で、児童の様子を発信することができた。  ・クラブのボランティア、家庭科のミシン、自然教室の登山、校内での野外炊飯の火起こし、戦争時の暮らしの聞き取りなどの場面で、地域の教育力を活用することができた。</p> <p>〈課題〉  ・学年間で、地域の教育力を活用する差が生じている。  ・計画的に子どもと地域をつなぐ活動が必要である。</p> <p>〈アンケートより〉  「学校公開・授業参観や学校だより・ホームページ等は子どもたちの様子を伝えるのに有効だと思いますか。」「十分」と「概ね十分」で97%である。学校だより・ホームページでは、子どもたちの様子を定期的に伝えたことが成果として表れたと考える。  「学校行事や地区の行事などで、地域の人たちと楽しく接していますか。」「十分」「概ね十分」で80%である。</p>	

## 2 改善方針

<p>〈重点目標1〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材研究や授業の工夫などをしたり、学調や各種テスト等の結果を分析したりして、子どもの理解を図る。</li> <li>・子どもどうしが学び合いながら、確かな学力を身につける実践を継続したい。</li> </ul> <p>〈重点目標2〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳教育の充実を図るために、PDCAを意識した授業実践を位置づけるようにしたい。</li> <li>・体力調査の結果から、新体力テストの全校実施、個々の数値目標の設置をすすめたい。</li> </ul> <p>〈重点目標3〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題をもつ子どもが増えているので、学校組織で動き、「報・連・相」を基本に、子どもたちとかかわるようにしたい。</li> <li>・学校と地域の連携を強化し、すべての児童が安全に学校生活を送れるように取り組んでいく必要がある。</li> </ul> <p>〈重点目標4〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や地域に、本校の教育を理解していただくために、授業参観や学校公開日等で積極的な啓発をすすめたい。</li> <li>・学年に偏りなく、生活科や総合的な学習の時間等を活用して、地域との結びつきを強めていきたい。</li> <li>・地域教材のリスト及び人材バンクの記録を残し、引き継いでいく。</li> </ul>
---

## 自己評価書

四日市市立 塩浜小 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力が育つ授業の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>【項目】 個に応じた指導の工夫による基礎学力の一層の定着を図ります</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 聴く力・話す力・話し合う力などの育成</li> <li>(2) 朝の読書、多彩な図書館活動など読書活動の推進</li> <li>(3) 児童が主体的に取り組むような指導方法の工夫・改善</li> <li>(4) 中学校区の教職員が連携を密にした教育活動の充実</li> <li>(5) 塩浜地区ならではの地域資源を生かした教育の推進</li> </ol> <p>【主な方策と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業では、学んだことをふりかえり発表する機会を保障したり、日直のスピーチを充実させたりすることで、話す力を磨き、聴いて学ぶ場を創出できた。（児童学校評価肯定的な回答アップより）※以下 児童評価アップ と表記</li> <li>・積極的な図書室利用や教科に準じた読み聞かせを継続的に続けたことで、読書活動を向上できた。（児童評価アップ）</li> <li>・グループ学習を取り入れ、子どもたちが主体的に学ぶ時間を設けるようにした。また、子どもたちの意欲が高まるよう、魅力ある課題づくりに努めた。</li> <li>・国語科を中心に、子どもたちにつけたい力を明確にし、身につけた力の活用を意識して言語活動を設定してきた。学んだことが役に立つという有用感を子どもたちに感じさせることができた。（児童評価アップ）</li> <li>・中学校と同じ研修グループに所属し（研究協議会）、情報交換や調査等を共同で行うことができた。</li> <li>・様々な顔を持つ塩浜地区の魅力を、地域の力を借りて実際に歩き、子どもたちに体感させることができた。（学校運営協議会肯定的な意見より）</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に図書室利用をすすめ、一層の学力向上を図る。</li> <li>・家庭読書の取り組みの推進を図っていく。</li> </ul>	
重点目標 2	健康な心と体の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【項目】 認め合い支えあう学級集団づくりを進めます</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人権教育、多文化共生教育・道徳教育の推進</li> <li>(2) 個に応じ、つながる特別支援教育の推進</li> <li>(3) 体験活動の積極的に取り入れ、豊かな人間性・社会性の育成</li> <li>(4) 運動する機会や場を設定し、発達段階に応じた運動習慣の育成・体力の向上を図る</li> </ol> <p>【主な方策と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの人権意識が高まるように意識しながら、様々な教育活動に取り組めた。また、日常的にそれぞれの苦手なことを助け合う雰囲気づくりにも努め、一定の成果があった。（児童評価アップ）</li> <li>・個別の支援が必要な児童の実態を把握して、その子に必要な支援を臨機応変に企て、状況によっては複数体制で支援を実施することができた。</li> <li>・主に生活科、総合的な学習の時間を通して、体験的活動を多く取り入れることができた。（学校運営協議会意見肯定的な意見より）</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・系統的な人権教育の推進を図る必要がある。</li> </ul>	

重点目標 3	信頼される学校づくり	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【項目】 家庭や地域と共に力を合わせ、塩浜地区の未来を担う子どもを育てます  (1) 健康で安全な学校づくり  (2) 家庭・地域との連携や協働（防災教育・生活リズムの向上）  (3) 健康教育の推進（保健指導・食教育）  (4) 四日市版コミュニティスクールの活動の充実</p> <p>【主な方策と成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校指導を積極的に行い、危険箇所の確認・共有に努めた。</li> <li>・地域での感染症の流行状況を掲示や、通信などで発信することに努めた。</li> <li>・清掃や整理整頓等、校内の環境整備に努めた。</li> </ul> <p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭訪問などを通して保護者と連携を図りながら子どもたちの指導にあたった。また、管理職等とも連携し、子どもの様子等から感じたことや得た情報等を共有し、多方面から支援ができるよう努めた。</li> <li>・学年HPの更新を通して、子どもの様子を家庭に発信した。また、通信やお知らせ文書等、写真や図、ルビ、外国語訳をつける等して分かり易くすることに努めた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成果のあったことを全校で取り組んでいく体制づくりを進める。</li> </ul>	

## 2 改善方針

- ・確かな学力をつけるために、授業改善を引き続き行っていく。またNRT（来年度より）、学力学習状況調査等の結果分析をもとに、一層の学力向上策を図っていきたい。
- ・土曜授業の内容、また学校行事の精選を図り、より計画的、系統的に学校運営をしていきたい。
- ・地域と連携して、実践的な防災教育を実践していきたい。

【様式1】

# 自己評価書

四日市市立 羽津小 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	進んで学び合う力	4
主な方策 成果と課題	<p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○確かな学力をつける<ul style="list-style-type: none"><li>・ぐんぐんタイムにおいて読書、国語科や算数科の練習問題に取り組む。</li><li>・読書を習慣化するために、朝読書、家庭読書などを読書週間に取り組む。</li><li>・読書ボランティア「まざりいず」の協力で、読み聞かせ会を実施をする。</li><li>・家庭学習の習慣化するために、宿題に毎日取り組む。</li><li>・生活ノートや授業のふり返りに取り組み、書く力を身につける。</li></ul></li><li>○問題解決能力を高める<ul style="list-style-type: none"><li>・ペア学習やグループ学習の活用をふまえて、個々の考えをもつ時間や学び合いができる学習課題を設定する。</li></ul></li></ul> <p>【成果】</p> <p>学力アセスメントでは、ほとんどの項目で全国平均を上回る結果となった。今までの方策の継続と更なる向上をめざし新たな方策も試みる努力をおしまない。グループ学習などを通して、考えたり発言したりすることへの抵抗が少なくなり、「授業で発表をしている」という児童は昨年度より13%も増えた。「読書をしている」という児童は83%と読書の習慣化はおおむね良好であった。書く活動を重視することで、書くことへの抵抗が少なくなってきた。</p> <p>【課題】</p> <p>86%の児童ができていたとあった家庭学習の習慣化をさらに進めるために、「家庭学習のてびき」の内容や配布時期などについて来年度に向けて再考していく。</p>	
重点目標2	健康意識と体力の向上	4
主な方策 成果と課題	<p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○健康・安全意識を高める<ul style="list-style-type: none"><li>・保健だよりなどの呼びかけで、生活リズムの向上を図る。</li><li>・給食だよりによる啓発や養教諭と連携した食育の授業に取り組む。</li><li>・避難訓練、引き渡し訓練の実施。</li></ul></li><li>○体力の向上を図る<ul style="list-style-type: none"><li>・体力テストなどの分析を通して、児童の運動能力の実態把握。</li><li>・体育での基本運動の充実と、なわとび運動を推奨。</li><li>・休憩時間の過ごし方において、クラス遊びを推奨し進んで運動をする児童を増やす。</li></ul></li></ul> <p>【成果】</p> <p>保健室への来室児童が20%も減り、児童の生活リズムの改善や向上が見られた。各学年において統一された「なわとびカード」や補助用具の準備とともに、長なわ記録会やなわとび名人発表といった行事を実施でき、なわとび運動に親しむ児童が増えた。他に遠足やかけ足記録会が実施でき、体力向上に向けて全校的な取り組みを計画的に進めることができた。引き渡し訓練では保護者に手順などが定着してきている。</p> <p>【課題】</p> <p>なわとび運動への意欲が高まったことは良いが、今後それを継続させていくことが課題でもある。体力テストが抽出学年で行われたため、児童の運動能力の実態把握に課題が残る。来年度以降、実態把握について再検討を行う。</p>	



重点目標 3	認め合い協働する実践力	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人権尊重のなかまづくりを進める <ul style="list-style-type: none"> <li>・「なかまづくり」の推進。（学級遊びやきょうだい学級による児童集会の計画。教員が人権授業に関わる交流会や研修を通して実践力をつける。）</li> <li>・支援を必要とする児童について、全職員による情報共有と共通理解を図る。</li> <li>・道徳教育の充実と年間指導計画の見直し。</li> <li>・校内特別支援委員会の定期的な開催や、S Cなどによる教育相談・カウンセリング体制の充実。</li> <li>・保護者への人権授業の公開。</li> </ul> </li> <li>○生活習慣と規律ある生活を確立する <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校や学年・学級による指導の徹底（集会などで全体指導、学級会での話し合い、児童会の呼びかけ）</li> </ul> </li> </ul> <p>【成果】</p> <p>児童や学級が支援を必要とする場面において、校内特別委員会やケース会議など通じて、職員全体の体制でサポートを実施することができた。その上で「なかまづくり」の取り組みの成果として、「自分のことを分かってくれる友だちがいる。」と感じる児童は目標としていた90%に到達した。</p> <p>廊下歩行などを規律を守る児童80%を目標に取り組みを進めたが、78%といま一步届かなかった。しかし、昨年度より2%の向上があり、年々児童の割合は上昇している。この取り組みの継続と新たな方策を講じたい。</p> <p>【課題】</p> <p>児童へのアンケート「友だちの気持ちをたいせつにしている。」では、数パーセントであったが昨年度より下回った。道徳教育年間計画の見直しを全学年において実施できたが、効果的な取り組みを進めるために、各学年の教材のつながりやその系統性を検討することが必要である。</p>	

重点目標 4	家庭や地域とつながる学校	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○個に応じた特別支援教育を連携して進める <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内特別支援委員会における方針や、S Cなどによる教育相談・カウンセリングからの対応について、学校や担任が保護者との連携を図る。</li> </ul> </li> <li>○開かれた学校づくりを推進する <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だより・学年だよりによる発信内容の充実。</li> <li>・学校ホームページの充実。</li> <li>・授業参観・学校公開・学校行事（学校集会など）の充実</li> </ul> </li> <li>○保護者・地域との連携を進める <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域、PTAと連携した安全指導（登下校・各学年の交通安全指導）。</li> <li>・地域の教育力と学校の連携推進。</li> <li>・PTA保護者ボランティア・教育ボランティアの参加しやすい体制づくり。</li> </ul> </li> </ul> <p>【成果】</p> <p>授業参観など年間計画通り実施でき、保護者アンケート「学校の様子を見る機会を十分にしている。」では98%と非常に高い。今後も授業参観などの充実を図る。また、「たよりやホームページから学校の様子がわかる。」というアンケート結果も昨年度より8%も高くなり、ホームページの形式が新しくなって2年目における運用方法の徹底や改善の成果が現れた。</p> <p>【課題】</p> <p>読書週間における読み聞かせなどを、PTA保護者ボランティアによって全学年を通して実施してもらうことができた。地域の在住者や組織による「学ぶ」場を、特定の学年においては計画、実施することができた。しかし、関わりをもてなかった学年もあり、教育課程を介して地域の教育力の参加協力を、今後見いだしていかなければという課題が残る。</p>	

## 2 改善方針

・児童アンケート「学校に来ることが楽しい。」では、10%も否定的な回答があった。学校生活に対しての悩みや不満を抱いている児童にいち早く気づき支援をしていくとともに、児童が生き生きと活躍できる授業や行事になるように努めたい。

・児童アンケート「授業では発表している。」に肯定的な回答の割合が13%も向上したが、他の項目に比べると低く、依然として本校の課題である。授業の話し合いなどは活発に行われ、「話す力」がついてきているが、今後も「自分の考えや思いを伝える力」を育む取り組みに力をいれたい。

・「あいさつをきちんとしている。」では、児童アンケートと保護者アンケートの回答の差が10%もあった。挨拶の声が小さかったり、相手を見ずにあいさつしたりすることが原因と考えられる。「大きな声で相手の顔を見て挨拶する。」など、指導の改善を図りながら取り組んでいきたい。また、廊下歩行の意識も78%と低く、これを規範意識の指標として学校全体で、指導の徹底を図りたい。

・児童の自己肯定感について、まだまだ低い割合である。児童の自己肯定感については、本校の最も大きな課題と捉え、学習への自信をつけさせる授業づくりや補充学習、個別指導、達成感を味わわせる行事づくりに、さらに力を入れていきたい。

・保護者アンケート「家庭学習の習慣が身についている。」では、肯定的な回答の割合が下降傾向である。児童の家庭学習の習慣化をさらに進めるために、宿題の出し方を工夫していきたい。また、自主学習などの能動的な学習へと家庭学習の質を高めるための指導も行なっていきたい。

・地域の教育力と学校の連携推進について、昨年度より割合が低くなったが、まだ20%の教員が不十分と感じている。今後も、学習や行事における地域の方への協力の呼びかけや、地域性を生かした教材の開発に努めていきたい。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 海蔵小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1 (研修)	○毎日の授業の充実 1時間1時間の授業を、子どもたちが「考える楽しさ」「学ぶ楽しさ」を味わい「わかった」「できた」「力がついた」と実感できるものに高める。	4
主な方策  成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○つけたい力を明確にした系統性のある指導</li> <li>○研修委員を中心とした学年・校内で学び合う体制</li> <li>○教職員支援システム等による個人研修の活性化</li> <li>○地域指導者による学習支援</li> <li>○学習環境の整備 など</li> </ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○問題解決型の学習を進める中で、思考の過程を大切にし、考えを伝え合う時間を充実させることができた。</li> <li>○習得した力を使って考える子が育ってきた。</li> <li>○「わかる」「できる」実感している子が増えてきた。</li> </ul>	
重点目標2 (人権)	○友だちと仲良くする 道徳的実践力を育てるとともに、自尊感情（自分のよさに気づき、自分をかけがえのない存在として感じる）を高める。言葉に気をつける、笑顔で接する。	3
主な方策  成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○仲間づくり研修会の実施</li> <li>○教職員支援システム等による個人研修の活性化</li> <li>○四同研の提案や研修会への参加 など</li> </ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人権教育推進計画に沿って、全職員共通理解のもと「仲間づくり」を進めることができた。</li> <li>○仲間づくり研修会を学年単位で密に行えたことで、学年全員で子どもを理解し、自尊感情を高められるような取り組みを行うことができた。</li> </ul>	
重点目標3 (学習)	<p>(子どもたちに求める態度) 誠実な態度 規律ある態度 勤勉な態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○チャイムで始める授業</li> <li>○課題に全力で取り組む姿勢</li> </ul>	3
主な方策  成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学年・全職員による一致した指導</li> <li>○調整会議等による情報の共有</li> <li>○学びの一体化の推進</li> <li>○学校からの情報発信</li> <li>○家庭・地域との連携</li> <li>○環境整備</li> </ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○予鈴を鳴らすことで、学習の準備を始めることが少しずつ定着してきており、チャイムとともに学習を始めることができるようになってきている。</li> <li>○家庭学習の手引きを作成、配布していることで、職員間、家庭との共通理解が図られた。児童と保護者に対するアンケートの文言の違いからか結果の数値に差が見られるため、今後も学年懇談会や通信などを通して、家庭学習について発信していく必要がある。</li> <li>「10分×学年」以上、家庭学習していますか。」 児童肯定78%→86%</li> <li>「『家庭学習の手引き』に示したような学習習慣がついていますか。」 保護者肯定63%→65%</li> <li>○学習支援ボランティアとして、保護者や地域の方に協力していただき、子どもたちの学びをより豊かなものとすることができた。また、家庭・地域と連携することができた。</li> <li>○朝の読書活動が定着しており、落ち着いて一日を始めることができています。</li> <li>○教育活動アンケート(児童)より「読書は好きですか。」(肯定度83%→88%)</li> </ul>	

<p>重点目標 4 (生活安全)</p>	<p>(子どもたちに求める態度) 誠実な態度 規律ある態度 勤勉な態度          ○朝のあいさつ、授業の始めと終わりのあいさつ ○だまって掃除をする、後片付けまできちんとする ○トイレのスリッパをそろえる</p>	<p>3</p>
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>【主な方策】          ○学年・全職員による一致した指導 ○生徒指導連絡会等による情報共有          ○学びの一体化の推進 ○学校からの情報発信          ○家庭・地域との連携(コミュニティスクールの推進) ○環境整備</p> <p>【成果と課題】          ○「がんばる海蔵っ子」を活用し、子どもたちへの指導について全職員で共通理解を図ることができた。また、家庭にも協力を得ながら、年間を通して指導に生かすことができた。          ○地域と連携しながら、児童の登下校時のあいさつの現状を知り、指導に生かすことができた。週明けの朝のあいさつや、来校者へのあいさつには課題が残る。          ○後片付けまでできるように掃除道具を整備し、掃除場所ごとにカラービニールテープを貼ることで、どこに掃除道具を戻せばよいか視覚的に分かりやすくなり、掃除道具箱が整頓された。          ○委員会が中心となり、毎日朝と放課後にトイレスリッパ点検を行った。花丸カードや丸カードを作成し、そろっているトイレにはカードを貼るなど意欲向上に努めた。しかし、他学年が使用するトイレや、下校時に使用した後はそろえようという意識が低い。          ○廊下歩行では、走る児童がいたり、教室移動中の私語があったりして課題が残る。</p>	
<p>重点目標 5 (保健体育)</p>	<p>(子どもたちに求める態度) 誠実な態度 規律ある態度 勤勉な態度          ○体育授業の正しい服装 ○体育の授業や体育的行事を、運動の楽しさを感じられるものにするとともに、運動機会をできるだけ多くして体力を高める。</p>	<p>3</p>
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>【主な方策】          ○学年・全職員による一致した指導 ○調整会議等による情報の共有          ○学びの一体化(体力部会での情報交換) ○学校からの情報発信(ほけんだよりの発行)          ○家庭・地域との連携 ○環境整備(ハードルの購入・体育倉庫内の整理)</p> <p>【成果と課題】          ○体育的行事がよりよい活動となるように、PTAや地域の方と連携し、協力して取り組むことができた。          ○食育に関する指導を全学年で充実させることができた。家庭科や国語科など、各教科の指導と関連させながら取り組むことができた。その時に、担任や教科担当と栄養教諭とが連携を取りながら学習を進めることができた。          ○健康集会では、歯について学習することができた。          ○体育の授業で5分間運動や主運動の取り組み方の改善により、運動量を確保できるようになってきた。しかし、説明や準備に時間がかかり、さらに時間の使い方や取り組み方に改善が必要である。          ○体育の授業や体育的行事で、教職員の一致した指導の下、服装を整えて取り組むことがほぼ達成できたと感じている。また、体操服の貸し出しを行ったことは良かったが、体操服の管理に課題が残る。          ○行事に取り組むときに、準備の段階から、行事のめあてを共有して指導することができた。          ○学習課題の提示のためのホワイトボードの活用は、授業のめあてをはっきりさせ、学習のまともに有効な手立てであった。しかし、活用できない時があり、毎時間徹底されるまでには至っていない。          ○教育活動アンケート(児童)より「外で遊ぶことは好きですか」(肯定度88%)</p>	

## 2 改善方針

- ・学校、保護者、学校医により課題を検討し、具体的な取組を協議する場を設け、児童がこれまでの学習の成果を発表する「健康集会」と学校の関係者が主となって行う「学校保健委員会」を区別し、取組を進めていく。
- ・体育授業の組み方を工夫し、体力・運動能力調査の結果からみえた課題を考察し、弱みを克服できるよう取り組む。
- ・「こんな海蔵っ子になろう」の実現に向け、「トイレのスリッパ点検」や「あいさつ運動」など児童会の活動を充実させ、より児童の主体的な活動になるように取り組む。
- ・自分や友だちを大切にすることはどういうことか、日々の学校生活の中で具体的に指導を積み重ねていくことを検討する。
- ・問題解決能力を育成する授業の研修を深めるとともに、課題づくりについての取組を続ける。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 富洲原小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・90%の児童が「読み・書き・計算の力がついてきている」と実感しており、保護者においても90%以上が基礎・基本の学力が定着していると感じている。これは、本校が基礎・基本の力の定着を大切に考え、学びの一体化の取組であるベーシックタイム（朝の10分間学習）やステップタイム（ステップアップ式プリント学習）等で漢字の取得や計算力の向上を目指した取組を進めていること、「家庭学習の手引き・進め方」を使い、保護者の協力を得ながら家庭学習の充実を図っていることが、着実に子どもたちの力になっていると思われる。</li> <li>・「授業で教え合ったり考え合ったりしている」と感じている児童は90%に達している。本校では、研修テーマを「自分の思いを伝え、高め合う授業づくりを目指して」とし、子どもたちが互いに話し合い、考え合う授業を目指して取り組んでいる。年々評価が高くなっていることから、子どもたちが主体的に考え合う授業を楽しんでいると感じ、意欲的に授業に参加しようとしていることが伺える。今後も、効果的なペア学習・グループ学習の活用、少人数指導の有効活用等を研究し、アクティブ・ラーニングの視点を大切に授業を進めていきたい。</li> <li>・約90%の児童は将来の夢や目標をもっており、また学習したことは将来役に立つと考えている。これからも、学校の教育活動をキャリア教育の視点からもとらえ、発達段階に応じて、学ぶこと働くこと生きることの尊さを実感させ、学ぶ意欲向上につなげることができる活動を考えていきたい。</li> </ul>	
重点目標 2	豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人権の大切さについて、考えて行動している」児童の割合が96%で、年々増加している。今後も、豊かな人権感覚、人権意識を養うために、日常的な人権学習の取組を進めていきたい。</li> <li>・80%以上の児童が「自分にはよいところがある」と、自己肯定感を持つことができるようになり、児童の心の土台が安定しつつあると思われる。今年度は、コミュニティスクール推進により、保護者や地域の方に児童の様子を見ていただく機会が増え、直接、言葉をかけていただいたり、良さを教師から伝えたりすることで、様々な方に認められているということを実感できたことも、児童の自信となってきているのではないかと考えられる。継続的に、地域とともに学校づくりを進めていきたい。</li> <li>・どの子も尊重される学年・学級集団を構築するため、些細な人間関係のトラブル等を看過せず、きめ細やかな対処・対応を行ってきた。</li> <li>・集団生活、一斉授業への適応に課題のある児童については、保護者と連携し、SC、教育相談機関等の活用を図りながら、今後も個に応じた指導・支援していきたい。</li> </ul>	
重点目標 3	健康・体力の向上と危機管理能力の定着	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5分間運動の定着とめあての明確化による、体育科授業の充実を図ってきた。また、「跳び箱」「鉄棒」「持久走」「縄跳び」強化月間を設定し、意欲的に運動に取り組むようにしてきた。また、体育委員会による集会での縄跳びの紹介やなわとび集会等の活動を行ってきた。その結果、80%以上の児童が「進んで体を動かしている」ととらえている。</li> <li>・「全国体力・運動能力調査」では、男女とも、ほとんどの調査種目で全国・県平均を上回った。この「強み」を更に伸ばすための具体的な取組を十分に検討し、体育科の授業等に取り入れていきたい。</li> <li>・「保健指導と食育」では、90%の保護者が肯定的に評価している。保健指導や食の指導により、児童自身が生活を振り返り、健康に過ごそうという意欲を持たせることができたと考えられる。</li> <li>・長期休業中に歯みがきや早寝早起きのがんばりカードに取り組ませることによって、家庭とも連携しながら、よい生活習慣が持続するようになった。</li> <li>・「危機管理の徹底」では95%以上の保護者が肯定的な評価であった。今後も、児童の実態や実情に即した防犯・防災訓練、交通安全指導を実施し、意識の高揚と対応力の向上に努めていきたい。</li> </ul>	

重点目標 4	地域とともにある学校づくりの推進	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートの「通信等による情報提供」「授業参観や学校行事等の案内の工夫」では、95%以上の保護者が肯定的に評価している。学校だより、学年・学級通信、ホームページ等で、学校の様子を伝えることができたと考えられる。しかし、学年・学級によって発信の頻度に違いがあることが課題であり、今後、更なる情報発信に努めていきたい。</li> <li>・地区の夏まつりや地区人権懇談会に教員も参加することで、地域での児童の姿を知り、地域とのつながりを深める機会となった。</li> <li>・「四日市版コミュニティスクール」指定による、地域・家庭・学校が一体になった学校づくりを推進してきた。今年度は、地域・保護者の方にも参列いただいた創立140周年記念式典をはじめ、様々な行事・活動に取り組み、伝統と歴史、地域とともにある学校という認識を深めることができた。</li> </ul>	

重点目標 5	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「先生たちは、考え合ったり話し合ったりする授業をしている」と96%の児童が回答しており、校内研修の充実によるものと考えられる。今後も、教職員の指導力の向上を図り、授業改善と授業充実を進めていきたい。</li> <li>・「自分や友だちに悩みや困ったことがあったとき、先生たちに相談できる」では、80%以上の児童が肯定的な回答をしている。児童からの相談を待つばかりではなく、わずかな変化にも気づき教師側から声をかけたり、担任ばかりでなく他の教師にも安心して相談できる雰囲気づくりをしてきた結果だと考えられる。今後も、学年をこえた情報の交流を行い、児童理解に努め教育活動の充実につなげていきたい。</li> <li>・今年度、北校舎・講堂の大規模改修、特別教室（音楽室）への空調設備の設置が行われた。今後も、児童が安心して学校生活を送ることができる教育環境の整備・充実を努めていきたい。</li> </ul>	

## 2 改善方針

・「教材研究する時間が確保されず、勤務時間外になる」「書類作成や出張等の校務が多忙である」等を解消するため、更に校務を精選する等できることから改善し、総勤務時間縮減に向けて取り組んでいく。

・経験年数の浅い教職員が増える傾向にあり、教職員の年齢構成が、若い教職員と経験を重ねた教職員とに二極化している。よく話し合い共通認識をすること、互いに学び合う姿勢を大切にすること等、「チーム」ということを意識して教育活動を進めていきたい。

・教職員のアンケートからも、「ICTを活用した授業の充実」という点が低い状況にある。ICT研修への積極的な参加や、ICTサポーター等、授業及び校務支援の人材要望もあげていきたい。

自己評価書

四日市市立 富田小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力を定着する。	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に引き続き、「問題解決能力の育成を目指した実践的・効果的な授業づくり等の研究～思考の過程が見える、表現する力を育てる～」を研修のテーマとして、ペア・グループ学習や問題解決学習を取り入れた授業（5つのプロセスを意識した授業）を、学び合いのある授業づくりの具体的方策として取り入れてきた。</li> <li>・「思考の過程が見える、表現する力を育てる」を研修のテーマとし、考えてみたい課題、自分の考えを持たせ、考えを出させる手だてを工夫することで、学びを深める子どもをめぐし、授業づくりを進めることができた。</li> <li>・自分の考えを班や全体での学び合いで広める姿が多くみられるようになった。友達との学び合いからもう一度考えて自分の考えを持つことができた。</li> <li>・「授業はわかりやすいですか」という項目の子ども用アンケートでは、97%の数値で高かった。</li> <li>・昨年度に比べ、「授業で学習したことは、将来に役に立つと思う」という項目の子ども用アンケートでは、0.3ポイントあがった。</li> <li>・解決するのが難しい問題に対し、「既習事項をもとに問題解決していくことができた」という項目の子ども用アンケートでは、今年度の7月のアンケートと1月のアンケートでは、3.3ポイント上がった。</li> <li>・自分の考えを書いたり、感想文や説明文を書いたりすることが難しいと思っている子ども達が多い。</li> <li>・各学年の取組を校内研修等で交流し合い、それを日々の実践の授業の中でいかすことで、子ども達が自分の考えを持ち、意見を交流し学びを深める姿がさらに見られるようになった。</li> <li>・校内全体で、朝の会・帰りの会や授業の号令、放送委員会でのアナウンスなど、外国語活動を日常的に取り入れることができた。普段の学校生活の中で簡単な英会話に触れさせることで、英語に興味を持ち、はっきりとした声で発音できる子が増えた。</li> <li>・各学年の実態に応じて、朝の学習・漢字・計算・視写などを学期毎に、計画を立てて取り組んできた。結果、各学年に配当されている漢字の90%以上が書けるようになった児童は、全校児童の98%（2学期）になった。また、各学年の重点とする計算問題についても90%以上の習熟・制限時間内での処理を達成できるように、2学期から取り組みを進めている。</li> <li>・視写の取り組みでは、10分間で何文字書けたかを記録し、学期ごとに指導初期・終期と実施してきた。1～2学期の結果から、どの学年も書ける文字数が増えており、学年目標文字数を超える学年が増えている。富田小中学校区学びの一体化教科部会にて、子どもたちの「課題提示」「ノート作り」について情報交換をする中で、本校児童のノートが、「学習内容が自分の考えと共に、分かりやすくまとめられている」という声があった。集中力や書く力の向上と共に、ノートへのまとめ方といった学習技能にもつながっていることうかがえる。</li> <li>・夏期にICT研修会を実施。デジタルコンテンツ紹介やタブレットPCなどの機器活用法について支援課と連携しながら進めたこともあり、教職員のICT機器の活用場面が増えた。今後は、学力向上をめざし効果的な活用法を共有していく必要がある。</li> <li>・学力学習状況調査結果をふまえ、強み弱みを分析し、全教職員へ周知し、共通理解することができた。尚、調査実施後、早い段階で6年生担任により、自校採点を行ったことで、いち早く学力の傾向を掴み授業改善につなげることができた。</li> <li>・CRT到達度検査を実施。全国平均より高いポイントが多い。学年ごとに強みと弱みを分析し、授業の改善につなげた。</li> <li>・低・中・高学年それぞれの年間読書量のめあてを設定し取り組んできた。読書のあゆみの改訂、読書の時間を定期的にとったり、校内読書週間を設けたり、ボランティアやストーリーテリング団体や教師による読み聞かせをしたことで、多くの児童がめあてを達成することができた。</li> <li>・学校掲示板にて、掲示委員会の掲示物と共に、各学年の学習紹介コーナーを設けている。掲示板の前で立ち止まる子どもも多く、学びの様子が学年内に留まることなく、広がりがつある。</li> </ul>	



重点目標 2	心の教育を充実する。	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「差別を見抜き、差別を許さない主体的に行動できる子」をテーマに、各学年で人権教育の提案授業を行ってきた。各学年で重点教材を明確にし、人権教育を教育年間計画に位置づけ、心の教育を進めてきた。どの学年も子どもの実態に即した学習題材を選び、取り組めた。</li> <li>・毎日の生活や授業の中に、友達を認め合う関係・協力し合う関係を大切にする活動も取り入れた。その結果、個人差はあるが、人の気持ちを考えて行動に移せる子どもが増えてきた。しかし、学んだことが実生活の中で生かされないことがまだある。</li> <li>・仲間づくりレポートをもとに、人権学習・なかまづくりについて教師間で実践交流を図ったことで、学んだことを取り入れた実践を行うことができた。</li> <li>・学校評価アンケートでは、心の教育の充実に関して、「思いやりの心が育っている」という項目では95%、子ども用のアンケートでは93%とともに高かった。今後も実践力をつける取り組みが必要である。</li> <li>・年2回の教育相談、年3回のいじめ調査、4年生以上を対象とした年2回のQ.U調査により、各学級や児童の実態を把握し、その結果を学級経営に役立てるとともに、学年間及び職員間で児童の共通理解を図った。</li> <li>・上記以外にも、職員会議の「児童情報交換」にて、各学級や児童の実態を報告し、職員間での共通理解を図るよう努めた。また、早急に職員間で共通理解を図らなければいけない場合は打ち合わせ等で集まり、共通理解を図るよう努めた。</li> <li>・「学びの一体化」では、保幼小中で気になる児童・生徒の情報交換をおこない、連携を図った。</li> <li>・年3回「ろうかのきまりを守ろう」週間として、ろうかを安全に歩行できるよう、全委員会での取り組みに加え、全教職員で廊下に立ち、校内安全についての意識を高めるように取り組んだ。委員会ごとに工夫をこらし注意を呼びかけるなど成果はみられた。一方、雨の日などは廊下を走ってしまったり、取り組み期間が終わると忘れて走ってしまうという課題が残った。</li> <li>・年2回「ふれあい集会」として“思いやりのある子”の育成をねらいとし、全校児童で取り組んだ。“ふれあい班”の人たちと協力することの大切さや友だちのよさに気づくことができ、上級生は下級生を思いやる気持ちをもつことができた。2回目の集会では“昔遊びコーナー”として「地域の方」にも協力を仰ぎ行うことができた。また、昨年度の反省をいかし、ふれあい集会を行う前に、ふれあい班の学年間で交流する「ふれあい遊び」を実施し、例年より交流の深まりが見られた。</li> <li>・道徳年間計画をもとに、授業進行すると共に、子どもたちの実態に合う教材開発をすることができた。</li> <li>・一昨年度、「ライフスキル教育プログラム」を校内研修にて実施した。その中から目の前の子どもたちに必要な活動をピックアップして実践をした。</li> </ul>	

重点目標 3	たくましい心と体をつくる。	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会をはじめ、かけ足週間、なわとび週間（長縄・短縄）、外遊び週間等の取り組み、体力向上に努めてきた。また、各学期に、体育の授業や外遊びに関するアンケートを児童に実施し、それとともに、「楽しく取り組める」授業の改善に努めてきた。また、授業開始時に5分間運動に取り組んだり、授業終了前には、今日の活動のふり返りを、話したり、書いたりする時間を設定してきた。</li> <li>・およそ9割の児童が「体育が楽しい。」という質問に「はい」「どちらかといえばはい」と回答している。また、「いろいろな運動がありますが、苦手な運動にも一生懸命に取り組んでいますか。」という質問に「はい」「どちらかといえばはい」に回答した児童もおおよそ9割であった。</li> <li>・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実技調査では、5年生男女ともに2年前に測定したときに比べ、ABCの割合が増えた。</li> <li>・「学びの一体化」の体力部会では、体力テストのアンケート結果の分析と運動指導の情報交換、生活習慣アンケートの実施と分析をし、共通理解を図ることができた。</li> <li>・担任を中心とした食育指導、掲示物や給食だよりの取り組みを通して、食の大切さを伝える活動を実施してきた。</li> <li>・歯磨きや怪我の学習などの保健指導に取り組んできた。また、学校保健委員会では、体験的な学習を取り入れ、良い姿勢について考える機会を設けてきた。</li> <li>・各学期に取り組んだ学力向上県民シートを活かし、少しずつではあるが生活リズムを改善することができた。さらなる改善を努めるために、保護者への発信を継続していきたい。</li> <li>・今年度の外遊び週間では9割に近い児童が外で遊ぶことができた。今後も、「外で遊ぶ大切さ」の指導をし、体力の向上に努めていきたい。</li> </ul>	

重点目標 4	学校教育力を高める。	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年で、教材や指導方法について、日頃から話し合い、工夫して授業に取り組んできた。また全体提案授業や学年部研究授業についても、学年で事前・事後に検討し改善することで成果が得られた。</li> <li>・保幼小中合同の全体授業研から、発達段階に応じた指導の手だてを学び、連携した学びを進めることができた。</li> <li>・学年で研修主題を達成するために、5つのプロセスをもとに、問題解決能力の育成を目指した授業づくりを進めるために、考えてみたい課題・自分の考えを持たせる手だてと出させる手だて・学び合いの三つの柱の手だてを話し合い、1年間の取組計画を立てた。年度末には成果と課題を作成する。この手だてをもとに、全体研や学年研をすることで他学年の様子を知ることができ、子ども達への指導にいかすことができる手段となった。</li> <li>・ミニ研修会を行うことで、教師の指導力や技術力を高める手だてとなった。</li> <li>・第2プロセス（問題の特徴づけと表現）と第5プロセス（問題の熟考と発展）を大切に授業展開を行うことを意識して取り組んでいるという項目の教師用アンケートでは数値が高かった。しかし子ども達が、見通しをもって考えるところがまだ弱い。</li> <li>・夏休み等には、特別支援教育の研修を取り入れ、個に応じた手だての方法を学び、各学級の指導に活かすことができた。</li> <li>・授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れ、授業で扱うノートに目標（めあて・ねらい）とまとめ（ふりかえり）を書くように指導した授業に取り組めた。</li> <li>・防災マニュアルをもとに、計画的に避難訓練を実施した。また、防災ノートや防災手帳を活かした学習、地元消防団と連携を図った防災教室に取り組み、防災に対する意識を向上させてきた。</li> <li>・日常の安全意識を持たせるために、防犯に対する教職員研修や、交通安全教室を開催し、さらに意識を向上させたい。</li> </ul>	

重点目標 5	家庭・地域とともに子どもを育てる。	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「家庭学習の手引き」を配付し、4月の学校づくり説明会、6月の懇談会の場でも家庭学習の手引きについての説明を行った。学年通信や学級通信にて、子どもの自主学習ノートを紹介したり、内容についてもお知らせした。その結果、家庭学習が定着している子が増えてきた。一方で、「どのように進めるのか、分からない」「周りのお子さんの自主学習ノートの内容を知りたい」といった保護者の声もあり、家庭協力を一層呼び掛けていく必要がある。</li> <li>・今年度も「環境学習」「地域学習」において、地域の方をゲストティーチャーとしてお迎えし、有意義な学習活動となった。地域教材開発は、徐々に進めてきてはいるものの、教師自身が富田についてより深く知る必要性がある。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<p>【確かな学力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2プロセスや第5プロセスを重視し、見通しをもって解決できる子どもを育てていくために、たくさんの学びや体験をさせられるよう、課題の改善の必要がある。</li> <li>・2年間の取組を通して、表現する姿や学び合う姿がどのように力がついてきたのかを検証し、次への成果・課題として取り組んでいく必要がある。</li> <li>・引き続き、学力学習状況調査やC R T到達度検査などの結果から、強み弱みを分析し、本校職員の周知と共に、学びの一体化教科部会にて、中学校と情報交換を進め、授業改善につなげる。</li> </ul> <p>【心の教育を充実する】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの姿から、今一度、道徳年間計画を見直し、「導入」「展開」「終末」といったより具体性を伴った計画に改訂する。</li> </ul> <p>【家庭・地域とともに子どもを育てる】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「家庭学習の手引き」の配布継続と、通信や懇談会などで「自主学習の方法」や「実際の子どもの学習ノート」などを、保護者に伝えていく。</li> </ul> <p>【たくましい心と体をつくる】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の実技調査を分析し、「運動がおもしろい、楽しい」と感じる体育授業を推進するための教職員の校内研修に取り組む。</li> <li>・生活習慣に関するアンケートを集約・分析し、学校だより等で保護者へ発信する。学級担任を中心とした日常の保健指導・給食指導を通して、健康意識を高めていく。</li> </ul> <p>【学校教育力を高める】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の安全意識を持たせるために、防犯に対する夏季教職員研修を設定したり、1・3・5年で交通安全教室を実施したりして、さらに意識を向上させたい。</li> </ul>
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 日永小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○朝学習の充実では、基礎基本の学習を繰り返し行うことで学力が定着してきた。みえスタディ・チェックで4年、5年ともに正答率が県平均より3%以上上回ることができた。ただ、既習内容でも、少し時間がたって忘れてしまったためにできなかった問題もあったので、朝学習や宿題の中身を工夫して、既習内容をうまく復習できるようにした。</p> <p>○家庭学習の充実（家庭学習+1;プラスワン）では、各学年に応じたプラスワンの取り組み方を掲示し、取り組み内容を充実させることができた。</p> <p>○学び合いのある授業、行事の実践では、グループ活動、ペア活動の時間を増やし、児童が互いに「話す・聴く・考える」ことで気づきあい、学び合うことができた。</p> <p>○司書・ボランティアと連携した読書の取組の推進では、読み聞かせを中心に1・2学期で約20回の図書ボランティアの来校があり、児童が本に親しむことができた。また、家庭と連携した読書習慣の取組を年に2回行い、図書館の利用率を上げることができた。</p> <p>○「日永っ子10の準備」の徹底では、学期のはじめに全員の持ち物をチェックをした。その後は必要に応じて保護者に連絡したりして、揃えられるようにした。今年も「日永っ子10の準備」を学校ホームページに掲載し、いつでも確認できるようにした。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○いじめや差別を許さない態度や判断力、自分や他者を大切にする心の育成の充実では、児童へのアンケートで「他の人を大切にしている」という回答が96%だった。また、保護者へのアンケートでは「児童一人ひとりの人権を大切にしたい教育を進めている。」に95.4%の肯定的回答をいただき、本校の人権教育への取り組みに一定の成果が出ていると分析している。ただ、児童へのアンケートで「自分のことが好きである。」という回答が67%にとどまり、昨年より若干は向上したものの、引き続き自己肯定感を育てる取り組みに力を入れていかなければならない。学年があがるにつれて自己肯定感が下がる傾向があるので、高学年での取り組みの工夫が必要である。</p> <p>○違いを認め合い、互いに育っていこうとする心の育成では、学期はじめや何か気になることがあるときに学年集会を持ち、児童の意識を高めるようにした。また、運動会や長なわ集会などの行事でも仲間づくりを意識した内容にして取り組むことができた。</p> <p>○QU調査等を活用した教育相談の充実では、今年も年2回の教育相談を行い、担任が児童一人ひとりと話す時間を確保し、児童の心の状態を把握し、児童の不安を早期に取り除くことができた。</p> <p>○SC（スクールカウンセラー）の活用の推進では、担任、児童、保護者とカウンセラーが話す機会をとることができ、学校と家庭が連携することができた。また、SCが特別支援委員会に加入し、的確な助言をもらうことができた。</p>	
重点目標 3	健康な心と体の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○体育の授業や体育的行事の充実では、新体力テストを全学年で実施し、その結果分析をもとに体育の授業改善やかけ足・なわとび等の体力づくりに取り組むことで、基礎体力の向上に努めることができたが、昨年度より投げる力を向上させるため、休み時間にドッジボールをしたり、物を握る力を高める遊びや運動を行ったり、体全体を使って投げる練習に取り組んだりした。さらに体力向上のための取り組みが必要である。</p> <p>○安全教育、保健指導等の充実では、手洗い・歯磨き等の保健指導を養護教諭が教室で指導を行うことにより、自分の体や健康に関心を持つとともに、生活習慣を改善していこうとする児童が増えてきた。</p> <p>○あいさつの習慣化では、繰り返し指導することで、挨拶がしっかりとできる児童が増え、地域の方からも褒めていただいた。</p> <p>○社会生活上のルールの徹底では、児童へのアンケートで、85.3%の児童が「学校のきまりをまもっている。」と回答したが、登下校の仕方、廊下歩行等今後も根気強く全職員が一貫した指導を続けていかなければならない。</p> <p>○食育の推進では、全学年で発達段階に応じた食育を行うことで、食についての児童の意識を高めることができた。また、1年生を対象に食アレルギーの学習にも取り組んだ。</p>	

重点目標 4	教職員の資質・指導力の向上	3
主な方策	<p>○校内研修の充実、全員授業公開による指導力の向上では、教員全員が授業公開を行い、事後検討会を通して、子どもたちの学び合う姿、授業の進め方、課題の与え方など本校が授業を行う上で大切にしていることについてふり返ることができた。グループで事後検討会を行ったことで、多くの参加者から発言があり、充実した事後検討会にできた。今年度も全体提案授業以外に他学年の提案授業を積極的に見に行くようにすることで、教師同士の交流が活発になるようにした。授業者にとっては、より多くの先生に見てもらえることで、子どもたちがより意欲的に取り組めるような指導方法や指導形態などに関して様々な助言をもらうことができ、その後の指導に役立った。</p> <p>○全国学力・学習状況調査やCRTの結果分析等を活用した授業改善では、みえスタディ・チェックも含めてそれぞれの結果分析を行い、全職員に周知して以降の授業改善にいかすことができた。</p>	
成果と課題	<p>○少人数指導、IT等の指導の充実、ICT機器の活用では、全学年の算数科で少人数指導・ITを行い、複数の教師の視点で児童を把握し、授業を行うことができた。また、全学年、全教科でパソコンや電子黒板、プロジェクター等のICT機器の活用ができた。その結果、児童にわかりやすい授業が行え、児童自ら授業に参加することが多くなった。ただ、電子黒板が1学年に1台しかなく、必要な時に使えないことがあった。</p> <p>○チャイム席の徹底。45分（90分）完結の授業展開の工夫では、児童に「5分前行動」を徹底させ、教師も授業開始のチャイムに遅れないよう行動した。</p> <p>○保・幼・小・中が連携した授業づくりの推進。キャリア教育の推進では、南中学校校区で歩調をそろえた取り組みを行った。また、中学校の教師が小学校で授業をするなどして、スムーズなつながりができるようにした。6年生が高校でものつくり体験を行った。</p> <p>○校務の効率化の促進では、パソコンを活用した効率化を進めることができた。</p>	

重点目標 5	学校教育力の向上（家庭・地域等との協働）	3
主な方策	<p>○ホームページの充実、通信等の工夫では、学校HPの毎日の更新や学級・学年通信により学校の様子を保護者・地域等に知らせることができた。</p> <p>○ゲストティーチャー、学生ボランティアの活用では、積極的にボランティアを募集し、図書ボランティア、つんつく保存会、学生ボランティアなどに来ていただくことができ、多くの児童が地域の方とふれあうことができた。また、今年度は保護者ボランティア登録制度をはじめ、登録していただいた保護者に家庭科や社会科・総合的な学習の時間の授業支援に入っていた。ボランティアに支援していただくことで学習を深めることができたが、ゲストティーチャーに来ていただく場合は、ねらいを明確に持つとともに、次時にどのようにつなげていくかについても十分に考える必要がある。</p>	
成果と課題	<p>○地域と協働し、交通安全指導、防犯活動等を推進することができた。</p> <p>○今年度は教職員が地域行事等へさらに積極的に参加することができた。</p> <p>○学校公開日や授業参観、学校行事等、毎月学校を公開する日を設け、年10回以上公開することができた。授業や行事等を公開したことで、多くの保護者や学校関係者に参観していただき、学校の様子を知っていただくことができた。また、日頃から家庭との連携を図り、理解と協力を得るように努めた。</p> <p>○年1回の学校評価をもとにした改善活動。年3回の学校づくり協力者会議を開催する。</p>	

## 2 改善方針

<p>○重点目標 1 「確かな学力の育成」 授業の課題とふりかえりをノートに書かせることを徹底する。 日永っこ10の準備の点検を定期的に行うとともに、用具の正しい使用方法を個別指導で徹底する。</p> <p>○重点目標 2 「豊かな心の育成」 自己肯定感を育てる取り組みを人権教育担当、道徳教育推進教師が主になり、全校で計画的に行っていく。</p> <p>○重点目標 3 「健康な心と体の育成」 基礎体力向上のため、休み時間は外に出て、普段から体を動かすようにさせるとともに、体育の始めの5分間運動を徹底する。</p> <p>○重点目標 4 「教職員の資質・指導力の向上」 全体研修会は全教員で行うが、学年研修では、該当学年以外の参加者が少なかったため、積極的に他学年の授業提案にも参加するようにする。</p> <p>○重点目標 5 「家庭・地域との連携」 地域の人材を今まで以上に利用する。指導内容を再点検し、新たなゲストティーチャーを発掘する。</p>
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 四郷小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>○基礎・基本の定着のために、朝の学習・木7スタディー・サマースクール（補充学習）等を工夫し、少人数指導・個別指導にも取り組んだ。その結果「算数の学習がよくわかる」と回答した高学年の割合が昨年より11パーセント増加した。</p> <p>●文章を正確に読み取る力や自分の考えを筋道立てて書く力をつけるための指導について、十分に共通理解を図ることができなかった。</p> <p>○問題解決能力の育成のために、問題解決の見通しの持たせ方の工夫に重点を置き、研修を進めた。</p> <p>○全員が授業公開を行うとともに、ワークショップ形式での研修会を通して、互いに学び合うことができた。</p> <p>○デジタル教材やプロジェクターを活用し、視覚的にわかりやすい工夫ができた。</p> <p>○「家庭学習の忍法の術」（家庭学習の手引き）を配布するとともに、個々の保護者と連携を密にすることで家庭学習の習慣化を図ることができた。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○日常生活の児童の様子をしっかりと観察すると同時に、Q U やいじめアンケート等を活かし、一人ひとりを大切に早急な対応・指導に努めることができた。学校アンケートでは、いじめについて、ほぼ100パーセントの児童が「いけない」と回答している。</p> <p>●縦割り班活動を通して、上級生が下級生を思いやる姿が見えはじめたものの、高学年が日常生活で低学年の見本となる姿勢がまだ育っていない。</p> <p>○校内で「なかまづくりレポート研修」をすることで、学年や学級を超えた児童の実態を知り、対応について考え合うことができた。</p>	
重点目標 3	健康な心と体の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○児童が意欲的・継続的に取り組める行事や授業（水泳指導・運動会・業間かけ足（5分間走）・マラソン記録会・業間縄跳び等）を計画的に実施することができた。</p> <p>○児童会主催のオリエンテーリングで体を動かすコーナーを設けたり、体育委員会で外遊びを啓発する発表を行ったりするなど、児童の側から体力づくりにつながる提案をすることができた。</p> <p>○心も体も大切にできる児童の育成をするため、年間計画に基づいて保健学習や保健指導を実施することができた。</p> <p>○栄養教諭・担任・食育担当が連携して、各学年に応じた食育の授業を実践することができた。</p>	
重点目標 4	特別支援教育の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>○定期的に行われる特別支援委員会を中心に、困り感を持つ児童の状況を全職員で共有し、それぞれの児童のニーズに応じた支援を進めることができた。</p> <p>○数名のチームで校内通級の体制を検討し、調整・改善を行うことができた。</p> <p>●2名の特別支援教育コーディネーターを中心に、適切な指導・支援を行うための情報交換をしたり、ユニバーサルデザインの授業づくりについて学び合ったりすることができたが、ユニバーサルデザインの授業実践を整理し振り返るまでには至らなかった。</p>	

重点目標 5	家庭・地域との連携・協働	4
主な方策 成果と課題	<p>○情報発信（学校HP・学校だより・学年通信等）や学校公開（フリー参観・学習発表会・6年生を送る会のリハーサル公開）等、開かれた学校づくりに努めた。今年度は学校HPをリニューアルし、保護者に分かりやすいものになるよう改善することができた。</p> <p>○クラブ活動（伝統芸能・グラウンドゴルフ・生け花）や外国語活動、各学年の取り組み（1年「昔の遊び体験」、4年「竹とんぼ作り」6年「和太鼓演奏」等）の指導や助言等、学校教育活動の外部講師として地域の方々に協力していただくことができた。</p> <p>○くるがねもち協議会（学校運営協議会）では、なかまづくりや本校の学習習得状況について、学校アンケートの分析結果に基づいて意見交換を行うことができた。</p>	

重点目標 6	教職員の資質・能力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○校内研修の充実のために、県や市のアドバイザーに指導を受けたり、指導案づくりの段階から指導主事等の助言・アドバイスを受けたりするなど、具体的な授業づくりについて学ぶことができた。</p> <p>○地域の施設（四郷郷土資料館・にじ学園等）を見学したり、地域の様々な活動に参加したり、四郷郷土資料保存会と学習会を開催したりと、教職員が地域学習を深めることができた。</p> <p>○学びの一体化の取り組みでは、校区の児童・生徒の情報交換を密にし、実態に応じた対応策について話し合うことができた。6年生については、英語科と体育科での乗り入れ授業を実施し、中学校への期待を高めることができた。</p>	

## 2 改善方針

- すべての学習の基本になる読解力や、文章構成力を向上させるための指導に重点をおいて研修を深める。
- 規範意識を醸成するとともに、日々の言動に表れるように見守り、指導を継続する。
- さらなる体力向上に向け、運動の機会が休日や放課後にも広がるよう発信していく。
- 特別支援が必要な児童のニーズに応じた支援を進めるとともに、ユニバーサルデザインの授業づくりを推進する。
- 学校HPの「各学年のページ」を定期的に更新し、積極的に児童の様子を公開していく。
- 研修の成果を全職員で共通理解し、日々の実践に活かしていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 高花平小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	自ら学び自ら考える力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○アンケートから、自分の意見を友だちに伝えるのが苦手と答える児童が多かった。要因の一つに、学級の友達が、自分を受け入れてくれているかどうかという不安感がある。今後は、「聴く」ことを糸口にしながら、「居心地のよい学級」にむけた取り組みを進めていく。</p> <p>○読書活動は、保護者から高い評価を得た。始業前の「朝の読書」や図書委員や図書館ボランティアによる読み聞かせ等の活動により、読書に対する子どもたちの姿勢は、前向きである。</p> <p>○基礎・基本の定着は、アンケートから、子どもたちは学習に対して「がんばって取り組んでいる。」と読み取ることができる。授業やスタディタイム等で基礎学力定着を図る取り組みの成果が、自信につながっているととらえている。</p> <p>○学校全体として「家庭学習の手引き」を配布し、学年に応じた家庭学習を啓発してきた。家庭学習の提出率は高く、自主学習にも積極的に取り組んでいる。反面、「声かけをしないとはじめない。」等の声も聞かれる。家庭学習の習慣は、各家庭により差異が見られる。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○「人権を尊重し、いじめは差別をなくす実践力の育成」については、いじめや差別に対する行動がとれている。しかし、高学年になるほど、その割合が減少している。これは、指導されてきたことを、頭で理解していても、行動に移すことができないことが、データから浮き彫りになった。今後も、道徳や身近な問題から、自らの生活を振り返る学習を地道に続けていかなければならない。いじめや差別等の学校対応について、保護者の回答が、昨年度までは、「わからない」の割合が多かったが、今年度は「どちらかといえば、そう思わない」が増えている。学校の取り組みが、保護者に伝わるように、たよりやHP等を発信してきたが、十分に伝わっていなかった。</p> <p>○あいさつは、保護者から高い評価が得られた。子どもたちも、自分たちは「きちんとあいさつをしている」意識がある。今後も、教師や保護者・地域が、名前を呼ぶ等、積極的なあいさつを交わしたりして、互いに心地よい気持ちになるように習慣づけていきたい。</p> <p>○OSCの存在が家庭に浸透するようになって、児童や保護者が相談に訪れるケースが増えてきた。子どもたちの心身の発達に関する悩みを受けて、関係機関につなぐ等の成果も出てきている。</p>	
重点目標 3	健康な心と体の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○「健康な心と体の育成」に関しては、今年度も比較的高いポイントが得られた。これは、体育の授業と、ふれあいランドの遊具の充実、そして遠足や運動会、マラソン記録会等、年間を通して体育的行事に取り組んでいる成果と捉えている。</p> <p>○健康や食に関する指導については、家庭科の授業や養護教諭による保健指導を中心に取り組んだ。今後、これらの取り組みを継続・発展させていきたいと考えている。</p> <p>しかし、校舎内で廊下を走っていたり、給食では食材によって好き嫌いをしたりする児童もみられる。</p>	
重点目標 4	地域に貢献する学校、家庭・地域とともにある学校	3
主な方策 成果と課題	<p>○情報公開等に対する保護者の評価は、高かった。学校・学年通信、HP等を定期的に発信更新をしていることが肯定的評価につながった。今後も教育活動に関する情報発信を行っていく。</p> <p>○一方、相談しやすい学校かどうかに関する事項は、保護者ポイントが80%弱にとどまった。保護者と意思疎通が十分でなかったと考えられる。懇談会や家庭訪問等、さらに理解が得られるよう保護者の方と連携を取りながら、子どもたちの指導を行っていけるよう、より一層相談しやすい環境づくりに努めたい。</p>	

## 2 改善方針

○授業の質を高めることにより、学ぶ意欲が、向上すると考える。居心地のよい学級づくりに今後も取り組む一方で、教師側からは、子どもたちが取り組みたくなるような「課題」設定と「振り返り学習」を毎時間行う。

○読書に関する取り組みの成果がでている。図書委員や図書館ボランティアによる読み聞かせ等の活動により、子どもたちがよい本に触れることができるような機会をつくる。

○保護者には、学校の取り組みがわかるように通信等を定期的に更新しているが、今後も、迅速に、丁寧に、正確に、情報提供をするとともに、懇談会や家庭訪問等、さらに理解が得られるよう保護者の方と連携を取りながら、子どもたちの指導を行っていけるよう、対話をしていく。

○子どもたちが、けがや病気にならないように、実践的な指導をし、避難訓練等を通して、自然災害における対応も学ばせていく。



## 自己評価書

四日市市立 常磐小 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>「学校の勉強に進んで取り組んでいますか。」【児童アンケート結果 94%】  「家庭学習をきちんとしていますか。」【児童アンケート結果 91%】  「本をよく読んでいますか。」【児童アンケート結果 86%】</p> <p>○学校全体でノート指導を意識して取り組んできたことで、児童に書く力がついてきた。特に、算数科において絵や図をかき、それを手掛かりにして問題を考えることができるようになった。また、お互いのノートを見せ合い評価し合うことで、自分なりの工夫ができるようになってきた。  ○▲朝の学習では週に一度、図形単元の学習プリントに取り組むことで基本的な内容の定着につながった。また、月に一度の読書週間を入れていくことで、読書に親しむ児童が多くなってきたが、読む本の内容に偏りがある。  ▲家庭学習において宿題をこなすことはできていても、自主的に学習に取り組む割合はそれほど高くないので、自主学習を週に二度、宿題とすることでその充実を促すようにしている。</p>	
重点目標 2	心の教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>「掃除中は「さ・し・す・せ・そ」を守れていますか。」【児童アンケート結果 84%】  「あなたは、相手の気持ちを考えた話し方や行動ができましたか。」【児童アンケート結果 95%】  「あなたは、自分のことを大切にだと思いますか。」【児童アンケート結果 95%】</p> <p>1. 豊かな人間性の育成（基本的生活習慣の定着と個々の良さが発揮できる場づくり）  ○委員会活動との連携を図った清掃指導により、低学年は高学年を手本として取り組むことができた。チャイム着席など学校生活のルールを守って授業に取り組むことができていた。校内のごみをひろう児童が6年生にいたりするなど、自主的に行動できる高学年の児童がいた。  ▲「さ・し・す・せ・そ」清掃のうちの「しゃべらずに」ができていない一部の児童がおり、指導の改善が必要である。  2. ちがいを認め合い、仲間と共に生きる力の育成（人権教育・道徳教育の充実、自分の生き方につながる総合的な学習）  ○行事を通して、学年や学級でまとまったり、同じ目標に向かって協力して取り組もうとする姿が見られた。  ▲学習指導要領改訂を見据えた実施方法の検討が必要となる。年間指導計画の立案と、学年の実態に応じた見直しを行う必要性が予想される。  3. きめ細やかな児童理解（積極的・継続的な家庭訪問、Q-U調査やいじめ調査等をもとにした問題の早期発見・早期対応）  ○調査の結果をもとに、大きな問題に発展する前に学年での情報交換や問題への対応を行うことができた。  ○特別支援委員会を新設することで、支援を要する児童に対するより適切な支援方法の検討と情報共有を図ることができた。  ▲Q-U調査の分析や活用のしかたについての校内研修会を行うと、さらに効果的に活用できると感じた。</p>	
重点目標 3	体力、健康・安全意識の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>「体育の授業に一生懸命に取り組んだり、休み時間に進んで運動をしたりしましたか」【児童アンケート結果 92%】  「早寝・早起き・朝ご飯・毎日の歯磨きを守れていますか」【児童アンケート結果 88%】  「給食を残さずに食べていますか」【児童アンケート結果 90%】</p> <p>○マラソン記録会やなわとび集会などの行事を通じて、自分の目標に向けて記録を伸ばそうと努力する姿が見られた。  ○体育委員会が中心となって体力アップをめざした取り組みで、遊び感覚で運動を楽しむことができた。  ○のぼり棒にペンキで色を塗ったり、バックネットに投てき用の的をとりつけたりして、体育の時間に活用することができた。  ▲業間マラソンをもっと体育の授業とつなげる。ペース走の指導を体育の授業でしっかりとて、それを業間マラソンに活かせるとよい。  ▲体力テストの結果から、ボール投げや持久力をあげるための具体的な取り組みを、学校全体で取り組んでいく。  ○▲けがによる来室者数は、随分と減少した昨年度とあまり変わらない。ただし、病院で診察してもらったのは多かったので、さらに安全意識を高めていく必要がある。また、体育の授業で場の安全に対して、教師の意識を高めていかなければならない。  ○給食後の歯磨き指導により、歯磨きに対する意識が高まった児童や保護者がいる。ただ継続して毎日やるのは難しいので、期間を決めたり、曜日で分けたりするなど、取り組み方を検討する必要がある。  ▲早寝・早起き・朝ご飯に対する意識を高めるために、保護者に対しての啓発も必要である。また高学年の睡眠時間の改善のために、ノーゲームdayをもっと設定してもよいのではないかと。  ○食育指導の後は、給食を食べる際に、授業で学んだことが話題になったり、残さずに食べようとしたりと、食べることに對しての意識を高めることができた。</p>	

重点目標 4	保護者・地域との連携の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>「学校は、教育活動の様子や情報をわかりやすく伝えていると思いますか」【保護者アンケート結果 89%】  「全体的に見て学校の教育活動に満足していますか」【保護者アンケート結果 92%】</p> <p>○学校だより・ホームページによる発信、授業参観・個別懇談会、学校行事など保護者が月に1回程度来校する機会の設定により、連携を図っている。  ▲1学期の学級懇談会、2学期の個別懇談会（希望制）の出席率、PTA学年行事の参加率などから、学校教育への参画意識が高いとは言えない。</p>	

重点目標 5	校内研修の推進－教職員の資質・能力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>「学校の勉強進んで取り組んでいますか。」【児童アンケート結果 95%】  「おさんは授業の内容を理解していると思いますか。」【保護者アンケート結果 85%】</p> <p>○全員が年1回以上の研究授業を行い、三重大学教授と連携して、7回の授業研究会を実施し、具体的な場面を取り上げた検討をすることができた。  ○授業公開週間を各学期に1回設定したり、外部講師を招いてに各学級の日常の授業に対する助言をいただいたりして、実践を公開し交流することができた。  ○校内の教師が講師として、校内のニーズに合わせた研修会を行うことができた。  ●授業を教師間で見合い、意見を交流することを日常的に根付かせることができなかった。来年度は方法を工夫して学校の研修文化として根付かせていきたい。</p>	

## 2 改善方針

<p>重点目標 1 確かな学力の定着に向けて</p> <p>①C R T、学力調査の分析結果をもとにして、重点課題を決めて朝学習の充実や学習環境整備をはかる。  ②主体的に家庭学習に取り組めるように、自主学習の進め方の指導、家庭との連携を進める。</p> <p>重点目標 2 心の教育の推進に向けて</p> <p>①子どもたち一人一人の居場所づくりや子どもたち同士の絆を深める日々の実践を進める。  ②特別支援委員会が中心となり、児童理解や指導法に関する情報共有や発信を行う。</p> <p>重点目標 3 体力、健康・安全意識の向上に向けて</p> <p>①体力テストの結果を踏まえ、重点課題を決めて授業改善に取り組む。  ②安全意識の向上のため、教職員の危機管理意識の向上と日常的指導の徹底を進める。</p> <p>重点目標 4 保護者・地域との連携の推進に向けて</p> <p>①保護者アンケートの集計結果に対して、組織的な検討・継続的な改善を行う。  ②生活リズム改善・カリキュラムマネジメント（学習支援）・不登校対策を柱とした家庭や地域との連携をはかる。</p> <p>重点目標 5 教職員の資質・能力の向上に向けて</p> <p>①授業公開の日常化と研究実践の交流の充実をはかる。  ②重点課題や教員の要望にもとづいた校内研修会の充実をはかる。</p>
---

【様式 1】

## 自 己 評 価 書

四日市市立 内部小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	考える力の育成～学び合う授業づくり～	3
主な方策 成果と課題	<p>(主な方策) わかる授業・楽しい授業をめざす コミュニケーション能力を育てる 読書を楽しむ子供にする 家庭学習の定着を図る</p> <p>(成果と課題) 算数科を窓口とした校内研修「子どもの気づきをつなぐ授業づくり」をテーマに、思考力・表現力を高める授業づくりを行ったり、月1回「朝の学習」週間を設定し、各学年の課題に合った算数科等の学習を取り入れたりすることで、基礎的な学力の定着を図ることができた。家庭学習の定着も84%で、ほぼ身に付いている。進んで学習をしていると答える児童も84%で、自ら意欲的に学習しようとする児童も多い。読書を好む児童は86%であるが、家庭で読書をする児童は51%であるので、引き続き、月1回の「ノーテレビ・ノーゲーム」の取り組みとともに、家庭での読書習慣の向上に向けて保護者との連携を図っていきたい。</p>	
重点目標 2	人とつながる力の育成～ともに生きる仲間づくり～	3
主な方策 成果と課題	<p>(主な方策) 基本的な生活態度を身につけさせる 道徳教育・人権教育を充実させる 特別支援教育の体制づくりを充実させる</p> <p>(成果と課題) 全職員で「内部っ子のきまり」をもとに、学校生活のルールを守って生活するために、統一した基準で指導することができた。委員会(児童会を含む)を中心に、あいさつや清掃について啓発活動を行うことで、子どもたちの意識も高くなってきている。児童(清掃90%)と保護者(身の周りの整理・整頓55%)のずれがあるため、学校としての取り組みについても家庭に情報発信する必要がある。自分のことが好きという児童が78%で、自尊心や自己肯定感が低い実態があるため、すべての教育活動で一人ひとりを認め合う機会を設けていきたい。</p>	
重点目標 3	健康で安全な生活をつくる力の育成～健康なからだづくり～	3
主な方策 成果と課題	<p>(主な方策) 健康な生活や食生活への関心をもたせる 体育的行事や体育の時間を通して、体を動かす気持ちよさを味わわせる 子どもの安全意識を高める</p> <p>(成果と課題) 「早寝・早起き・朝ごはん」については、毎年、児童・保護者の意識は高く、87%の家庭で実践することができている。テレビやゲーム等の使用は、家庭でルールを決めて守っているかについては、児童82%、保護者69%であり児童と保護者の意識のずれがあるため、家庭読書とともに、チェックシートのより効果的な活用方法を探り、家庭への啓発を図っていきたい。</p> <p>安全に気を付けて生活している児童が96%、保護者が92%であり、引き続き、危険予測・危機回避能力の育成を図っていきたい。</p>	

重点目標 4	家庭・地域とともに歩む学校	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(主な方策)</p> <p>地域の特色ある教材を各学年の教育課程に位置付ける 地域住民の教育への参画を進める 学びの一体化を推進し、内部中学校区で一貫した教育を目指す こどもと向き合う時間を増やす 通信やホームページによる情報発信に努める</p> <p>(成果と課題)</p> <p>各学年の活動（1年・昔の遊び伝承 2年・秋と遊ぼう（工作活動） 3年・うどん作り体験 4年・校内剪定作業 5年・米作り 6年・戦争体験聞き取り）において、地域の方々にお世話になり、内部地域ならではの学習が定着し、学習内容も充実している。「ありがとう集会」は、地域の方々に感謝する機会として、全校で取り組む伝統的行事になっている。また、保幼小中の情報交換や授業交流を積極的に行うことができ、今後も共通理解を深めて取り組んでいきたい。</p>	

## 2 改善方針

・全ての児童にとって、わかりやすい授業を行うことを常に考え、ICTの活用、少人数教育、TTを効果的に取り入れての学習に取り組み、引き続き、校内研修も充実させいきたい。

・基本的な生活習慣の確立のためにも、「ノーテレビ・ノーゲーム」について、家庭と密に連携し、児童がより意欲を持って取り組めるような設定を検討していきたい。

【様式 1】

## 自己評価書

四日市市立 小山田小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	めざす子どもの姿①豊かな心を育む子ども	3
主な方策 成果と課題	<p>①自尊感情や思いやりの心を育みます。【道徳・人権教育・学級会・いいところ見つけ】</p> <p>②学習や活動を通して、相手のよさに気づき、相手の立場に立つことの大切さを学ばせます。【班活動・班学習・係当番活動・休み時間・学級レク】</p> <p>○年 2 回の Q U 調査や教育相談などで児童理解に努めた。 ○たてわり班の活動を通して、低学年児童に対する思いやりの心を育てることができた。</p> <p>●児童アンケート「自分のよいところをわかっていますか。」で肯定的評価が 80.9%と昨年度よりやや下がっている。道徳教育、人権教育のさらなる充実を図り、一人ひとりを大切にしたい教育活動を継続して進めていく必要がある。</p>	
重点目標 2	めざす子どもの姿②確かな学力を育む子ども	3
主な方策 成果と課題	<p>③個に応じたきめ細やかな指導と評価を行い、学習の成果や学力の伸びを認め、励まします。(個別指導、机間指導、ノート点検、少人数指導)</p> <p>④朝学習や家庭学習に継続的に取り組み、基礎基本の定着を図り、学力向上に努めます。【あさかぜタイム・家庭学習の習慣化】</p> <p>⑤学年に応じた本に親しませて、人に内容や感動を伝える意欲や力を伸ばします。【朝読書・図書の日・図書館まつり・読書感想文】</p> <p>○T T の体制がとられていた為、個に応じた指導ができ、子どもの意欲や反応に幅広く対応することができた。また、家庭学習のチェックや見直しの指導を迅速にしていねいに行うことができた。</p> <p>○読書支援員や図書館司書の読み聞かせ等の活動により、児童に本に親しむ意欲や習慣が身についてきた(児童アンケート肯定的評価 94%)</p> <p>●自分の考えを文章で表現する力をさらに伸ばしていく必要がある。 ●家庭学習の習慣が定着していない児童について、さらに家庭と連携して取り組む。</p>	
重点目標 3	めざす子どもの姿③健康な心と身体を育む子ども	3
主な方策 成果と課題	<p>⑥運動の量と技能を高める体育を通して、楽しみながら体力向上を図ります。【体育科・5分間運動・かけ足・なわとび・業間遊び】</p> <p>⑦保健指導や食育を通して、健康な生活習慣や食習慣や育てます。【保健指導・学校保健委員会・給食指導・食育の授業】</p> <p>⑧行事を通して、自立する力(生きる力)、仲間と協力する力(共に生きる力)を育てます。【芋煮会・運動会・遠足・なかよしタイムなど】</p> <p>○体育の時間、5分間運動に意識して取り組むことができた。 ○体育委員会が呼びかけて、20分休みに体力向上の取組を行うことができた。 ○栄養職員が、毎日の給食時間に低学年中心に巡回したことで、食に対する意識が向上した。 ●食に対する意識は向上したが、全体的に、給食の食べ残しを無くするという意識は若干低下傾向にある。</p>	

重点目標 4	めざす教職員の姿 「教育への使命感を自覚し、自らの人権感覚を問い、家庭・地域と共に歩む教職員」	3
主な方策 成果と課題	<p>②道徳・人権教育に計画的に取り組み、授業参観で年に1回は公開し、家庭との連携を図ります。【道徳・人権教育・特別支援教育】</p> <p>③子どもの変容にアンテナを高くし、問題の早期発見・対応に努め、報告・連絡・相談を密にします。【Q U・教育相談・家庭訪問・児童理解・生徒指導】</p> <p>⑥めあてと振り返りを意識した達成感のある授業づくりに努め、確かな学力を育てます。【わかる授業の促進・少人数指導（T・Tなど）】</p> <p>⑩保護者や地域等と連携し、教育効果を高めます。【地域学習・学習支援・学びの一体化】</p> <p>○全校で道徳年間計画やE S Dの計画を見直すことで、より意識をもって指導を進めることができた。家庭に対しても折に触れて通信等で働きかけを行った。</p> <p>○問題の早期発見・対応に努めた。児童の実態に応じて、迅速に家庭訪問をし、児童理解と指導に努めた。</p> <p>○各教科の授業で「めあて」と「振り返り」を大切にして指導の統一を図った。</p> <p>●地域と連携した活動は、日常的に行っている。今後は、各学年で「これだけは」と重点的に何か的を絞った取組を模索していくことも必要である。</p>	

重点目標 5	めざす学校の姿 「人権が大切にされ、安心して学べる学校。地域に開かれ信頼される学校」	3
主な方策 成果と課題	<p>①教職員の人権感覚や指導力などの向上のために、研修と改善に継続的に取り組みます。【研修・授業研究会・校内巡視・学校評価】</p> <p>②安全のための環境整備や指導を行い、問題の早期発見・対応に努め、報告・連絡・相談を密にします。【危機管理・防災・防犯・交通安全・避難訓練・命の学習】</p> <p>③あいさつ・清掃・整理・整頓に率先して取り組み、気持ちよく学習できる環境づくりに努めます。【あいさつ運動・清掃活動・美化励行・花壇整備】</p> <p>④学校公開・運動会・作品展・学習発表・たより・HPなどで、子どもたちの取組や様子を紹介します。【学校公開・運動会・学習発表・情報発信】</p> <p>⑤読書活動・クラブ活動・地域学習などで保護者や地域の支援のもとに、効果的な学習を高めます。【読み聞かせ・クラブ活動・学習支援・芋煮会】</p> <p>⑥P T A・学校づくり協力者会議・地域団体・関係機関と連携して、子どもたちの成長を見守ります。【あいさつ運動・親子下校・親子D E人権・親子除草】</p> <p>○安全・安心な教育環境整備に努めた。</p> <p>○あいさつや掃除に対する子どもたちの評価は、昨年度より上がっている。特にあいさつは友だちや地域とつながる大切な力でもあるため、さらに向上させたい。</p> <p>○地域学習では、学習支援員として保護者や地域の方にご協力いただき、より意欲的な学習につなげることができた。</p> <p>○毎月の親子下校や天候不順時の登下校など、保護者・地域の協力があり、子どもたちが安心して通学することができた。</p> <p>●保護者・地域への情報公開・情報発信の機会をさらに増やしていきたい。</p> <p>●危機管理意識の向上を全職員でさらに図れるようにしていきたい。</p>	

## 2 改善方針

<p>・本校の教育活動全般について、昨年度より4ポイント増の95.8%の保護者から「全体的に満足できる」と肯定的評価をいただいた。また、「わかりやすい授業を工夫していると思うか」には、昨年度より4ポイント以上増の94.6%の方から、家庭学習については昨年度並みの92.9%の方から肯定的評価をいただいた。今後もさらに、職員一人ひとりが研修に励み、興味が持てるわかりやすい授業づくりや指導に努めるとともに、保護者と連携しながら、学力向上や健康づくりの歩みを進めていきたい。</p> <p>・「本に親しむ子を育てているか」については、昨年度より5ポイント増の97.6%の肯定的評価をいただいた。学校では、「あさかぜタイム」で朝の読書の習慣化、なの花文庫（市立図書館との連携）、学校図書館司書によるブックトークや読書支援、委員会を中心とした図書館まつりの取組を行っている。これらに加え、読書支援員による絵本や紙芝居の読み聞かせも、本と出会う貴重な機会になっている。今後も継続して取組を進めていきたい。</p> <p>・年々新たな取組が増えてきている。少ない教職員で、すべての教育活動の質が下がらないように取組を進めていくが、年間計画や各種行事の見直しも必要不可欠である。</p>
--

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 河原田小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力と体力の向上をめざす	3
主な方策 成果と課題	<p>〔主な方策〕</p> <p>①基礎学力の定着・向上 ②学習集団の育成 ③少人数教育の充実 ④体育科の授業の充実と体力の向上 ⑤生活リズムの確立と健康への意識向上</p> <p>〔成果と課題〕</p> <p>①全体研修会で、全学年の算数における数直線図を書き出し、系統的な指導について話し合った。また、わからない言葉等を自分で調べる習慣も身につけてきているため、より調べやすい教室環境を整えていく。 ②聴き合う関係にこだわって学級を作っていくことで、学習にも落ち着いて取り組むことのできる学習集団となっている。「つまり」「でもね」で聴くなど、より高いレベルでの聴き合う関係作りをおこなっていく。 ③特に高学年の算数の学習においてもっと少人数教育の体制を整えていきたい。 ④学期に1回体力向上週間を設け、体育委員会の児童に外での遊びを企画・運営させることで、学校全体で体力の向上に向けて取り組むことができた。また、体育の授業研究会や実技研修会を通して体育の授業力向上を現状を目指した。現状を維持していきたい。 ⑤保健主事を中心とし、ミニ研修会をおこなうことで健康に対する教師たち自身の知識を付けた。アウトメディアのチェックシートを使い、保護者の協力も得ながら取り組んだ。継続して続けていく必要がある。</p>	
重点目標 2	思いやりのある心を育てる	3
主な方策 成果と課題	<p>〔主な方策〕</p> <p>①系統だてた道徳・人権教育の充実 ②特別支援教育の充実 ③生徒指導の充実 ④安全意識の向上</p> <p>〔成果と課題〕</p> <p>①仲間づくり研修会において、他学級の取り組みなども知ることで、各学級における効果的な取り組みを考えることができた。「どんな集団を目指すか」というゴールイメージを明確にもって今後も取り組んでいく。 ②特別支援研修会において自分たちの困り感を具体的に出し合い、手立てを考えることで、子どもたちに返すことができた。今後も外部から講師の先生を招くことにより考えを深めていく。 ③気になる児童についての情報交換を定期的におこない、全職員で共通理解をもって子どもたちと接することができた。 ④訓練を通して継続的に意識付けをおこなってきた。訓練以外でも、自然災害があった時などに何度も繰り返し指導していく。</p>	
重点目標 3	地域や保護者と連携した学校づくりを進める	3
主な方策 成果と課題	<p>〔主な方策〕</p> <p>①保護者・地域への情報発信 ②学校評価の活用 ③安心・安全な学校づくり ④地域ボランティア等との交流活動の推進</p> <p>〔成果と課題〕</p> <p>①各学年における取り組みやイベントなどをHPに更新した。保健のアウトメディアについてHPでお知らせした。 ②学校アンケートを年1回実、児童アンケートを年3回施し、その結果を全職員で真摯に受け止め、反省や回答、改善に努めてきた。 ③今後も、登校指導や下校指導など、日常的に取り組めることにどんどん取り組んでいく。 ④近隣の高校や、みかん畑の方などに大変お世話になった。今年度お世話になったボランティアの方々を一覧にしておき、来年度もお願いできるように整理しておく。</p>	

重点目標 4	教職員としての資質を向上させる	4
主な方策 成果と課題	[主な方策] ①子どもの学びの追究 ②三重大学との連携 ③各種研修の推進 ④学びの一体化の推進 [成果と課題] ①授業公開週間で教師同士が授業を見合い、互いにコメントすることによって子どもの学びをより深められる授業改善をおこなうことができた。 ②三重大学との連携のなかで、理論を背景とした適切な助言をいただき、日々の実践に活かしていった。引き続き理論を背景とした実践をおこなっていき、教師力を向上していきたい。 ③体力向上研修会、全体研修会、特別支援研修会。30分間のミニ研修会等、様々な視点からの研修会をおこなった。 ④学びの一体化のそれぞれの部会で、話題になったことを職員会議の場等で情報交換し、指導に活かした。保幼小中途切れない指導のため継続したい。	

## 2 改善方針

- 重点1 確かな学力と体力の向上をめざす
  - ・基礎学力の定着、向上→家庭学習の定着、レベルアップ。自主学習（プラスワン）の推進。
  - ・学習集団の育成→教師や友だちの話を「つまり」や「でもね」で話せるレベルで聴く関係作り。
  - ・少人数教育の充実→引き続き効果的な少人数授業の形を探る。学力差への対応。
- 重点2 思いやりのある心を育てる
  - ・人権、同和教育の充実→ゴールイメージ（どんな集団を目指すか）の明確化。それに向けての取り組み。外部講師を招き、自分たちにはない視点を与えてもらう。
  - ・特別支援教育の充実→専門的知識を深め、子どもの見取りの視点を持つ。
  - ・生徒指導の充実→引き続き全職員での共通理解を徹底していく。教師がいなくても自分たちで考えて動ける働きかけ。
- 重点3 地域や保護者と連携した学校づくりを進める
  - ・地域ボランティア及び交流活動の活用→地域ボランティアの方々から学んだことを通してキャリア教育を推進する。
- 重点4 専門職としての資質を向上させる
  - ・子どもの学びの追究→授業を公開し、互いに学び合うことで授業力を高めていく。
  - ・各種研修の推進→今後も継続的に研修を続け、専門性を高めていく。



【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 川島小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「問題解決能力向上を目指した授業づくりの研究」を校内研の主題に四日市モデルを活用した授業づくりを進めてきたことで、職員の間には学習活動の在り方を意識した授業の組立が定着しつつある。学び合いの手法も取り入れ、児童の「わかる」「できる」につながりつつある。</li> <li>○朝の学習や授業での繰り返し学習によって基礎的基本的な学習内容の定着を図ることができた。</li> <li>○「家庭学習の手引き」をもとに毎日の家庭学習を習慣づけている。</li> <li>○校内研修については「問題解決能力向上を目指した授業づくりの研究」2年目であり四日市モデルを活用した継続した取り組みが必要である。</li> </ul>	
重点目標2	豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Q-U調査を実施し、その見方や活用の仕方を研修した。毎回学級ごとで教育相談も実施し児童一人ひとりと話す機会を持って児童の思いをとらえるようにしてきた。</li> <li>○いじめ調査を学期ごとに実施し、いじめの早期発見・早期対応・解決に向けた取り組みができた。児童・学級の問題を全職員で共有し学年団を中心に協力して対応することができている。</li> <li>○人権教育・道徳教育の公開授業を学年1クラスずつ提案し、児童や学年の課題を探りいじめや差別を許さない態度の育成に努めた。</li> <li>○仲間づくり・学級づくりでは、一人ひとりの思いや考えが大切にされる集団づくりをめざし自分から進んで発言する児童が増えているが、高学年では課題が残る。</li> </ul>	
重点目標3	健康で安全な生活を送る力の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○外で遊んで運動に親しめるよう「全校外遊びデー」の取り組みを行い、週に一度は全校児童が外に出るようにして学級遊びや全校縄跳びに取り組んだ。</li> <li>○跳び箱・ハードル走・水泳など学年ごとに系統性を持たせ、各自の目当てを意識させて体育の授業をすることができた。</li> <li>○不審者対応訓練では職員が不審者を演じ教室に突然入ってくることで、実際の状況に似た設定で避難の仕方を確認することができた。</li> <li>○規範意識を高く持たせ、廊下を走らない・室内で暴れないなどルールを守らせることで校内でのけががないよう努めた。けがの発生は抑えられたが、廊下歩行等課題が残る。</li> </ul>	
重点目標4	特別支援教育の充実	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○月に一度の校内支援委員会を開き、支援の必要な児童の状況を共有し、どんな支援が有効か、また、できる支援は何か協議できた。SC来校日に開催できず、専門的な見解は会議の中で直接聞けなかったため、次年度は開催日を検討していく。</li> <li>○地域コーディネーターや通級指導の先生・あさけ自閉症・発達支援センターの方からもよりよい支援について助言を受けそれぞれの場面で実践した。</li> <li>○保育園・幼稚園からの申し送りや学級での指導から支援が必要と思われる児童について、保護者に連絡をしてU-8や通級につなげることができた。次年度入学児童についても園への聞き取りをし、入学当初から支援の在り方を探ることができている。</li> <li>○学校規模が大きく児童にかかわる職員も多いので、情報が素早く共有できるよう今後もコーディネーターや管理職への報告の徹底を継続する必要がある。</li> </ul>	

重点目標 5	読書活動の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>○ 学期に1回ずつの読書週間を位置づけたり、図書館まつり・ブックトーク・絵本劇場などを開いたりしながら児童の読書に対する関心を高めることができた。</p> <p>○ 図書館ボランティアのブックママの協力によって図書委員が行う読み聞かせの指導などもしていただき読みかせをする側にも意欲づけができた。</p> <p>○ 図書室の蔵書冊数の維持のほか、児童に人気の本や、いま読ませたい本を計画的に購入し、学級文庫の充実にも努めた。学級文庫用貸し出しを継続することで図書室に行かなくても本に親しめる環境づくりができた。</p> <p>○ 学級文庫の充実等により、さらに読書活動を推進させられるような環境整備をしていく必要がある。</p>	

重点目標 6	指導者の資質向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○ 一人一提案を原則に学年で指導内容や指導方法について吟味し、授業研究を進めることができた。</p> <p>○ 研究授業の際は、事後検討会を小グループで開き、全員が意見を言うようにした。また、話し合ったことやグループごとの意見を模造紙にまとめて発表することで共通理解を図った。</p> <p>○ 学年や指導部会の中で意見の交換をし、若手教員がミドル教員やベテラン教員から指導法や保護者対応・会議の提案文書の作り方・効率的な事務仕事の仕方などを学んだ。</p> <p>○ 問題が発生した時は事案の内容を共有し、一丸となって対応できた。</p> <p>○ 教育アドバイザーの制度を活用し、経験の浅い教員の力量向上に努めた。</p> <p>○ 各種研修会に積極的に参加することができた。また、担当者研修会参加者からは還流報告を受けることができた。</p> <p>○ 日常的な教育活動に関するOJTが推進できるような時間を確保する必要がある。</p>	

重点目標 7	開かれた学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>○ 学期ごとに学校づくり協力者会議を開催し、地域の方から意見をいただく機会を持った。</p> <p>○ 年間3回のオープンスクールのほか年間3回の授業参観日を設け、保護者が児童や授業の様子を見られるようにした。</p> <p>○ 学校便りや学級通信を発行するとともにホームページでも学校からの情報を発信できた。</p> <p>○ 生活科や総合的な学習の時間を利用して人権教育・障害者理解教育・郷土教育などの授業で地域の方や市民センターから紹介された方ゲストティーチャーとして招くことができた。</p> <p>○ 地域保護者の要望に応えられるよう、今後も各種通信やHP等を活用した情報発信が必要である。</p>	

## 2 改善方針

- ・ 次年度も引き続き校内研修を充実させ児童の「わかる」「できる」につながる授業づくりに励む。
- ・ 規範意識、自尊感情の高まりがアンケートからも見て取れるが、高学年では低めであるという課題も残るので一人ひとりの思いを大切にしつつ集団としてのルールやマナーの指導を充実させる。
- ・ 学年ごとに系統性のある体育の授業の充実や児童会活動・委員会活動と連携して体力づくりや健康づくりを目指す。
- ・ 特別な支援を必要とする児童についての情報を共有し、専門的立場からの助言をいかすためSC来校日の校内支援委員会開催を目指す。
- ・ 高学年での読書意欲の高まりをめざしブックトーク対象学年を検討する。
- ・ 経験の長い職員から若手へのアドバイスがしやすいよう何でも言い合い話し合える職員集団であることを維持していく。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 神前小 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	同和教育の推進	3
主な方策	<p>同和教育はすべての教育の原点であり、自分を豊かにしてくれる教育、自分が好きになる教育、なかまを大切にできる教育である。全学年が「つながり」をテーマとし、人権について学ぶ人権総合学習（生活科）に取り組んだ。人権集会を学校公開として年2回行い、こうした取り組みを保護者・地域の方にも伝えている。1回目は活動の方向性、2回目は1年間の活動報告と位置付けて行った。また「友だちからなかまへ」をなかまづくりのテーマに、遊び・日記作文指導・達成感を持たせる取り組み・QU調査の活用に取り組んだ。学年部・学校全体で分析を行い、学級のなかまづくりの中心になる児童を全職員で共通理解をして進めた。また、地域の人権活動に教職員も参加し、地域の中でも人とつながるように取り組んだ。</p> <p>保護者アンケート該当項目（4段階評価平均、後ろの数字は4年～6年児童の平均）  ○子どもさんは、自分や友だちを大切にしていますか。（3.57 3.9）  ○子どもさんは、学校へ喜んで登校していますか。（3.52 3.4）  ○学校は、自分の命や友だちの命を大切にできる教育を進めていますか。（3.53 3.4）</p>	
成果と課題	<p>4年～6年児童アンケートのみの該当項目  ○あなたは、友だちとの関わりを考えながら行動していますか。（3.4）  ○あなたのクラスには、いじめや仲間はずれはありませんか。（3.5）</p> <p>【成果】「つながる」をテーマにさまざまな取り組みを行い、なかまづくりを意識して授業づくりを考えてきたことで、友だちとの関わりを考え、いじめや仲間はずれのない学校にしたいという思いを子どもたちと共有することができた。また、学級通信をどの学級でも定期的に発行することができ、その結果が上記項目の評価を押し上げる結果として現れたのではないかと考えている。</p> <p>【課題】発達障害を起因とする荒れの姿や家庭背景からくる課題を抱えている児童の様子があり、学級経営・生徒指導の難しさを感じた。医療機関・スクールカウンセラー・教育支援課とも連携し、「つながり」を大切にできるように、これからも指導を続けていきたい。</p>	

重点目標 2	学び高め合う授業づくり	4
主な方策	<p>教え合う授業から学び合う授業を目指してきた。自分の考えを持ち、ペア・班で話し合い、学級で考えを出し合い、聴き合い、「分からないので教えて。」と言える授業を追求してきた。また、授業研修では全体研修・学年部研修ともに共通のテーマを設定し、それぞれの研修をつなげて進めていくように心がけた。また「聴く・話す」の6年間の系統表で大切にしていることを確認し、目の前にいる子どもたちの実態から手立てを考えていくようにし、全校で同じ方向を向いて子どもの育ちを確かめていくように取り組んできた。</p> <p>保護者アンケート該当項目（4段階評価平均、後ろの数字は4年～6年児童の平均）  ○子どもさんは、聴く力が育っていますか。（3.11 3.5）  ○子どもさんは、思いや考えを話す力が育っていますか。（3.14 3.4）</p>	
成果と課題	<p>4年～6年児童アンケートのみの該当項目  ○あなたは、わからないことは先生や友だちにたずねることができますか。（3.6）  ○あなたは、友だちと協力したり、助け合ったりして学習していますか。（3.7）</p> <p>【成果】学び合いの授業を通して学力の向上を図るために、考えたくなる課題づくりとその提示の工夫、自分の考えを持たせること、授業者がどこに学び合いを仕組んだかを共通の研修課題として取り組んできた。学び合いの授業を通して子どもたちが「わかった。」と言える授業づくりを意識するようになり、結果子どもたちも自分たちで考え合う授業展開を期待している様子がわかってきた。</p> <p>【課題】さらに研修の積み上げを継続しなければならない。新しく加わる教職員もいるので、年度当初に学び合いの授業のイメージづくりと共通テーマの理解を研修・学習指導部を中心に進める必要がある。</p>	

重点目標 3	基本的な生活習慣の定着	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>朝の帯タイム・はげみ学習・家庭学習の定着・読書活動の推進など学力向上の取り組みや、体力向上集会・かけ足・縄跳びなど体力向上の取り組みを進めてきた。また、掃除の徹底、その支援に取り組み、基本的な生活習慣の定着にも取り組んだ。</p> <p>保護者アンケート該当項目（4段階評価平均、後ろの数字は4年～6年児童の平均）  ○子どもさんは「読み・書き・計算する力」が身についていますか。（3.53 3.7）  ○子どもさんは、家庭学習（宿題・自主学習・読書など）が身についていますか。（3.08 3.4）</p> <p>4年～6年児童アンケートのみの該当項目  ○授業で学習したことは、将来役に立つと思いますか。（3.7）  ○将来の夢や目標を持っていますか。（3.6）  ○先生は、わかりやすく授業をすすめてくれていますか。（3.7）</p> <p>【成果】家庭学習の目安となる時間以上に進んで家庭学習をする姿は子どもたちに定着してきているし、学級だよりなどで家庭学習の仕方を伝えてきたことで、低学年児童の中にも自主学習を始める子が出てきた。土日の読書量が少ないということで、家庭学習定着週間に土日の読書の呼びかけもしてきた。授業づくりと重なってノートを書くことや自分の考えを持って授業に臨む力も付いてきている。とくに課題がある子については家庭訪問を繰り返し、生活習慣・家庭学習をどのようにしていくのがよいのか保護者と話し合ってきた。保護者の理解と協力を得られる家庭が増え、宿題・持ち物を忘れないようになってきている。また、スポーツテストにも全校で取り組み、体力向上を意識した方法を授業づくりに取り入れたことで、粘り強く頑張る姿を見せてくれる子、繰り返し練習する子、なかまと助け合う子が増えた。</p> <p>【課題】基礎学力・基礎体力が十分でない児童の中には、じっくり取り組めない・取り組む意識が持てない子があり、学習面では、活用問題でつまづきがある児童が多かった。引き続き、個別指導や支援（TT体制）を継続して、一人ひとりの「学力・体力向上」「基本的な生活習慣の定着」を図りながら、課題解決能力をつけていく必要がある。</p>	

重点目標 4	一人ひとりを大切にした教育	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>保護者と相談をしながら、一人ひとりの子に合わせた支援を進め、校内特別支援委員会を中心に、学校全体で支援のあり方を考え、取り組みを進めてきた。さらに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも連携し、児童の困り感を少しでも取り除き、「学ぶことが楽しい学校」を目指して取り組んできた。支援が個別に必要な児童は教育支援課の訪問・助言、あさけ診療所・あすなる学園との連携なども行った。また、学期ごとに1回（1ヶ月間）各担当が教育相談の時間を個別にとり、児童に悩みがないか確かめ、支援をしてきた。教育相談でつかんだ課題に対しては、全職員で共有し、児童自らが「いじめ」の加害者にも被害者にもならないよう取り組んだ。</p> <p>保護者アンケート該当項目（4段階評価平均、後ろの数字は4年～6年児童の平均）  ○学校は、保護者からの相談などにていねいに対応していますか。（3.61 3.7）  ○学校は、一人ひとりの違いを受け止めて、子どもの理解・支援を適切に行っていますか。（3.42 3.8）</p> <p>【成果】家庭訪問を通して保護者の理解・協力も得ながら、子どもへの支援を進めた。学校としては個別の対応も行い、全職員一丸となって取り組み、共通理解を図りながら特別支援教育のあり方を話し合うことができた。その中で発達障害がある児童にはスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーや関係機関と連携を密にすることで、少しでも学校に来て生活を送れるようになった子どももいる。また、中学校と連携し、中学校進学に向けてケース会議を持つこともできた。</p> <p>【課題】児童に変化がみられない場合や課題が大きくなった場合に、限られたスタッフでどう対応していくとよいのか困ることもある。</p>	

重点目標 5	地域に学ぶ・人とつながる取組	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>保護者・地域の協力が得られることを学校の強みと考え、地域の中にある教育力・子育て力、人と人とのつながりに学び、地域の方の力をお借りして、保護者・地域とともに進める学校を目指してきた。今年度も「つながる」をテーマに取り組み、「コミュニティかんざき運営委員会」（四日市版学校運営協議会）の方の全面的協力を受けて、児童の学びの場となる学校の環境整備や教育活動に直接協力をいただいた。また、学校ボランティア（手話サークル、図書ボランティアなど）の方に学ぶ機会も積極的に持った。</p> <p>保護者アンケート該当項目（4段階評価平均）  ○学校は、保護者や地域の人たちから学び合う機会を積極的に持っていますか。（3.75）  ○学校は、学校や授業を積極的に公開していますか。（3.85）</p> <p>【成果】今年度もゲストティーチャーに出会い、人権や人のつながり、神前の文化について、多くの学びの場を持つことができた。コミュニティかんざき運営委員会の方の協力もあって、児童が地域の方に学校や自分たちが応援をしてもらっていることを強く感じている。</p> <p>【課題】今後も相互に協力し合う形を継続していきたい。地域活動（地区運動会、里山保全活動、里山体験学習、人権フェスティバル、文化祭、ウォークラリーなど）に積極的に参加するよう子どもたちにも働きかけているが、児童数が減少する傾向にある本校としては、物理的な意味で活動を充実させることが難しくなりつつある。何回か地域活動に参加している児童は、その魅力を知っているので毎年参加しているが、一方でなかなか地域で行っている活動内容に興味を示さない児童もあり、児童だけでなく保護者への働きかけも行っていきたい。</p>	

重点目標 6	安全・安心な学校づくり	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>コミュニティかんざき運営委員会の方の応援も受けて、環境を整備し、花づくりや飼育栽培活動などを通して、「うるおい」が感じられる学校づくりを目指してきた。また、学校・学年・学級だよりやHPなどでできる限り今起こっていることを保護者に伝え、課題も知らせることで、逆に保護者・地域の方に安心してもらえる学校になるよう取り組みを進めた。また、地域の方からも要望が強い「あいさつ」については、子どもたちも委員会活動で取り組み、「自分から言えるようになろう」と努力してきた。また、土曜授業を利用して緊急時引き渡し訓練も行った。</p> <p>保護者アンケート該当項目（4段階評価平均、後ろの数字は4年～6年児童の平均）  ○子どもさんは、誰とでもあいさつ（おはよう、こんにちは、ありがとうなど）ができますか。（3.10 3.4）  ○子どもさんは、けがや事故をしないように安全に気をつけていますか。（3.35 3.8）  ○学校は、学校や子どもたちの様子などを通信や懇談会などで、分かりやすく伝えていきますか。（3.67）  ○学校は、防災や防犯について、子どもたちに自分に身を守るための方法を伝えていますか。（3.61）</p> <p>【成果】学級通信・学校だよりを定期的に発行し、子どもたちのありのままの姿を保護者に伝えるよう努力してきた。学校アンケートの結果からも「伝わっている」という回答が多く、応援して下さる保護者の姿を感じることができた。また、コミュニティかんざき運営委員会の方を中心に学校に来て下さる地域の方がたくさんいることで、子どもたちは「自分たちは見守ってもらっている」「応援してもらっている」という気持ちを持つことができ、「神前の町が好き」と感じられる気持ちが育ってきている。</p> <p>【課題】防災の面では、まだ危機意識が薄いように感じている。子どもたちもいざという時の行動を問われると自信が持てない様子がある。避難訓練等の事前指導を充実させ、今後も子どもたちの視点に立ち、不安と思うことを取り除き、防災の面からも安心して学べる学校づくりを目指していきたい。</p>	

## 2 改善方針

6つの重点項目を掲げて「地域に学ぶ・人とつながる」を本校の強みと位置付け、地域立の学校を目指してきた。校務分掌を学校づくりビジョンと結びつけ、重点項目ごとに担当するチームを明確にして見直しを行い、気づいたことは年度途中であっても、修正・改善を行い、教職員一人ひとりが意識して学校づくりを進められるように取り組んできた。こうした姿勢を職員が示し、実践することで、保護者からもチーム神前を高く評価してもらっていると感じている。研修だよりの発行、一人2回の公開授業などを継続しながら、学力向上をより一層意識して学び合う授業づくりを進めていきたい。また、今年度の学力・学習状況調査結果で現れた強み・弱みについてはきちんと分析をして、学習の中で基礎にあたる部分を丁寧に扱い活用できるよう、さらに学習指導の改善・充実に向けて取り組んでいきたい。

【様式 1】

## 自 己 評 価 書

四日市市立 桜小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の育成	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○始まりと終わりの挨拶（号令）が統一されている。チャイムも細かく鳴らしているため、始まりもそろっている。</p> <p>○授業後の「ふりかえり」の場が定着し、確実に力がついてきている。内容面に関する文章量も増えてきている。今後も、学年により系統的なものとなるように指導を工夫していかねばならない。</p> <p>『学校は、確かな学力の向上のため、授業をていねいに分かりやすくしていますか。93%⇒97%（保護者）』</p> <p>○少人数指導を取り入れることで、一人ひとりの様子をしっかりと見ることができて、よかった。中でも、ノート指導において（特に高学年）時間内に見て回ることができ、効果的に指導を進めることができた。『学校は、一人ひとりの子どもが大切にされる教育を進めていますか。88%⇒91%（保護者）』</p> <p>○学年に応じた体験活動が計画・実行されていて、内容も決められているため、取り組みを的確に進めることができた。</p> <p>○読書に対しての評価が児童は低くなっている。その一方で、保護者は、高くなっている。「生活チェックシート」などでの家庭への呼びかけが効果があったと考えられる。児童に対しては、「読書好きな子」が多い中、「読書嫌いな子」を指導するのが難しい面がある。</p> <p>『読書に関心を持っていますか（読書が好きですか）。89%⇒87%（児童）』</p> <p>『学校は、「朝の読書」や「読み聞かせ」などの読書活動により、読書に関心を持つ子ども（読書好きな子ども）を育てようとしていますか。91%⇒94%（保護者）』</p> <p>△学習用具については、学年で統一した指導をしているものの、まだ定着していない部分がある。</p> <p>△「話す・聴く」については、子どもたちの力をまだ十分に伸ばしている状態にはなっていない。特に、「聴く」については今後の指導の重点に入れる必要がある。</p> <p>△学力・学習状況調査の分析までは行っているものの、活用までは至らなかった。</p> <p>△パソコン室の活用、ICT機器の活用などを活性化するためにも各学年毎に指導計画を立てておくとうい。</p>	

重点目標 2	豊かな人間性の育成	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○QU調査後に実施した教育相談が、子どもたちの実態を把握するのに非常に有効であった。実施の方法は検討する必要があるが来年度も教育相談には力を入れていきたい。</p> <p>○学校の決まりや、子どもたちへの指導について、教師間で指導内容にずれが生じないように、統一した指導ができるように意識して提案した。統一した指導を徹底することで、子どもたちがなぜ決まりやルールを守る必要があるのかに気付いたうえで、決まりを守るような姿が見え始めた。自分で考えて動ける子どもを育てていくためにも、今後継続していきたい。</p> <p>『学校生活や社会のルール、友だちの大切さについて学習していますか。97%⇒97%（児童）』</p> <p>○より一層、教師の人権意識の向上をはかる。</p> <p>○特別支援委員会で定期的に児童の様子を情報交換することで、学校全体で共通理解が図れた。また、そこでの児童理解や実態把握からケース会議に進めることができた。</p> <p>○「気になる児童」報告シートは、児童の実態把握や共通理解を図るために有効的であった。今後は、報告シートの記入方法や使い方を見直しながら、より効果的に活用できるようにしたい。</p> <p>○S Cの先生との連携は、効果的であった。</p> <p>△特別支援委員会をより充実させるために、児童観察の時間の確保や観察の視点を明確にしていくことが必要である。</p>	

重点目標 3	健康な心と体の育成	3
主な方策	○訓練を定期的に行い、教師の安全に対する意識が高まってきていることで、児童、保護者の意識も高い。今後もさらに実践に活かせるような訓練を考えていく必要がある。 『児童の安全意識と実践力を高めるため、安全指導や訓練を計画的に行っている。100%（教職員）』	
成果と課題	△休み時間に外へ出て体を動かしている子どもが限られている。そのため、体育の授業での運動量の確保が不可欠である。 『自分から進んで、運動していますか。85%⇒86%（児童）』 △「いのち」の学習や食育の指導については、日常的に行われていることではあるが、計画的に進める点での弱さが見られた。 『「いのち」の学習や食育の指導を計画的に行っている。75%（教職員）』	

重点目標 4	学校教育力の向上	3
主な方策	○教職員のICT教育に対する意識や技術力が弱いという昨年度の課題を改善するため、夏季休業中に、ICT研修を実施した。2学期には、プロジェクターの使用率が向上した。 ○年間を通して、特別支援教育、仲間づくり、ICT、教科指導等、様々な研修を計画的に実施することができた。 ○6月の、各クラスの「核となる子」についての共通理解の場を持ち、また、年間2回仲間づくり研修会を開催することができた。 ○中学校との乗り入れ授業は、十分な回数を行うことができた。	
成果と課題	○担任だけでなく、教師全員で子どもを指導することがベースになっている雰囲気がある。具体的には、高学年の社会・理科などの教科担任制、お互いの学級通信の読み合い、また国語・算数・書写などの少人数指導など、複数の教員が常に子どもの指導をすることで、子どもの学力だけでなく、教師の授業力向上にもつながっている。 『教職員としての技量を高め、実践に生かす研修を計画的に行っている。96%（教職員）』	

重点目標 5	地域とともにある学校づくり	4
主な方策	○通信やHP、授業公開など積極的に情報発信がなされている。また、年間計画の中でも位置づけられており、計画的に進められている。保護者の評価も97%と高い。 『学校は、授業参観や学校行事、懇談会、各種通信・ホームページなどで、学校の活動や子どもの様子を伝えてますか。96%⇒97%（保護者）』	
成果と課題	『学校は、保護者や地域の人々に授業を公開したり、子どもが地域の人々に教えてもらったりする機会を作ってますか。96%⇒97%（保護者）』 ○図書ボランティアをはじめ、学校の教育環境整備に積極的に関わってもらっている。 ○年度末（3学期）に学校評価を行うことで、一年間の学習活動の反省の場をきちんと設けることができている。	

## 2 改善方針

<p>①清掃活動の大変さや大切さを理解させ、その徹底を図る。例えば2年生からトイレ掃除を割り当てる。自分たちで掃除をすることにより、トイレの使い方を見直させきれいに使おうとする意識を高めていく。</p> <p>②「聴く」指導を重点的に指導していく意識を全職員が持てるようにしていく。そのために、年度当初に共通理解を図り、めざす姿を共有できるように提案していく。</p> <p>③少人数指導（特に、算数科）を実施したメリットは児童・教職員ともに大きかった。今後も続けていくことができるような組織運営を心がけていきたい。</p> <p>④「読書嫌い」な子に対して、担任によるブックトークなどを実施して読書に関心意欲を持たせていきたい。</p> <p>⑤体力の向上を目指して、5分間運動などの運動量の確保や、休み時間の外遊びの奨励する声掛けなどを積極的に進める。</p> <p>⑥毎月の「きゅうしょくだより」や「ほけんだより」を活用して、「いのち」の学習や食育を計画的に行っていく。</p> <p>⑦桜小としての「ノートを取り方」を、系統性を持って指導できるように、各学年の目標と、具体的な指導点を、来年度までに定める。</p>
---



## 自己評価書

四日市市立 県小 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数の指導体制や指導方法、教員の研修を深めて授業改善をすることで、児童の確かな学力を身につける基礎を作り上げた。</li> <li>・全国学力・学習状況調査などの分析結果や各学年の児童の実態に応じて、朝の10分間の学習や繰り返し学習・家庭学習により、児童の基礎・基本の定着の取り組みができた。</li> <li>・自主学習の仕方を提示し、内容を奨励することで子どもが継続して予習・復習に取り組むことができた。</li> <li>・読み聞かせサークルの活動や図書館司書による読書推進および図書館の整備により、読書に親しむ児童が増えた。</li> </ul>	
重点目標 2	豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休業中に「家庭読書カード」の取組を行うことで、家庭で読書をするきっかけとなった。</li> <li>・学習発表会やおすすめの本の紹介などの発表の場で、聞き手を意識した発表や聞き合おうとする態度を育むことができた。</li> <li>・児童の委員会活動を中心に、毎月の生活目標に取り組み、児童自らが行動できるような場づくりに努めた。これにより生活のきまりをかなり意識するようになった。習慣化するためには、各学級、学年で児童の実態に応じて継続的に取り組むことが必要である。</li> </ul>	
重点目標 3	健康安全教育の推進	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート「休み時間に外で元気に遊んでいますか」については、「そう思う」「まあそう思う」と回答した割合が、昨年度と比べて3.8ポイント増えて、73.7%となった。各クラスでの定期的な外遊び、業間かけ足や業間なわとび等が外遊びのきっかけになっていると考えられる。今後もそういったきっかけづくりを大切にしていきたい。</li> <li>・本年度、「全国体力運動能力・運動習慣調査」ではV字回復となっている。実施前に説明を丁寧に行ったり、正しいやり方を理解させたりした細やかな指導の結果と考えられる。また、日頃の体育授業や外遊びをきっかけとして、運動への意欲や力が伸びてきたのではないかと考えられる。今後も運動量を確保した授業づくりや外遊びの充実を工夫していきたい。</li> <li>・食育では、栄養教諭と連携し、各学年に応じた充実した食育が行われ、子ども達は自分の生活を見直したり改善しようという心がけたりすることができた。また、保健指導では、養護教諭が中心となって、発育測定の日を中心にして子ども達の実態に応じた指導が行われた。</li> </ul>	

重点目標 4	特別支援教育の充実	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個の特性や能力に応じた教育内容を創造し、適切な指導支援を行うことで、一人ひとりの自己実現ができるよう取り組みを進めた。</li> <li>・毎週月曜日に特別支援委員会を開催し、スクールカウンセラーと連携しながら、支援の必要な児童の実態把握、具体的な支援、関係機関との連携などについて検討した。また、必要に応じて、ケース会議を開催した。</li> <li>・保護者アンケートの「子どもたち一人ひとりが自分の持てる力を発揮して、学習や様々な活動に参加できるように努めている」については、「そう思う」「まあそう思う」の合計が87.0%とよい評価を得ている。</li> <li>・特別支援教育コーディネーターを中心に、担当職員および支援員により、個に応じた適切な支援に取り組んだ。</li> <li>・特別支援学級の児童数は、本年度の13名から来年度は10名に3名減となるものの、新入児に2名の重度の障がい児が入学してくることから、校内支援体制の見直しをする必要がある。</li> </ul>	

重点目標 5	教師力の向上	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「仲間とともに主体的に学び合う子どもの育成」を主題として、計画的に校内研修会や授業研究会を実施して、授業力の向上に取り組んだ。児童アンケートの「授業で習ったことがわかりますか」については、「思う」「まあそう思う」の割合が、89.9%と昨年度の90.0%とほぼ同じであった。校内研修の充実を図りながら、引き続きわかりやすい授業づくりに向けて指導方法の工夫、学習内容の定着に取り組んでいく必要がある。</li> <li>・教師主導の授業が散見される。主体的・協働的な学びに向けて、授業形態の工夫等に学校全体として、取り組む必要がある。</li> </ul>	

重点目標 6	家庭・地域と協働する学校	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートの「学校は、通信（学校・学年・学級）やホームページなどで学校や子どもたちの様子をよく伝えていると思いますか？」の問いについては、89.7%の保護者が「そう思う」「まあそう思う」と回答している。学校よりは、保護者だけでなく地域への回覧を行っている。引き続き、各種の通信やホームページで学校の取り組みや児童の様子などについて、タイムリーな情報発信に努めていきたい。</li> <li>・継続的に行っている「地域連携花壇」の取り組みでは、地域の方とのふれあいの中でから、花を植え、育てる活動を通して、地域を大切に思う心などを学ぶよい機会となっている。</li> <li>・児童の91.1%が宿題などの家庭学習をしていると回答しているのに対し、保護者の70.1%が家庭学習の習慣が身についていると回答しており、家庭学習に対する意識の差が見られる。家庭学習の習慣化に向け、保護者と連携したさらなる取り組みが課題である。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートの「学校の教育活動に満足していますか」の問いについては、94.2%の保護者が「そう思う」「まあそう思う」と回答しており、保護者の満足度は大変高い。さらに改善の工夫を行いたい。</li> <li>・「学校が楽しい」「まあそう思う」と回答した児童は、昨年度とほとんど変わらない。しかし、「学校が楽しいと思わない」「あまり思わない」と回答している児童が、依然として7.5%おり、昨年度と変動はない。引き続き、楽しく学校生活を送れるよう、教育相談等を通して一人ひとりを大切にするとともに、お互いが認め合える学校・学級づくりをめざしていく必要がある。</li> <li>・「自分によいところがありますか」については、昨年度より3.4ポイント減であり、22.9%の児童が「あまり思わない」「思わない」と否定的にとらえている。学年によって差が大きく、「そう思う」「まあそう思う」の合計で、最も良い学年と最もよくない学年の差は31.5ポイントある。児童の現状に合わせた満足感や達成感が味わえる機会を増やし、自己肯定感を高めていきたい。</li> <li>・「生活習慣チェックシート」の取り組み等を通して、生活リズムの向上に向けて、保護者との連携を深める。</li> <li>・今年度改善が見られた「全国体力運動能力・運動習慣調査」結果の分析を踏まえ、強みを伸ばしながら、体育の授業や外遊び等を工夫する中で、継続的な指導改善に取り組むたい。</li> </ul>	
--	--

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 三重小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎日の授業の充実</li> <li>○基礎的基本的な知識・技能の定着</li> <li>○個別指導の充実</li> <li>○家庭学習の工夫</li> <li>・授業の始めに前時の復習を行ったり、授業の終わりにまとめを書く活動を取り入れたりすることで、学習内容の定着を図った。</li> <li>・学習課題の精選と工夫を行い、主体的に学ぶ力を付けてきた。</li> <li>・電子黒板や書画カメラを活用し、授業に意欲的に取り組ませることができた。</li> <li>・音読や計算、漢字などは反復学習や家庭学習で力の定着を図った。</li> <li>・自主学習に取り組ませることで主体的に学ぶ姿勢を付けることができた。</li> <li>・日常的に辞書を使うことで、語彙が増え、知識理解の定着につながった。</li> <li>・さらに魅力のある授業を工夫する必要がある。</li> <li>・全員の学力向上という点では不十分である。さらに継続して取り組んでいく。</li> </ul>	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人が認められる学級づくり</li> <li>○道徳教育の工夫と充実</li> <li>○「三つの約束（掃除・時間・あいさつ）」による規範意識の向上</li> <li>○読書環境の充実と読書活動の推進</li> <li>・「聴く」ことを大切にした指導、「一人も一人にしない」を大切にした指導により、自尊感情を高め、より良い人間関係を築くことができた。</li> <li>・児童会によるあいさつ運動で意識は高まったが、進んであいさつできる子はまだ少ない。また、掃除が不十分である。</li> <li>・朝の読書タイムの定着、司書・図書ボランティアの活動により、読書の幅が広がりつつある。</li> </ul>	
重点目標 3	健康・体力の向上	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体育科授業の充実</li> <li>○運動の日常化の推進</li> <li>○体育的行事の工夫</li> <li>○食育・保健指導の推進</li> <li>○生活リズムチェックを生かした生活習慣の指導</li> <li>・めあてを持たせることで運動に対する意欲を高めることができた。</li> <li>・1時間の体育の授業で運動量を確保することに努めた。</li> <li>・週2～3回クラス遊びをすることで、楽しみながら運動する習慣をつけてきたが、投げる力や柔軟性に課題がある。</li> <li>・外で遊ぶ児童が少なくなる冬場に縄跳び月間や業間かけ足の行事を計画し、寒い時期に運動する習慣がついた。</li> <li>・高学年は休み時間に運動する児童が限られているのが課題である。</li> <li>・生活リズムチェックを6年間継続することで生活習慣の見直しにつながっている。また、家庭への啓発にもなっている。</li> </ul>	

重点目標 4	教職員の協働	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内研修の充実</li> <li>○生徒指導・特別支援教育・教育相談体制の充実</li> <li>○危機管理体制の充実</li> <li>・授業を見合い、指導内容や方法の検証を行い、授業改善につなげた。</li> <li>・教材研究や指導方法の工夫についてさらに深める必要がある。</li> <li>・日常的に学年で協力しながら授業を行っている。</li> <li>・学校での出来事について職員同士で情報交換し、共通理解のもとで指導・対応にあたってきたが、一層緊密に連携していく必要がある。</li> <li>・「報告・連絡・相談」を徹底し、課題に対して組織として取り組む意識と体制を整えた。</li> <li>・ヒューマンエラーを防ぐため、風通しの良い職場づくりを一層進めていく。</li> </ul>	

重点目標 5	家庭・地域との協働	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コミュニティースクール運営委員会（みえ委員会）及び地域の教育力の活用</li> <li>○学校からの情報発信</li> <li>○家庭学習習慣の定着</li> <li>○基本的な生活習慣の確立</li> <li>・みえ委員会の提言を生かし、改善に活かすことができた。</li> <li>・地域の方をゲストティーチャーとして迎え、児童も教職員も地域の良さを改めて認識することができた。</li> <li>・「家庭学習に取り組んでいる」児童の割合は昨年より5ポイント増え、徐々に定着しつつある。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業を構成する三要素（教材解釈・児童理解・教師の指導力）について、さらに研修を深める。</li> <li>○お互いの授業を見合い、授業力を向上させる研修を一層進める。</li> <li>○放課後の学力補充を検討する。</li> <li>○力が付く家庭学習の工夫を考える。自主学習も含め、その内容や点検・評価等の在り方を検証するとともに保護者とも連携して、いっそう充実した家庭学習にしていく。</li> <li>○掃除マニュアルを作って指導するなど、「三つの約束」のうち「掃除」に指導の重点を置く。</li> <li>○外遊びをこれまで以上に励行する。</li> <li>○これまで以上に教職員一同が共通の問題意識を持って、協力して仕事を進める。</li> <li>○保護者・地域と協働して教育を進めていくための情報発信を行っていく。</li> </ul>
---

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 大矢知興譲小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「問題解決能力向上のための授業づくり」を研修の力点に取り上げ、学び合いにつながる授業づくりに取り組むことができた。</li> <li>・全国学力調査は、昨年度に比べて良い結果であった。各学年で習得すべき内容がしっかり定着するよう学習を続けてきたこと、テストの形式に慣れるよう様々な問題に取り組ませたことなどが成果につながったと考える。</li> <li>・学習規律の統一と定着に関しては、子どもたち一人一人がチャイムとともに活動できるように、時計を見て活動させる、職員が一体となって子ども達への指導にあたるなどの取り組みを行ってきたので、少しずつ成果があらわれてきている。</li> <li>・家庭学習の定着を図るために、家庭学習の手引きを示したり、宿題以外の自主的な家庭での学習を奨励したりすることで、宿題をする習慣が身についている子どもがほとんどであるが、子どもが意欲を持って、取り組めるよう支援を続けていく。</li> </ul>	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年で人権教育の重点教材を設定し取り組んだ。低学年からの積み重ねができるよう、今後も系統性を考えて取り組んでいきたい。</li> <li>・学期毎に行っているいじめアンケートやQ-U調査、教育相談の他、日常的に児童の様子を観察し、問題行動があったときには、すぐに対応することができた。</li> <li>・代表委員会が中心になってあいさつ運動を行うことで自主的にあいさつする子が増えてきている。しかし学校外ではできておらず、地域・保護者の方から登下校時のあいさつの少なさやマナーの悪さについて指摘をうけることがある。</li> <li>・読書活動では、図書館まつりを年2回開催し、朝の読書や家庭読書、パネルシアター、ブックラリーなどの活動を広めてきたので、児童の読書量は増えてきている。保護者アンケートでも、家庭での読書習慣についての評価が若干ではあるが高くなった。今後もさらに読書意欲が高まるよう読書環境を整え、工夫して取り組んでいく。</li> </ul>	
重点目標 3	健康・体力の向上	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育科の授業、運動に興味を持って取り組むことができるように、全校で授業の始めに「5分間運動」に取り組んだ。毎時間取り組むことで、体育の授業に興味を持って取り組む児童が増えた。また、校内研修の一つとして、教職員が様々な5分間運動に取り組み、意識を高めることができた。</li> <li>・新体力テストの結果では、柔軟性及び持久力の数値が低かったので、今後も柔軟運動、持久走を継続的に行っていく。</li> <li>・保健指導では、「校内での安全な過ごし方」「骨を大切にしよう」等各学年に応じた指導を行った。また骨の学習では、食育と関連させて授業も行った。</li> <li>・命の大切さでは、各学年に応じた指導を行ってきたが、学校全体で系統的に取り組んでいく必要がある。</li> <li>・安全教育では、避難訓練を毎学期行い、児童をより安全に避難させる体制を見直すことができた。また、交通安全教室では、自転車の乗り方や交差点の渡り方など、子どもの実態に応じた取り組みを行うことができた。</li> </ul>	

重点目標 4	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の力点を決め、学年で具体的な取り組みを続けることで、授業の質を高めることができた。また、全職員が授業提案を行い、互いの授業を見合い検討する中で、研修を深めることができた。</li> <li>・指導主事や教育アドバイザーなど多くの方に授業を見ていただき、指導力向上に努めることができた。</li> <li>・子どもと向き合う時間の確保のための会議や業務等の精選については、改善できていないのが現状であるが、今年度の反省より、新年度は行事・会議の精選を行い、回数を減らす方向で計画を進めている。11月からは月1回の定時退校日を設けた。</li> <li>・児童・保護者アンケートを実施し、児童の実態と保護者の学校に対する評価を踏まえ、改善点について検討することができた。</li> </ul>	

重点目標 5	保護者・地域との協働	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な家庭訪問や個別懇談の他、児童の様子で気にかかることがある場合には、学校と保護者が連絡を取り合い、対応することができた。</li> <li>・保護者や地域の方と連携して、多くの体験的学習を企画することができ、中身の濃い学習をすることができた。</li> <li>・登下校を安全にするために、保護者・地域の方と協力して定期的に通学路に立ち、子どもたちを見守ることができた。</li> <li>・学校公開や授業参観を定期的に設定し、保護者や地域の方に児童の様子を見てもらうことができた。</li> <li>・学校だより・学年だより・学級通信等を利用して、学校や児童の様子を地域や保護者に伝える機会を多く持ってきた。今後も、教育活動の発信に努めていく。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<p>(豊かな人間性の育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習は、家庭学習の手引きをもとに定着してきているが、児童自らが自主的に学習できるよう、さらに保護者との共通理解を図っていく必要がある。特に、宿題以外の自主学習の仕方を指導することで児童の自分で学習する意識を高めていきたい。</li> <li>・読書意欲を高め、読書活動を推進していくために、新しい本を入れて読書の時間の機会をつくる。家庭においては読書の時間を確保していけるように声掛けをしていくなどの取り組みを行っていきたい。</li> <li>・保護者アンケートでは、あいさつや社会生活上のルールについての項目の評価は、数値的には昨年と変わりはないが、あいさつができない、登下校のマナーが悪いという指摘を受けている。今後も継続して登下校指導をするとともに、大人や指導者が見ていないところでも、自分で判断しルールを守れるように意識を高める取り組みを行っていく。とくに高学年の意識を高めていく必要がある。</li> </ul> <p>(保護者・地域との協働)</p> <p>開かれた学校づくりや学校からの情報伝達については、保護者のアンケートでは、昨年同様90%の肯定的な回答が得られた。「学校便り」により学校の方針や児童の様子が伝えられ保護者や地域の信頼を得ている。学校便りだけでなく、学年通信・学級通信・ホームページ等を利用して、学校の考え方や児童の様子を、必要に応じて発信し、より開かれた学校の推進をめざしていきたい。</p> <p>総合的な学習の時間をはじめ、地域との連携をはかりながら、様々な場で学校教育に協力していただいている。今後も計画的に協働、連携していきたい。</p>
---

【様式1】

自己評価書

四日市市立 八郷小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の育成	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(主な方策)</p> <p>①問題解決能力向上のための授業づくりに取り組みます。</p> <p>②基礎的・基本的な学習内容の定着を図ります。</p> <p>③言語（読む・書く・話し合う）と体験を重視した教育活動を展開し、授業を改善していきます。</p> <p>④ICTを活用した教育や、外国語活動（英語授業）の充実に取り組みます。</p> <p>⑤読書活動・図書館指導を充実させ、本に親しむ子を育てます。</p> <p>(成果と課題)</p> <p>○5つのプロセス（問題解決のプロセス）を取り組んだことで、わかりやすい授業を進めることができた。</p> <p>△子どもの意欲を高めるために、よりよい課題設定を工夫していく必要がある。</p> <p>△問題解決学習を定着させ、子どもに「より楽しい」と思わせる課題の設定、授業の進め方を検討していく必要がある。</p> <p>○様々な学習の中で、書くこと、話し合うことを工夫しながら授業に取り入れることを進めた。</p> <p>○子どもたちに自分の考えを深めさせたり、伝えさせたりすることが進められた。</p> <p>△書く機会を設定してきたことで、書くことに抵抗はなくなってきた。目的に応じた書き方、書く内容の質を高める指導の工夫をしていきたい。</p> <p>○「家庭での読書」の保護者アンケートの肯定的回答が、昨年より14ポイント高くなった。2学期より、毎週木曜日を「家庭読書の日」としたことで、家庭でも本を開く姿がみられるようになったためと思われる。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(主な方策)</p> <p>①「考え・議論する」道徳の推進を図ります。</p> <p>②いじめ調査・QU調査等の実施により、安心して過ごせる学級づくりに取り組みます。</p> <p>③教育活動全体を通じたキャリア教育の計画と推進に取り組みます。</p> <p>④ スクールカウンセラーとの連携のもと、教育相談の充実を図ります。</p> <p>⑤東北復興支援活動等や地域行事に参加することでボランティア精神を育てます。</p> <p>(成果と課題)</p> <p>○年間一回の道徳の授業研修や授業参観での公開を行うことができた。</p> <p>○考え、議論する授業づくりについて基盤を作ることができた</p> <p>○児童アンケート「人を思いやり、協力して活動することができるか」の項目に、9割以上の児童が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた。昨年度よりも数値がのびている。</p> <p>○「仲間づくり」の研修を行ったり、QU調査を活用して学級集団の理解を進めたりするなど、毎日の教育活動の中で、職員は「人権」の視点を意識して取組を行った。</p> <p>△「いじめは絶対にいけないと思いますか。」という設問に、「いじめはぜったいにいけない」には、5名が否定的な回答をしている。直接的な指導とともに、支え合い、学び合い、分かり合う学級・授業づくりに、今後とも日常的に取り組んでいきたい。</p> <p>△「学校へ気軽に相談」は、スクールカウンセラーとは別に、学級担任に普段から気軽に相談できる雰囲気があるかということについて問われているのではと感じる。すべての教師があらゆる機会にいつでも相談できるという教育相談的な配慮をしていることを知らせていく必要がある。</p>	

重点目標 3	健康な心とたくましい体の育成	3
主な方策	<p>(主な方策)</p> <p>①子どもが意欲的に運動に取り組むための授業づくりや環境整備に取り組めます。</p> <p>②学校保健委員会や学校医等との連携などを通して、心と体の健康教育推進に取り組めます。</p> <p>③栄養教諭や関係機関と連携し、給食指導等を通して食に関する指導の充実を図ります。</p> <p>④「早寝・早起き・朝ごはん」を合言葉に規則正しい生活リズムの定着を図ります。</p> <p>⑤危険予測能力の向上をめざし、様々な体験活動を生かした安全教育の充実を図ります。</p>	
成果と課題	<p>(成果と課題)</p> <p>○体力テスト結果で運動や体育授業が好きと答えた児童が多かった。季節を通して運動場で遊ぶ児童も多い。今後は運動や遊びを放課後や家庭でも継続的に取り組めるような働きかけをしたり、体づくりに向けて意識を高めたりしていきたい。</p> <p>○安全に対する意識は高まってきている。引き続き、避難訓練だけではなく、日頃から、話題として取り上げ、防災や安全に対する意識を向上させていきたい。</p> <p>△好き嫌いの指導だけではなく、食べ物の大切さや栄養についても引き続き、取り組みを進めていく。家庭への啓発が重要である。</p> <p>△「早寝・早起き」については、その他の生活習慣も含め、家庭の協力も得ながら取り組んでいく必要がある。</p>	

重点目標 4	地域・家庭との協力・協働の推進	4
主な方策	<p>(主な方策)</p> <p>①学校運営協議会を核として保護者・地域と協働する学校づくりを進めます。</p> <p>②学校支援ボランティアの参画(図書・クラブ・安全・授業等)の更なる充実を図ります。</p> <p>③地域と協働し、地域の資源(自然・歴史・施設・人)を活かした授業に取り組めます。</p> <p>④学校教育活動や、子どもたちの様子の積極的な発信に取り組めます。</p> <p>⑤実施したアンケートをもとに評価をいただき、経営の改善に努めます。</p>	
成果と課題	<p>(成果と課題)</p> <p>○昨年度は「八郷小学校学校運営協議会」の10年間の取組が認められ、「平成27年度優れた『地域による学校支援活動』推進にかかる文部科学大臣表彰」の栄誉を受けた。他校からも視察に訪れたり、大学や他地区で取組の講演を行った。</p> <p>○学校支援ボランティアや地域の方々との協働し、図書・クラブ・安全・授業等、充実した学習活動を展開した。</p> <p>○学校は、開かれた学校として学校の情報を積極的に地域や関係機関に発信することができた。</p>	

## 2 改善方針

<p>①「問題解決能力向上のための5つのプロセス〈四日市モデル〉」を指導案に位置づけ、授業研究をさらに進める。また、学校教育ビジョンに示されている、教師主導の授業ではなく、子どもたちの伸びようとする力を信じ、任せ、主体的に子どもたちが課題に対して探求し、深めていく学習の構築をめざしていく。</p> <p>②子どもたちの健やかな育成を目指して、今後も地域・家族と協働した教育活動の継承と発展に取り組んでいく。</p> <p>③子どもの学習課題への興味・関心を高めたり、学び合いや協働的な学習を深めたりできるように、積極的に職員がICT等を効果的に活用できるような校内研修を推進する。</p> <p>④給食を通して、児童に対して栄養教諭を中心に、各担任が意識を高め、食べ物の大切さ、栄養について児童に呼びかける必要がある。加えて、家庭への啓発も行っていく。</p> <p>⑤学校保健委員会や学校医等との連携などを通して、心と体の健康教育について、養護教諭による保健だより・HPの更新など、家庭への啓発があった。また、給食委員会と保健委員会が合同で、意識を高める取り組みを積み重ねてきた結果も影響していると思われる。今後も学校保健学習会への参加は引き続き、呼び掛けていく。</p>
--



【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 下野小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	学校づくりビジョンの共有化	3
主な方策 成果と課題	<p>&lt;主な方策&gt; 教育活動のねらいを明確に表した学校づくりビジョンを作成し教職員が共有することで、子どもたちへの日常の教育活動が、確かな内容となるように努める。また、教育活動のねらいを子どもたち、家庭、地域に発信し、共有化を図る。</p> <p>&lt;成果と課題&gt; 保護者アンケートで本校からの学校便り・ホームページ等による情報発信ができていているという評価が高かった。また、教育活動のねらいを児童に伝えて、活動させることで一生懸命に取り組む姿が見られる。また、学んだことを生活に生かすよう働きかけることで、学校全体として落ち着いた子どもたちの姿がある。 課題として、それぞれの活動の意図を学校づくりビジョンとつなげて、より家庭・地域と共有化されるように働きかける必要がある。</p>	
重点目標2	一人一人を大切にされた教育や特別支援教育の推進	4
主な方策 成果と課題	<p>&lt;主な方策&gt; 一人一人の学習を保障するために指導のあり方を研鑽し、また教育的ニーズに応じた支援を推進し、子どもたちに確かな学力や豊かな心情、問題解決力など、将来自立していくための力を育むことに努める。また、教職員の教科指導力、生徒指導力、人権感覚などの研鑽に努める。</p> <p>&lt;成果と課題&gt; 外部講師を招き、授業を見合って授業改善に努めることで、児童が学び合い成長していく姿が見られる。また、ノートの使用や家庭学習について1～6年まで系統性のある指導を行うことで、児童が学年を上がっても継続した学習ができる仕組みを整えている。 特別支援教育として、一人一人の児童に応じた教育を、特別支援教育委員会を中心に、保護者・スクールカウンセラーと連携しながら推進している。 課題として、一人一人の児童により効果のある教育を行うために、より個々の実情に応じた教育を推進する必要がある。そのために、教師の指導力の一層の向上や、外部との連携をより進めていくことが求められる。</p>	
重点目標3	キャリア発達を支援する学びの一体化の推進と地域教育力の活用	3
主な方策 成果と課題	<p>&lt;主な方策&gt; 将来の自立に向けて必要とする力を育てるために、キャリア教育の基礎的・汎用的能力の「かかわる力」「みつめる力」「いかす力」「めざす力」の観点から具体的な子どもの姿を指針として、幼保小中が連携して「学びの一体化」の取り組みを進める。また、将来の糧となるであろう体験や地域指導者から学ぶなど、子どもたちにとってより効果的な学習を進める。</p> <p>&lt;成果と課題&gt; 「学びの一体化」の取り組みでは、特に保幼小中5校園が集まった音楽集会は、相互に知り認める場で、子どもたちの成長の上で、とても貴重な体験となった。 子どもたちの将来に、生きてはたらくであろう体験や学びを地域の方の学習支援により、幅広く行うことができた。保護者アンケートの評価も高い。 課題として、学びの一体化を進める上で、保幼小中の授業参観と授業研究を充実していく必要がある。</p>	

## 2 改善方針

- ①学校づくりビジョンを共有化するために、授業のねらいや行事の成果などを、学級だよりや学年だよりで継続的に発信していく。
- ②教職員の教科指導力、生徒指導力、人権感覚などは、相互に研鑽することで向上しており、結果として落ち着いた学校となっている。この協働する教職員集団を維持していく。
- ③「学びの一体化」でも、教科指導力、生徒指導力、人権感覚を研鑽する機会を増やしていく。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 水沢小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○基礎となる知識・技能の定着と向上を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・技能を活用とした子どもがともに学び合う授業を目指してきた。小グループで意見を聞き合う場を設定したり、意見をつなげる話し合い方の提示をしたりした。相手に伝え、聞き合うことを大事にし、確かな学力の定着を図ってきた。</li> <li>・学力調査の結果・みえスタディチェックの結果・CRTの結果等から、子どもの学力や課題を全職員で把握し、学力の向上をめざした。「自分の考えを伝える表現力」に課題があり、本年度の研修テーマにして取り組み、「書く力」をつけ自分の考えを明確にするようにした。それで、根拠を明らかにし、話す順序を考えて自分の考えを話せるようになった。しかし、自分の考えを相手に分かりやすく伝える力が十分ついたとはいえない。</li> </ul> <p>○地域の資源を生かした体験的学習や調べ学習を積極的に進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の方を講師として招へいし、昔ながらの料理やお茶についての学習を行った。地域の方から実際に学ぶことができた意義は大きく、また、体験学習をすることにより積極的に学習に取り組む児童の姿を見ることができた。</li> </ul> <p>○家庭と連携した子どもの学習習慣の確立と向上を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「家庭学習の手引き」をもとに、保護者の理解と協力を求め、家庭学習の充実を図った。また、「自主学習ノート作り」に取り組み、自ら進んでする家庭学習の定着を図った。(児童アンケート家庭学習をしている。肯定群95%)</li> </ul>	
重点目標 2	地域と共に育つ子どもの育成	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○地域や保護者とのふれあう場づくりを積極的に進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年に応じて保護者とふれあう活動をPTAと共催して行った。(かるた取り・健康スポーツ・テニポン等)</li> <li>・文化祭では地域の方からあられの煎り方やもちつきの仕方を習ったり、プランターカバー作りを行ったりして交流をはかった。他にも地域の方と児童と一緒に給食を食べ意見交換を行うなどしてコミュニケーション力等の向上の機会を増やしてきた。</li> </ul> <p>○地域の産業や伝統を理解し地域に親しみや誇りを持つ子どもの育成を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方を招き、お茶の入れ方を学習したり、お茶工場を見学したり、地域の伝統芸能(お諏訪踊り)を学んだりして地域について理解が深まった。また、地域の防災会の方を招き地域の危険箇所調べ等を行い自分たちの地域の特性など一緒に考えた。その際には打合せが不十分だといろいろ行き違いが起こるので連絡を密に図っていかなければならない。</li> </ul>	

重点目標 3	豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○読書活動を充実させます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書室のレイアウトを変え、落ち着いて読書活動ができる環境にした。また、読み聞かせボランティアによる読み聞かせや司書教諭によるブックトーク・利用指導読書等を行い、本に興味を持てるように取り組んだ。(児童アンケート：読書をするのは好きですか。肯定群89%) 全体的に古い本が多く新しい本と入れ替えが進んでいないのが課題である。</li> </ul> <p>○違いを認め合い自他を大切にできる仲間作りを進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の時間を要とし、全教科・領域において一人ひとりを尊重する学習に取り組んだ。また、道徳教育により関心を持ってもらえるように道徳の公開授業を保護者に対して行い、学校・家庭が連携した教育をできるように努めた。(保護者アンケート：命を大切にすることや人を思いやる気持ちを育てていると思いますか。肯定群99%)</li> </ul> <p>○子どもが主体的に考え行動できる道徳と教育、人権教育を充実させます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来に向けた自分づくりの一助になるよう人権講演会に高学年を参加させた。人権教育の一環として人権標語づくり(4年生～6年生)を行った。</li> <li>○子どもの思いに立った教育相談を充実させます。</li> <li>・年2回QUの研修会を行い、教員全体で情報の共有を図り、全職員で子どもを見守るよう努めた。また、悩みを抱えた保護者とスクールカウンセラーとの橋渡しをして、相談できる場をもつようにした。必要に応じて児童と教育相談を行い、児童の思いに寄り添うよう心がけた。(保護者アンケート：担任や学校に対して相談したり意見を伝えやすいですか。肯定群95%)</li> </ul>	

重点目標 4	健康・体力の向上と安全・安心な教育環境づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>○子どもの健康と安全に留意した教育活動を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冬期の業間駆け足、縄跳び運動、また、体育時に運動量を増やすなどにより体力向上に努めた。</li> <li>・担任と養護が連携して保健指導や食育指導を行うことにより規則正しい生活を送る児童が多くなった。(2学期の就寝時刻 午後10時30分までに就寝する79%＜高学年＞) また、バランスよく食事をとることなどの健康意識が向上した。(指導後の感想文より)</li> </ul> <p>○地域と連携した通学路等安全な校区環境の実現に取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・普段の登下校の指導を行うとともに、大雨・強風・大雪等の下校では職員が指導にあたり安全に下校できるよう取り組んだ。保護者も下校パトロールに取り組み下校時の安全確保を図っている。しかし、児童数の減少に伴い下校時の人数が大変少ない地区もあり、児童の安全確保に課題がある。</li> </ul> <p>○地域と連携した子どもの生活習慣の確立と向上を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・規則正しい生活習慣が身につくように年3回、生活リズムチェックシートを行う取り組みを行った。その結果を保健だより等で発信し、情報を共有した。また、保健の時間等で生活の指導を行うことでさらなる生活習慣の向上を推進した。多くの児童が規則正しい生活を送っているが一部児童で不十分な点が見られるのが課題である。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<p>・確かな学力定着のため本年度も引き続き少人数・チームティーチングでの指導等を行ってきた。少人数で授業を行うことにより、児童は積極的に質問をするなどして授業に関わることができた。また、複数の教員が入るため細やかな指導を行うことができた。今後も基本となる知識・技能の定着と向上を図るため、少人数指導・チームティーチングを取り入れていく。また、研修においては「自分の考えを相手に分かるように話すことができるようになる」ことをテーマにして取り組んできた。自分の考えをもち、図や表をもとに話すことはできるようになってきた。</p> <p>・学力調査の実施から結果の検討、学校自己評価の実施から結果の検討、それを受けた改善施策などがスムーズに日常実践につながる仕組みを考える。とりわけ29年度は活用力・表現力をはじめとする学力の充実に向けて進みたい。それと同時に教職員の資質向上のため、職員研修会を持つとともに市教委主催の研修会等に積極的に参加できるよう図っていく。</p> <p>・コミュニティスクールの取り組みとして地域への橋渡しをし、学校・家庭・地域の三者が一体となって連携を図り、地域に根ざした実践を進めてきた。地域の方々と一緒に防災訓練を行う、お茶の学習の指導をしてもらう等がよい実践例である。今後も地域指導者による水沢地域の自然・歴史・文化・産業などを学ぶ学習に今後も取り組んでいく。地域の枠を超えて拡がりすぎた連携については見直して整理する必要がある。</p>
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 保々小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	聴き合い語り合う授業づくり	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(主な方策) ・授業において聴き合い、考え合いとなる課題提示をします。 ・自分の思いや考えをもっと知ってもらおうと話す子どもの育成に努めます。 ・授業に振り返りの場面を設定し、書くことを大切にします。 ・ペア学習や班学習を取り入れ、友だちとともに課題追及の活動の取入れます。 ・食育や健康教育などを通して自分の体を知り、丈夫な体を作ろうとする子どもの育成に努めます。 ・聴き合い、語り合うことで「わかった」と感じられる授業づくりを推進します。「学び」の楽しさを追求する子どもの育成を図ります。</p> <p>(成果と課題)</p> <p>○子どもの課題を明らかにすることから始め、目の前の子どもに力をつけるための手立てを出し合い、相互理解を図ることができつつある。</p> <p>○明確に課題を提示することを意識した授業づくりがすすんでいる。</p> <p>○全体的に、子どもを中心に授業を進めていくことを大切にしていこうとする雰囲気がある。</p> <p>○子どもアンケートの「先生や友だちの話聞くように心がけていますか」の肯定的回答率は、昨年度91.4%から93.2%に上がり、「自分の思ったことを相手に話していますか」は、77.3%から79.9%に上がった。</p> <p>●普段から教職員がお互いに授業を見合い、学び合う関係をつくるのが広まりきれていない現状がある。</p> <p>●子どもたちが、聴き合い、考え合いとなる課題提示により、どんな学びが展開され、具体的にどんな力を子どもたちにつけることができたのかを明確にして取組をすすめていく必要がある。</p>	
重点目標 2	支え合う仲間づくり	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(主な方策)</p> <p>・授業を通じて自尊感情を育成します。 ・子どもたちが安心してお互いのよさを認め合う学級づくりを進めます。 ・学年の取組を大切にして、学年集団として高まろうとする活動への取組を進めます。 ・委員会や係活動など自主的な活動や集中して掃除に取り組むことを進めます。 ・友だちの意見を最後まで聴き取り、自分の考えを返し、行動できる子を育てます。</p> <p>・ルールやマナーの修得に努め、人権問題を解決しようとする子の育成を図ります。 ・人のつながりや人権について学び合う人権総合学習・生活科の取組を進めます。</p> <p>(成果と課題)</p> <p>○人権総合学習を通して、学級の子どものなにかまとしての関係性があたたかいものになっていくことを実感することができた。</p> <p>○子どもアンケート「自分のよいところがわかりますか」は、昨年度70.9%から77.8%に上がった。</p> <p>○子どもアンケート「学校の約束やきまりを守っていますか」は、昨年度85.1%から91.1%に上がった。</p> <p>○米作りや大豆収穫などの農業体験学習を通して、地域の文化や自然を深く学ぶことができた。</p> <p>●休み時間を活用した学年集団としての取組をさらに充実させ、学年集団として高めていく必要がある。</p> <p>●子どもが安心して学べる学級づくりに向けて、子どもの思いを作文や日記に綴らせるだけでなく、書いたものを伝え合う場面設定が必要である。</p> <p>●子どもアンケート「いじめやなかまはずしはしていませんか」は、昨年度92.4%から89.5%に下がったが、「自分や友だちを大切にしていますか」は、95.4%から97.9%に肯定的回答が上がっていることから、いじめに対する意識が高まったと考えられる。しかし、10%程の子どもがいじめを感じている現実から、支え合う仲間づくりの推進に向けて今後も具体的組織的に取り組む必要がある。</p>	

重点目標 3	学習・生活の支援体制づくり	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(主な方策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Q U 検査を活かした仲間づくりを進めます。</li> <li>・ 学習環境を整備して、保々小をきれいにします。</li> <li>・ 場に合わせた挨拶ができる子の育成に努めます。</li> <li>・ 基礎学力充実タイムの取組による基礎学力の定着を図ります。</li> <li>・ のびっこタイムを使つての個別支援に努めます。</li> <li>・ 学習園などを活用し、自然の恵みや環境を守ることへの必要性を体感できる活動に取り組みます。</li> <li>・ 保幼小中高が連携した支援体制を共に進めます。</li> <li>・ 家庭と連携した早寝・早起き・朝ごはんを生活習慣としての働きかけます。</li> <li>・ 図書館の本の整備に努め、朝の読書の時間を毎日設定し、読書好きな子どもを育成します。</li> <li>・ 特別支援教育の充実を図ります。</li> <li>・ I C T 機器やホワイトボードの活用を進めます。</li> <li>・ 自主的な読書習慣と家庭学習の定着を家庭と連携して取り組みます。</li> </ul> <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 仲間づくりの推進に向けて、仲間づくりレポート研修会を通して、だれに着目してどのように仲間づくりを進めるのか、共通理解を図ることができた。</li> <li>○ 朝学習が定着し、意欲的に取り組んでいる。</li> <li>○ 体育館に掲示してある体育の授業はじめの5分間運動を参考に、取組を進めることができた。</li> <li>● 子どもアンケート「すすんであいさつをしていますか」は、昨年度83.6%から85.7%にあがったが、場に応じた言動やあいさつがなかなかできない子が多い。</li> <li>● I C T 機器を子どもの実態に合わせたかたちで、効果的に活用しきれていない。</li> <li>● 子どもアンケート「読書をするのが好きですか」は、昨年度78.8%から今年度78.3%に下がった。また、保護者アンケートでは「読書をしていますか」は、昨年度47.5%から42.2%に下がっている。子どもたちに読書の楽しさが実感できる取組を進める必要がある。</li> </ul>	

重点目標 4	地域の方に学ぶ・人がつながる学校づくり	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(主な方策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校運営協議会として、地域の方に学ぶ・人とつながる活動に取り組みます。</li> <li>・ 人権総合学習・生活科の活動に地域活動を積極的に取り入れ、本校の特色ある活動としていきます。</li> <li>・ フリー参観、懇談会、講演会、保々の集い、プール開放、クラブ活動、ボランティア活動など、保護者・地域住民への参画を更に進めます。</li> </ul> <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今年度から、コミュニティースクールを立ち上げ、5つの各部会（農業体験部会、環境部会、地域部会、図書ボランティア部会、学習支援部会）が「学ぶことが楽しい学校」に向かって取組を進めてきた成果が、アンケートにも反映されている。</li> <li>○ 子どもアンケート「学校は楽しいですか」は、昨年度の87.3%から89.0%に、「授業で学習したことは、将来の役に立つと思いますか」は、91.4%から93.5%に上がった。</li> <li>○ 保護者アンケート「学校は保護者の方や地域の方が授業などに参加する機会を設けていると思いますか」は、昨年度94.4%から98.6%に、4.2%も上がった。</li> <li>● 今後も、子どもたちがこの地域で生まれて良かったと実感できるように、地域に学び、人がつながる活動を積極的に取り入れていく必要がある。</li> <li>● 各学年において、地域の方との出会い学習や体験活動を実施していくときに、学習のねらいや取り組み方を打ち合わせする時間の確保を計画的に行う必要である。</li> </ul>	

重点目標 5	安全・安心な学校づくり	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(主な方策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラーと共に、子ども・保護者の心のサポートに、全職員で取り組みます。</li> <li>・いじめのない、仲間はずしのない保々小学校を、子どもたちと共に創り出していきます。</li> <li>・学校だより、学年・学級だより、ホームページを通して、学校の様子を積極的に発信します。</li> <li>・栽培活動や飼育活動を通して、学校の環境にうおいが感じられるようにします。</li> <li>・児童の安全意識・防犯意識づくりに取り組み、自分の命を守ることができる子を育てます。(危機回避能力の指導・向上、防犯教室、交通安全教室、防火教室、校内・校区安全マップづくり)</li> <li>・自由参観・懇談会・講演会・プール開放、ボランティア活動など保護者・地域住民の学校教育参画を更に進めます。</li> </ul> <p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業参観、運動会など月1回以上は、保護者、地域の方に学校の様子を参観していただく機会を設定した。保護者アンケート「通信やHPなどで学校や子どもの様子が伝わっていますか」は、91.4%の保護者が肯定的に回答した。</li> <li>○スクールカウンセラーに、毎回数件の保護者や子どもが相談にくるなど、心のサポート体制ができつつある。</li> <li>○親子下校で、通学路の安全点検や登下校中に大地震が起きたときに、どの地点で帰宅するか、登校するかの中点地点の確認を行ったことは今後も継続したい。</li> <li>●子どもアンケート「けがや事故をしないように安全に気を付けていますか」は、77.3%から80.1%に上がったが、今後も安全教育の徹底を継続して図る必要がある。</li> <li>●懇談会の必要性については、保護者の意見も聞きながら計画をしていきたい。</li> <li>●学級通信の発信の発行については、学級によってばらつきがあるので、どの学級も週1回は発信したい。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<p>◎今後も授業改善に重点を置き取り組みを進め、学ぶことが楽しい学校づくりの実現を目指す。そのためには、全国学力・学習状況調査、NRT検査、QU調査で課題を明らかにして、課題解決に向けた授業づくり・仲間づくり、「のびっこタイム」、朝の基礎学力タイムの個別指導、家庭学習などの反復練習に取り組み、その成果は学力検査で確かめていく。</p> <p>○安心して自分の考えが述べられる仲間づくりを推進し、誰一人として見捨てない教育活動にすべての職員が協力して取り組む。</p> <p>○OJT研修会の実施や他校の研究会に学び、教職員が研鑽を深め、授業力、指導力、学級経営力など教師力を高めていく。</p> <p>○特別支援や個別指導が必要な児童については、家庭との連携はもちろん、専門機関や教育委員会とも協力しながら支援を行う。</p> <p>○地域全体で子どもを育てるために、コミュニティースクールの充実を図っていく。</p>
---

【様式 1】

## 自 己 評 価 書

四日市市立 泊山小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	3
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>【主な方策】 ○朝の学習における月に1度の聞き取りチェック。 ○「聞く話すスキル」を使った暗唱チャレンジ及び、学校集会における異学年での暗唱チャレンジ交流。 ・見開き1ページを意識したノート指導及び、その余白を活用した自主学習の推進。</p> <p>【成果】 ・課題を提示し、最後に振り返りをする授業のスタイルが定着し、子どもたちが見通しをもって授業に取り組むことができた。 （聞き取りチェック） ・聞き取りチェックを継続して行うことにより、最初はできなかった子どもも少しずつ力をつけることができた。また、チェックシートをファイルすることで、自分の成長を感じることができた。 ・話を聴く時のポイントがわかり、大切なことを文にまとめる力がついてきた。 ・たくさんの情報の中から、大切なことをおさえて、人に伝える力がついてきた。 （暗唱チャレンジ） ・学校集会での暗唱チャレンジによって、意欲的に「聞く話すスキル」に取り組むことができた。また、異学年と交流することによって相手のことを考えて話す力がついてきた。</p>	
重点目標 2	心の教育の推進	3
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>【主な方策】 ○児童の状態を把握し児童の不安な気持ちに寄り添うためのQ-U調査や教育相談、それらに基づく担任の声かけなどの積み重ね。 ○今年度策定した道徳教育の年間指導計画に基づいた継続した授業。</p> <p>【成果】 ・Q-U調査による面談や、道徳の授業などの日々の積み重ねによって、「相手の気持ちを考える」点に関しては児童アンケートにおいて目標値を超えることができた。その結果や日々の児童の様子から、他者を意識した言葉かけや行動が少しずつ身に付き始めていると感じる。</p> <p>【課題】 ・教育活動の児童アンケートでの「先生に思いを言える」においては、目標値に届かなかった。設問の改善も含めて、教育相談や道徳の授業を積み重ねていき、児童が自分の思いを（いい意味で）素直に表現できるような環境づくりを目指す。</p>	
重点目標 3	からだづくりの推進、安全意識の向上	3
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>【主な方策】 ○授業始めの「5分間運動」の実施と運動の面白さを体感できる授業づくり ○楽しく進んで運動できる環境づくり ○体力向上に結びつく体育的行事の実施 ○一貫性のある安全指導</p> <p>【成果】 ・「かけ足週間とマラソン記録会」、「長縄週間と長縄発表会」など、体育的行事と日々の活動と体育の授業を関連付けて取り組むことができ、活動に対する意欲と体力の向上と運動量の確保を図ることができた。 ・児童に落ち着きが見られ、怪我等を理由に保健室に来室する児童数が減り、物品の破損等の事象も減ってきた。</p> <p>【課題】 各学級において、5分間運動は概ね行われたが、主運動につながる活動に必ずしもなっていない。各学年間で系統性をもたせ、時期に応じて行う5分間運動が出来るよう検討し、年間計画に位置づけたい。</p>	



重点目標 4	学校教育力の向上	4
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教師による1人1度以上の授業提案</li> <li>○学期に1度の授業公開期間の設定</li> <li>○ミニ研修会の開催</li> </ul> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一回以上の授業提案があり、授業公開の参観での気づきやミニ研修会での気づきや学びを取り入れることができた。</li> <li>・ミニ研のノート研により、見開き1ページのノート作りを意識して指導し、子どものノート作りが変わってきた。ミニ研を学期に3回行うことで研修を振り返り日々の授業に生かすことができた。</li> <li>・研修の方向性をはっきりしているので、意思統一して子どもに向き合えた。</li> <li>・特別支援教育のあり方を提案できた。</li> <li>・特別支援教育の研修を普通学級での指導に生かすことができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業公開は、低学年や生指、特別支援等の指導をしながら参観する時間を確保することが難しかった。</li> <li>・授業提案は、学年部により指導案検討や参観の時間に偏りが見られた。学年部で計画的に提案日を調整できなかった。</li> <li>・T. Tの役割分担を明確にし有効に活用していく必要がある。</li> </ul>	

重点目標 5	地域とともにある学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○年度初めにおいて、『家庭学習について』保護者と共通理解を図る。</li> <li>○必要に応じた家庭連絡や家庭訪問の実施。</li> <li>○学校づくり協力者等を活用した教育活動の推進及び、学校教育活動におけるアンケートの実施。</li> <li>○学年通信やH. P. での教育活動の内容や児童の様子の発信。</li> <li>○地域の文化行事への参加や、学校行事への参観。</li> </ul> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動アンケートでの「学校は、児童の学習状況をつかみ、適切な学習指導を行っている。」の項目において、90%近い評価を得た。</li> <li>・つんつく踊りやお木曳などの文化行事にも、児童が積極的に参加する様子がみられた。</li> <li>・月に1度のH. P. の更新を教職員が意識して行い、各学年において昨年度の反省を踏まえて、学校の様子を配信することができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者からの教育活動におけるアンケートでは、「教育活動の発信」についてはまだ十分でないという評価を得た。</li> </ul>	

## 2 改善方針

<p>【重点目標1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力・学習状況調査に向けて、過去の問題を授業で取り組んだり、月に1度の家庭学習として提示していく。</li> <li>・朝の学習において、基礎・基本の学力を確かにするために、曜日ごとに学習内容を決め取り組む。</li> <li>・司書と連絡をとりあって、国語の学習と結びつくような本の紹介や読み聞かせを実施する。</li> </ul> <p>【重点目標2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Q-U調査や教育相談、なかまづくりを意識した学級づくりをとおして、より一層児童が安心して学校生活を送ることができる環境を整えていく。</li> </ul> <p>【重点目標3】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主運動につながる5分間運動を、年間計画に入れて計画的に行っていく。</li> </ul> <p>【重点目標4】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの学年部も計画的に参観でき、指導案検討等に過度な偏りがでないよう検討する。</li> </ul> <p>【重点目標5】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度は、月に2度のH. P. 更新や通信等での教育活動の発信を行い、『地域とともにある学校づくり』をさらに充実させていく。</li> </ul>
---

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 常磐西小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の育成	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p><u>○基礎学力の定着と学力の向上</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力調査・CRTの分析をして、職員会議等で共有し、2学期以降の指導や基礎学力の育成の参考とすることができた。朝学習の「ぐんぐんタイム」では、漢字・計算の反復練習を中心に行い、基礎学力の定着を図った。</li> <li>・高学年では教科担任制を取り入れ、担当教科をより深く教材研究することができ、授業を児童の実態に即して工夫することができた。</li> <li>・理科・算数のチームティーチング（TT）を通して、児童の理解状況を複数の教員で把握することができ、きめ細やかな指導を行うことができた。少人数指導やTTにあたる教員数や空き教室等のスペースの確保が難しく、少人数やTTの形態にできないことがあった。高学年は、教科担任制を取っているため、時間割変更があったとき、すぐに対応しにくいという課題がある。今後も、少人数指導やTTの効果的な運用を考えていく必要がある。</li> </ul> <p><u>○授業づくりの工夫</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究主題「なかまとともに学び、自ら考えを向上しようとする子をめざして～協動的な学びを基盤とした確かな学力の育成～」の3年次として、学力を育成するための課題の提示の仕方や手立てについて、学年を中心にOJTを活発に進め、互いに研鑽を深めることができた。</li> <li>・外部講師を招き、机間指導や丸付け法、子どもへの具体的な声かけの仕方等を教えていただき、授業に活かすことができた。</li> <li>・学校全体で「めあて」「まとめ」等を板書に明示して授業スタイルを統一することで、「めあて」「まとめ」を意識した授業を行うことができた。</li> <li>・さらに、「書く」ということを意識し、授業の振り返りなどで自分の考えを書く活動を積極的に取り入れたことで、書く力が定着してきた。</li> <li>・道徳教育、人権教育においても各学年で年1回授業研究を行うことができた。また、12月には1年生の道徳の授業を全体研修会として行い、道徳の授業の進め方について学び合うことができた。</li> <li>・ICTを活用し、児童にとって視覚的にわかりやすい授業を実現することができた。</li> </ul> <p><u>○読書活動の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して、司書や図書ボランティアによる、授業に関連した図書コーナーの設置が行われ、各授業に図書室の資料を生かすことができた。また、ブックトークや読み聞かせなど、司書が入って担任と共に授業を進める活動も継続することができた。</li> </ul>	
<p>重点目標 2</p>	<p>豊かな人間性とコミュニケーション能力</p>	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p><u>○道徳教育・人権教育の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の教科化に向けて、道徳年間計画を見直し、具体的な教材について研究を深めた。年間計画をつくり、取り組みを進めることができた。</li> <li>・授業参観で年1回の道徳・人権学習の授業を公開することで、保護者への啓発を図ることができた。</li> <li>・2年生、4年生、6年生は、外部講師を招き、人権の授業を行ってもらったことで、人権についての理解を深めることができた。</li> </ul> <p><u>○教育相談、特別支援教育の充実</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四日市市特別支援地域コーディネーター及びアドバイザー、スクールカウンセラーと連携し、保護者・児童の教育相談を充実させた。いじめ、不登校に対しては専門機関、関係教職員、保護者と連携し、早期対応することができた。不登校に関しては、解決に向けて担任を中心に取り組みを続けている。</li> </ul> <p><u>○児童が主体的に取り組む児童会活動の推進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通して、5・6年生による委員会活動でより良い学校づくりのための取り組みを行うことができた。代表委員会の取り組みとして、1学期「とき西っ子夏まつり」を行った。代表委員が中心となって各学年・各学級ごとに児童が出し物や運営方法を話し合い、主体的に活動することができた。当日は子どもたちが協力し合い、楽しく活動する様子がみられた。2学期は、「運動会、ドッジボール大会、赤い羽根共同募金、あいさつ運動」に取り組んだり、終業式には「あいさつ」について、代表委員会が全校児童へ働きかける劇や呼びかけたりした。3学期も引き続き朝のあいさつ運動の取り組みを続けている。</li> </ul>	

重点目標 3	健康・体力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○体力・運動能力と食教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力向上の取り組みとして、学校目標を設定し、体育の授業計画の見直しを行った。授業の最初には準備運動として5分間運動を取り入れ、主運動につなげるようにした。また、全校的な取り組みとして、全校外遊び期間（5、10、2月の週1回）縄跳びチャレンジなどを行い、なかまづくりと共に体を動かすきっかけとなった。</li> <li>・2学期、けがの手当てについて劇を交えながらわかりやすく指導することができ、全校生徒の意識の向上につながった。また、養護教諭や栄養教諭と連携して、授業を行うことができ、充実した保健指導や食育をすることができた。</li> <li>・本年度は歯磨き指導に力を入れ全クラスで歯磨き指導を行うと共に、校医先生や歯科衛生士の方々に来ていただき歯磨き指導を行った。</li> <li>・「野菜を食べよう」というめあてのもと、好き嫌いをなくすために栄養指導をおこなった。</li> </ul> <p>○安全教育、防災教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学期に1回避難訓練を実施し、その都度見直しをすることでもしもの場合に備えてきている。また、PTAの協力のもと緊急下校訓練も実施した。7月には南警察署の方に来ていただき、防犯と交通安全の指導をしていただいた。また、5年生においては、地域の方を招き、防災教室を行ったり、4年生では防火教室を行ったりしながら意識を高めることができた。</li> </ul>	

重点目標 4	地域と共にある学校	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「みえの学力向上県民運動」に係る生活習慣・読書習慣チェックシートに取り組み、基本的な生活習慣をつけることの大切さや読書習慣をつけることの良さについて啓発する機会を持つことができた。年間を通して取り組むことで、定期的に振り返りをしてもらうことができた。</li> <li>・朝の登校指導では、PTAと協力して安全に登校できるよう見守りを行った。また、保護者の朝の登校見守りでは、本年度より西吉田橋も場所を追加し、より安全に児童が登校できるようになっている。</li> <li>・運動会においては、天候不良もあったが、PTAの協力のもと安全かつ円滑に実施することができ、保護者にも満足してもらうことができた。また、事後には反省を共有し、次年度へ引き継ぐこともできた。</li> <li>・5、6年生においては日赤のボランティアの方に来ていただき、救急救命法の指導を行った。</li> </ul>	

重点目標 5	教職員の資質向上と健康管理	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育について夏季全体研修会や学びの一体化で講演を聞くことで支援の方法を学び、指導に活かすことができた。</li> <li>・夏季休業中にICTの職員研修会を行い、学校にある機器や機材の使い方について学ぶことができ、2学期以降の指導に活かすことができた。</li> <li>・運動量を確保した授業づくりのために、年2回体育科の研修会を行い授業改善に努めた。</li> <li>・各学年を中心にOJTを進め、互いに情報交換を図りながら教材研究・教材開発を行うことができた。</li> <li>・10月以降、月に1回定時退校日を設定しており、設定した日には、仕事を切り上げて帰宅するようにした。行事は、精選するようにしているが、常に仕事に追われてしまっている現状がある。時間外勤務の縮減を図り、意識して健康管理に努めていく必要がある。</li> </ul>	

## 2 改善方針

- ・今後もよりよい学校教育活動を推進するため、P D C A サイクルによる改善に努める。
- ・生徒指導部提案によるアンケートや教育相談等による児童の実態把握に努め、職員全員が足並みをそろえて指導にあたることのできるような具体的な取組・目標を設定し、統一した指導を行う。
- ・学校組織や体制、学校行事等の精選を続け、教育相談や個別学習等に必要な時間を確保する。
- ・心の健康については、スクールカウンセラーを活用するとともに、保健室で養護教諭が児童の話を聴き取り、担任にフィードバックするなど、連携しながらすすめていく。
- ・空き教室がないことや教師の数に限りがある中で効果的なT T の運用の工夫を図るなど、実態に応じて指導の改善を行っていきたい。

## 【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 笹川東小 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	<p>①確かな学力の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎的学力の定着や問題解決能力の育成</li> <li>・ コミュニケーション力の育成</li> <li>・ 家庭学習の定着と内容の充実</li> <li>・ 学力の実態把握と指導方法改善</li> <li>・ 読書活動の充実</li> </ul>	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○「学び合い」の手法を取り入れた学習活動が定着し、互いの思いや考えを認め合う集団を育てることで、より主体的に学習に向き合うようになってきた。</p> <p>○算数科では、2年生では2コース、3年生以上での3コースに分けた少人数指導により個に応じたきめ細かな指導を行えた。CRT・学調の結果や落ち着いた学習の様子等、少人数教育による効果が認められる。</p> <p>○学習掲示を工夫し、子どもが無意識のうちに学力をつけられるようにできた。</p> <p>○総合的な学習の時間では、地域の特色を生かした学習内容を精選し、つけるべき力を明らかにした「笹川東小プラン」に基づき取組を進めることができた。</p> <p>○11月にささがわワールドフェスティバルを開催し、多文化共生の視点で地域で行った体験的な学習をもとに調べたこと・考えたことをグループ別に発表できた。また、地域・保護者への発信の場ともなった。</p> <p>○笹川子ども教室と連携し、夏季休業中に5日間学力補充の取組を行うことができた。</p> <p>△学校評価の中の「読書好きな子」に関する項目が、保護者・児童ともに肯定的意見が約8割にとどまっている。家庭と連携した取組が必要である。</p>	
重点目標 2	<p>②豊かな心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人権教育・道徳教育の充実</li> <li>・ 基本的な生活習慣の定着</li> <li>・ 特別支援教育の充実</li> <li>・ 教育相談推進と問題行動の未然防止</li> </ul>	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○文化体験活動を充実したものにする事ができた。言葉の壁を越えて、だれもが楽しめる活動を充実させることができた。</p> <p>○児童集会では個人の得意なことを発表する機会を設けたり、委員会による創意工夫した活動を推進したりして、自主的な児童会活動を発展させることができた。</p> <p>○定期的に児童に関する情報交換を行い、共通理解を図ることができた。</p> <p>○校内特別支援コーディネーターを中心に児童観察を行い、気になる児童の早期ケース会議を開き、指導方針や支援体制を確認することができた。</p> <p>○教育相談の時間を確保し、年3回以上児童全員との面談を実施できた。</p> <p>△携帯電話・スマートフォンの所持率が年々高くなってきている。保護者啓発を含めた取組が必要である。</p> <p>△遅刻や無断欠席は減少しているが、家庭への働きかけ等の取組の充実がさらに必要である。</p> <p>△子どもたちが安心して学校に来ることができるよう、スクールカウンセラー・関係機関との連携をさらに進めたい。</p>	

重点目標 3	③健康・体力の向上 ・体力づくりの推進 ・学校危機管理体制の強化 ・安全教育の推進 ・健康教育・食育の充実	3
主な方策 成果と課題	○体力増進や食育、生活リズムを整える取組など、年間計画に沿って計画的に進めることができた。 ○地域の見守り隊と連携して、登下校の安全確保に努めることができた。 ○地域の協力者と連携して、子どもたちの励みとなるような学習環境の整備を行うことができた。 ○緊急下校方法を確立し、保護者・教職員・地域協力者の間で共通理解を図ることができた。 △体力増進の取組成果が、体力テストの結果として未だ表れてきていない。 △地域と連携した防災の取組をより一層進めていく必要がある。	
重点目標 4	④地域・家庭・関係機関との連携 ・保護者・地域住民 ・いろいろな通信やHP等による情報発信 ・学校公開の推進 ・保護者・地域の教育ニーズの把握と改善活動	4
主な方策 成果と課題	○「地域に開かれた学校」を目指して、保護者や地域に学校の教育活動を公開することができた。 ○保護者と学校が協力しながら学校行事をつくりあげ、さらに地域をまきこんだものにすることができた。 ○学校HPをきめ細かく更新し、学校の教育活動についての理解を得ることができた。 ○スクールカウンセラー、外部の専門機関と連携しながら、子どもたち一人一人にきめ細かな支援をすることができた。	
重点目標 5	⑤教職員の資質向上 ・よりよい授業づくりの推進 ・西笹川中学校区の学びの一体化推進 ・校外研修会を活用しての授業力向上・組織的な取組・協働の推進 ・子どもに向き合う時間と心のゆとりの確保	3
主な方策 成果と課題	○全員の授業公開や参加型の研修会を通して、教師力の向上を図ることができた。 ○職員が率直に話ができる雰囲気づくりに努めるとともに、OJTを推進し協同的に学ぶことができた。 ○全国学力学習状況調査の結果を詳細に分析し、授業改善を目的とした研修会を実施し、職員の共通理解を図ることができた。 ○校内メールを活用し、職員同士の情報共有を図り、効率の良い記録にもつながった。 △全国学力学習状況調査で課題となった項目について、授業改善の取組をさらに進める必要がある。 △休憩時間に会議を設定せざるをえないことがあり、会議精選や各部調整等で効率的な学校運営を進める。	

## 2 改善方針

学校づくりビジョン推進に向け、教師力を高めるとともに、学校組織の活性化を図り、学校の教育力を高めたい。

### <確かな学力>

- 家庭学習の定着のため、内容指導を学年に応じて丁寧に行う。家庭と連携し引き続き家庭学習の習慣化を進める。
- 個々の教師の努力・工夫を学校全体の取組にまで再構築していく必要である。朝の「ささがわタイム」では国語・算数の基礎的学力向上を中心に、英語活動の実施や体力向上等の内容を盛り込んでいく。昼の「読書タイム」では、落ち着いた読書環境の中で読書好きの児童を育成する。
- 算数科では、習熟度別指導をはじめ多様な少人数教育を実施していく。個に応じたきめ細やかな指導方法の工夫をさらに進めていきたい。
- 日本語指導が必要な児童に対しては取り出し指導だけでなく、在籍学級でのJSLカリキュラムを活用した授業を進めていく。
- 多文化共生学習計画「笹川東小プラン」に基づいて実践を進めることで、多文化共生について職員の共通理解を進めていく。また、ささがわワールドフェスティバルなどの場を地域や保護者への情報発信としていく。

### <豊かな人間性><健康な心と体>

- 児童会活動や委員会活動等を通して、児童の自主性を育む活動を工夫する。
- 「早ね・早起き・朝ごはん・朝うんち・歯みがき」の取組を今後も継続して進め、基本的な生活習慣の定着を図りたい。
- 子どもたちの自尊感情を育む授業のあり方、指導の方法についての共通理解を進めていきたい。
- 子どもたちが「自ら学び、考え、行動する」安全教育の推進をさらに進めたい。

### <家庭、地域とともに><学校経営、研修>

- 専門家と連携した授業や交通安全・防災・防犯・生徒指導等の各種教室を計画的に実施する。
- 英語・道徳を中心とした新学習指導要領に対応した研修会を開催し、授業力の向上を図る。
- 西笹川中学校区の保・幼・小・中の学びの一体化をさらに進めていくために、内容を厳選し効率的なものとしていく。
- 家庭訪問や電話・通信等による迅速、的確な情報共有に努め、HP、学校・学年だよりなどを通して保護者・地域の理解・信頼をさらに高めていきたい。
- ゲストティーチャー等の活用、地域・保護者との連携をさらに深めるとともに、学校自己評価のアンケート結果等を教育活動の改善に生かし、地域・保護者・学校が一体となった「魅力ある学校づくり」をさらに推し進めていきたい。
- 勤務時間縮減に向けてICTを活用した事務の効率化をさらに進めていきたい。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 三重西小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力を育てる	3
主な方策 成果と課題	<p>①基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着</p> <p>○チャレンジタイムの導入をし、弱みに対してアクションを起こした。                  ▲チャレンジタイムと朝の学習の違いが分かりにいった。3年生までは違いを明確にすることが難しいかもしれないが、4年生以上は「チャレンジタイム」を課題克服の時間として有効に使っていきたい。                  ○今年度は、家庭学習定着週間を年度初めに行ったため、家庭訪問で話題にあげやすかった。                  ▲家庭の手引きは、2年目となったが完全に定着することはできなかった。宿題内容をプリントにすると提出率が上がるようだが、毎回そういうわけにもいかず、できる限りの取り組みをしている。今後も宿題の内容・量・家庭への啓発など検討しながら進めていく必要がある。</p> <p>②思考力、判断力、表現力の向上</p> <p>○ノートの取り方を確認できたことで、子どもたちも迷いなく取り組めるようになってきた。                  ○45分の流れ「めあて→思考→学び合い→まとめ」が子どもたちにも定着してきている。                  ▲学調などの結果からは、出された問題から考えを深めることや、条件を満たした表現をすることができていないことが弱みである。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性を育てる	3
主な方策 成果と課題	<p>①互いに認め合う豊かな人権感覚の育成</p> <p>○児童調査「学級のなかまや友だちとなかよくしている」の4・3回答（4段階）の目標値85%以上に対して、93.1%となった。日ごろの学級・学年・学校としての指導が、子どもたちにしっかりと意識されつつある。                  ○年2回のQ U調査や年3回のいじめ調査等は、子どもの姿や思いなどを掴む（子ども理解）ためのツールとして大変役立っている。                  ○中学校区の人権フォーラムは、各校の人権に対する取り組みを交流し合えて、充実した内容であった。                  ▲6年の人権意識調査において「いじめはどんなことがあっても許されない」の項目が低かったため、授業では意識的に指導をしてきたが、実生活においては活用できていない。</p> <p>②基本的な生活態度の育成</p> <p>○児童調査「学校生活のルールや約束事を守っている」の4・3回答の目標値90%に対して、90.5%（前期調査86.3%）となった。学校職員がしっかりと共通理解をしつつ、粘り強く指導を行っていることで、子どもの意識に根付くとともに、多くの場面でいい姿を見ることができた。                  ○5項目については、学校全体の課題として共有できた。                  ▲5項目についての掲示は、マイナスの捉えとなっている部分もある。</p> <p>③読書活動を通じた豊かな想像力の育成</p> <p>○読書週間・ブックトーク・なの花文庫・図書館まつりなど様々な取り組みにより、休み時間にも読む子が増えてきている。今年度、2冊借りられる期間を設けたことで、本を身近に感じることもできた。                  ▲記録用紙は、取り組み後に持ち帰らせるため紛失をし、継続的にできない。保護者からのコメントも毎月あると負担になる。読書週間の回数を減らす代わりに、1週間は必ず読書を行うなどの改善も必要。                  ▲保護者へのアンケートの文言を「家で読書をしている」と変えた方が、回答に迷いがなくなる。</p>	



重点目標 3	すこやかな体をつくる	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>①進んで運動に親しみ体力向上を図る活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育の授業や体育的行事の充実</li> </ul> <p>○体育的行事(おはようマラソン、なわとびチャレンジ等)に取り組むことで、休み時間にも進んで運動場に出て体を動かす児童が増えた。</p> <p>▲5分間運動を充実させるために、事例の紹介だけでなく実技研修会の実施も考える必要がある。</p> <p>▲各行事の間中は進んで体を動かす子どもが増えるが、期間後も継続して運動に親しもうとする子どもはまだ少ない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新体力テストの分析と活用</li> </ul> <p>○各自の体力の様子を6年間継続して記録していくことで、自分の体に関心を持ち、体力を高めていこうとする子どもを育てることができた。</p> <p>②基礎的生活習慣の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活リズムの向上(チャレンジ週間の実施)</li> </ul> <p>○2学期と3学期、2回の生活リズムチャレンジ週間に取り組んだことで、規則正しい生活を送ることへの意識付けをすることができた。</p> <p>▲ゲーム、ラインなどをして生活リズムが乱れる子が多い。家庭との連携が急務。</p> <p>③健康・安全意識の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保健指導の充実</li> </ul> <p>○様々な場面で健康に関する指導を行ったり、養護教諭による保健指導を行ったりすることで、子どもたちに健康への意識を持たせることができた。</p> <p>○栄養教諭による授業は子どもたちにとって分かりやすく、理解しやすいものであった。日々の保健指導や養護教諭による保健指導とも相まって、子どもたちの意識も向上している。</p> <p>▲学校での取り組みによって、子どもたちは健康についての基礎知識を身につけており、規則正しい生活を送ることが大切だという意識も持っているが、生活の基盤は家庭であるため、より一層の保護者への啓発が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安全教育、防災教育の推進</li> </ul> <p>○火事・地震・休憩時間中と、様々な場面を想定した防災訓練を行うことで、災害時の避難の仕方について理解させることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育環境整備</li> </ul> <p>○日常的に安全点検を行うことで、子どもの事故を未然に防ぐことができた。</p>	

重点目標 4	学校教育力の向上	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>①校内研修の充実</p> <p>○組織的な取り組みがなされ、充実している。</p> <p>○授業の流れ「つかむ・見通す・考える・伝え合い深める・確かめる」の中の「見通す」について特に意識でき、授業の流れがつかめてきた。</p> <p>○具体的な図や数直線を使うことが表現力を高めるためのツールになり有効であることがわかった。</p> <p>▲研修のサブテーマ「言語活動の充実」の面であまり踏み込めなかった。「あれ」「これ」など指示語だけでなく、どんな言葉を使うと相手に伝わるか、図や数直線などのツールを使うことで分かりやすくなるか、などを考えていきたい。</p> <p>▲事後研では付箋をつかったグループの話し合いをしてきたが、さらにテーマを絞った全体での交流をしていきたい。発言記録を取るなどして子どもたちの姿から、どこで指導すべきであったかを見直す事後研にしていってはどうか。</p> <p>②特別支援教育の充実</p> <p>○支援児童の様子について校内委員会内で情報交換をし、全教職員の共通理解のもとに支援体制を組むことができた。</p> <p>○支援ファイルや個別の指導計画を作成し、支援の方向性や到達目標を設定した。</p> <p>○支援の必要を感じたとき、地域コーディネーターに児童観察を依頼するなど、迅速に対応することができた。</p> <p>○年度毎に支援児童を見直し次年度に申し送ることで、支援を継続的に行えるようにした。</p> <p>○支援ファイルや支援計画、指導計画を作成し活用していくことに関しては、評価の平均が3.26となり、昨年度よりもわずかによくなった。生特委員会で作成・活用について毎年繰り返し知らせ取り組んできたことにより、成果となってあらわれたと思われる。</p> <p>▲児童調査の「家庭や生活で困った時、先生に相談できる。」は、前期72%から75%に上がったが80%の目標にはとどかなかった。引き続き児童の様子をよく見て、対話の機会を設けていくとともに、担任以外の先生（養護、SC）にも相談してもよいことを声をかけていく。</p> <p>○同じ項目で全校の保護者の回答は前年度より5%上がった。</p> <p>○特別支援学級公開授業を年度初めに行うことで、児童理解と個別につけたい力を全教職員にはかり、特別支援教育の研修を深めることができた。</p> <p>③学びの一体化での授業研究</p> <p>○各校の様子を知り合うことができた。</p> <p>▲保幼の公開に、参加者が少ない。事後研についても各部（研修・生活・人権）から必ず出席できるようにしたい。</p>	

重点目標 5	地域と共にある学校	4
主な方策 成果と課題	①コミュニティスクールによる学校運営の充実 ○学校の取り組みを、機会あるごとにわかりやすく伝えている。 ○今年度、子どもの様子を見てもらえるよう、平日の昼間に会議を持ち授業も参観していただいたので、子どもたちの様子を見てもらうことができた。 ○学校見守り隊やどんぐりの会などの活動は、学校にしっかり定着している。 ②家庭・地域・学校の協働の推進 ○しろやま倶楽部の活動は、多岐にわたり子どもたちの様々な体験ができています。 ○地域との関わりが、各学年で決まっているので取り組みやすい。 ▲4年生だけ地域との関わりがないため、「清掃活動」や「見守り隊」などつながっていくのもよい。	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の定着に対しては、機会あるごとに啓発をしていく必要がある。</li> <li>・学調に出題される問題に対して、授業の中で触れさせることで子どもたちの自信につなげたい。</li> <li>・「いじめ」意識についても、「どんな理由があっても、いじめはいけない」ということを低学年から理解させるよう学校全体で考えていきたい。</li> <li>・体力向上として5分間運動に取り組んでいるが、行っている内容を交流し合える研修会を持つことでさらなる定着を図っていきたい。</li> </ul>
---

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 大谷台小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	問題解決能力の向上	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎日の授業や朝の学習の時間に、言語活動の充実を図り言葉の力をつける。</li> <li>・ 思考の場を設定した授業作りの研究を推進し、論理的思考力の育成を図る。</li> <li>・ ねらいに応じて自分の考えの形成・交流を積極的に図るための場作りについて研究する。</li> <li>・ 中学校区や校内において、連携を密にした教育活動を行う。</li> </ul> <p>○今年度末の「分かりやすく自分の思いや考えを表現することができる」児童の割合は85%だった。スピーチコンテストなどの場を共有することは学校として大いに効果があった。</p> <p>○11月18日に公開授業研究会を開催した。たんぼぼ・各学年部および学校提案、軽8本の提案授業を行ったことで子どもに大いに力をつけることができた。</p> <p>○年間の見通しを共有し、計画的に全員で研修を推進していくことができるようになってきた。</p> <p>○どの学年も各教科において、日常的にペア・グループ学習を取り入れ、考え合う場面を設定した。</p> <p>○今年度は各教科別の部会や海蔵小学校の授業参観をする機会を得た。中学校区として、今後も子どもの情報交換の場を大切にしていける必要がある。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ QU調査を実施し、その結果を生徒指導に生かす。(年2回)</li> <li>・ 各学級で個別教育相談を行う。(年3回)</li> <li>・ 学校のきまりを職員で共通理解し、指導に生かす。</li> <li>・ 生徒指導について共通理解を図るため、毎週始めに生徒指導情報交換を行う。必要に応じてケース会議を行う。</li> <li>・ 「見つめる子」を設定し、その子を取り巻く学級集団の仲間づくりを行う。</li> <li>・ 5つの人権課題を中心に、人権教育の実践を進めていく。</li> <li>・ 道徳教育の推進計画に基づいて実践を進めていく。</li> <li>・ 年間を通して読書の時間を設定し、10分間読書・本の読み聞かせ等を行う。</li> <li>・ 図書館の環境整備を進めたり、蔵書を充実したりすることで、親しみやすい図書館づくりを進める。</li> <li>・ 児童集会・クラブ活動・委員会活動・観劇会等、さまざまな体験活動を行う。</li> </ul> <p>△自己肯定感の低いことが分かったQU調査の結果をもとに、有効な対応策をとることができなかった。</p> <p>○教育相談により児童理解を深めることができた。</p> <p>○名札・スリッパ・掃除・あいさつに気を付けて生活する児童が増えた。</p> <p>○情報交換会やケース会議を実施することで情報を共有することができた。</p> <p>○各学年「人権教育5つの課題」に基づいた実践を意識的に行うことができた。また、各学年レポートにまとめ、重点項目を交流する全体研もできた。</p> <p>○人権教育のミニ研など、人権意識を高める研修を行うことができた。</p> <p>○昼読をすることで、落ち着いて5時間目に向かうことができた。</p> <p>○読書の記録が読書意欲を高めることが確認できた。</p> <p>△図書返却が遅れ、督促や紛失につながるがあった。</p> <p>○集会などの場で自己表現する姿が多く設定することができた。</p> <p>△クラブでは指導が難しい面もあった。</p>	

重点目標 3	健康な体の育成	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5分間運動を取り入れながら、体を動かすことが好きになるよう、体育の授業を工夫する。</li> <li>・ 体育的行事を生かし、体力向上に取り組む。</li> <li>・ 実際の場面を想定した避難訓練を実施する。</li> <li>・ 月1回安全点検に取り組む。</li> <li>・ 交通安全教室を行い、特に安全な自転車の乗り方に取り組む。</li> <li>・ 食育を他教科と連携し、食育授業に取り組む。</li> <li>・ ハッピー人参などによる、給食残菜減少に取り組む。</li> </ul> <p>○5分間運動などを通して、楽しく運動する意欲は向上したと思う。  △体力テストの結果を見ると、握力や持久力はあまり伸びていなかった。  ○例年通り、様々なパターンでの避難を経験させることで、避難行動が素早くなった。  △ヘルメットの未着用や見切り出発など、自己の安全を守る意識がまだ低いと感じられる。  ○栄養職員が各教室で一緒に給食を食べることで、作る側の気持ちを考える機会が多くなり、残菜減少につながった。</p>	
重点目標 4	特別支援教育の充実	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特別支援委員会を定期的に関いて具体的な手立てについて話し合い、指導に生かす。</li> <li>・ 学年会で話された内容を拡大特別支援委員会で交流し、適切な支援を行うことができるようにする。</li> <li>・ たんぼぼバザールの取り組みを通して、全校の子どもたちと関わり、お互いに理解を深め合う。</li> <li>・ たんぼぼ通信を全学級で掲示することによって、特別支援学級の子どもたちへの理解を深める。</li> </ul> <p>○教育支援課や地域コーディネーターのアドバイスを受けて指導の工夫につなげることができた。  △特別支援教育コーディネーターに業務が集中しており、他の職員が外部機関とのつながりを知らない場合がある。  ○たんぼぼバザールの取り組みを行ったことは、全校の子どもたちにとって効果的だった。  ○今年度は、事前にたんぼぼ通信を発行したり、昼の放送でお知らせ活動をすることができた。</p>	
重点目標 5	家庭・地域との協働の推進	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的に通信の発行やHP更新を行い、積極的に情報を発信する。</li> <li>・ 授業参観や学校公開日をのべ10回実施し、学校公開を推進する。</li> <li>・ ゲストティーチャーに参加を呼びかけ、学習活動や特別活動に協力を得て、各活動の充実を図る</li> <li>・ 保護者や地域人材について、ゲストティーチャー拡大の方策に取り組む。</li> <li>・ 防災週間を設け、保護者にも災害の恐ろしさを再認識してもらい、災害から身を守る大切さを啓発する。</li> <li>・ 家庭学習の手引き一覧表として学校の基本的な方針を保護者に通信や懇談などで発信する。</li> <li>・ 4年生の総合的な学習の時間を中心としたEM河川浄化活動を行う。</li> <li>・ 地域指導者と連携し、EMクラブ活動を実施する。</li> </ul> <p>○授業参観・学校公開等は全て計画的に実施された。  ○1月10日現在アクセス数は38529である。  △HPの更新が少なめで、学年によってばらつきがあった。  ○4年生でのEMの活動に加え、3年生の獅子舞と長く続く見通しの持てる教材が発掘され、社会科・総合的な学習の時間とからめたダイナミックな単元を展開することができた。  △地域人材および教材の情報を得たものの、十分に活用できなかった。  ○防災教室を開き、地域の防災施設の見学や講話・体験を通して防災意識の高まりが生まれた。  ○5年生が防災教育を行うことで、保護者への啓発運動にもなった。  △避難訓練で、計画外のことが起きた場合の対応に悩む場面があった。しかし、それをマニュアル改善のきっかけとすることができた。  ○丁寧に点検や事後指導を行うことにより、学力の定着につなげることができた。  ○4年生を中心とした河川浄化活動は計画的に実施され、環境教育として効果をあげた。EMクラブ活動も順調に行われた。</p>	

重点目標 6	教職員の資質・能力の向上	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的・計画的に授業づくりや仲間づくりについて学びあう研修会を実施する。</li> <li>・三重大学教育学部の守田庸一先生を招聘し、研究推進について指導助言を得て授業力を高める。</li> <li>・学校づくりビジョン推進と関連させ、サポートブックを活用したり、面談を実施したりし、教師力アップに努める。</li> <li>・仕事の精選を行い、教職員が創造的に働ける職場環境を築くとともに、労働時間短縮により職員一人一人の健康を維持し、意欲と活力を向上させる。</li> </ul> <p>○年間通して、計14回(国語7回人権4回体育2回外国語1回)ミニ研修会を計画的に実施することができた。1回30分だが、有意義な時間となった。</p> <p>○大学連携の枠で、守田先生を全体研に招聘し、全体研修会及び公開授業研究会を年間6回効果的に実施することができた。</p> <p>○サポートブックを活用して2回以上の面談を実施することができた。</p> <p>○ 公開研に向けた取り組みなど、計画的に仕事を進めることができ、全体として退校時刻が早くなった。</p> <p>○定時退校日の保護者への周知により、確実に実行されるようになった。</p>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、全校集会や各学年での取り組み等、分かりやすく自分の考えを表現する機会を計画的に設定し、どの子にも力量を付けさせたい。</li> <li>・来年度も、今年度の方向性を継続し、「クリティカルリーディングを取り入れた授業改善」の3/3年次の実践を積み総括をする。</li> <li>・今後も、個々の力量を高め、思考を深め合う交流活動の場になっているか、ねらいに即して検証していくことが大切である。</li> <li>・自己肯定感が低い子が毎年課題になっているので、日々の教育活動の中で自己肯定感を高める場づくりをすすめていく。</li> <li>・今後も、子どもの背景を見つめ寄り添う姿勢を大切にして、仲間づくりと人権課題を念頭に置いた人権教育実践を日常的に進めていく。</li> <li>・来年度も子どもたちが自己表現する場を多く設定する。</li> <li>・5分間運動では、ただ楽しいのではなく、主運動につながる運動を考えていきたい。</li> <li>・次年度は交通安全教室でヘルメットの着用の大切さや、自分の身を守る行動がどのようなものかということ、体験を通して学ばせるようにしたい。</li> <li>・具体的な支援方法や外部機関とのつながりについて、全体で共通理解を図る機会を効果的に設けていきたい。</li> <li>・教員が地域に出て話を聞いたり実際に見たりして、教材につながるヒントを集める活動を行う。</li> <li>・目指す子どもの姿や研修とつながる活動となるよう、単元展開の工夫を進める。</li> <li>・家庭学習の準備や点検に多くの時間と労力をとられているため、全学年で方法を統一するなど、効果的で効率的な方法を確立する必要がある。</li> <li>・来年度も、それぞれが個々のめあてを明確に持ち、学校としてビジョンを共有し協働できるように努めていく。</li> <li>・定時退校日以外の日には帰宅が遅くならないよう、仕事量の見直しや計画的な推進に引き続き取り組む。</li> </ul>
--

## 【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 笹川西小 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	基礎基本の定着を図る。	4
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個に応じた指導を重視し、国語・算数科での少人数教育（習熟度別）を継続して行っているため、多くの子どもたちが自分に合ったペースで学習が進められていると感じ、学習意欲も高まってきている。</li> <li>・一人ひとりに応じた課題を設定し、スモールステップで学習を進めているため、基礎基本を定着できている子どもたちが増えてきた。</li> <li>・朝学習での取り組みでは、毎週月・水曜日に「音読」、火・木曜日に「計算」、金曜日に学年の実態に応じた取り組みを行っている。年間を通じて全校児童で取り組んでいるので、はっきりと話す子どもたちが増えたり、計算に抵抗を感じる子どもたちが少なくなったりしてきた。特に計算では、割合の学習で割り算の筆算をていねいに指導したので、商の見当がつけられるようになってきた事例も見られた。</li> <li>・一貫性を持って家庭学習を徹底して行わせることができ、保護者の協力も得られることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の授業、朝学習、家庭学習と、基礎基本の定着を目標に取り組みを進めているが、子どもによっては定着できていない。</li> <li>・基礎基本に縛られており、学力を確かなものにできていない。</li> </ul>	
重点目標2	子どもが夢中になる授業づくりをすすめる。	4
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「めあて」「ふりかえり」を1時間の授業で提示することを徹底した。授業始めに「めあて」を子どもたちに提示することで、1時間の授業での目標がはっきりし、最後に「ふりかえり」を書かせることで、学んだことを再度確認することができるようになった。</li> <li>・課題設定、働きかけについて、校内研修でよりよい授業ができるよう教職員全体で考えることができ、一人ひとりが授業改善に努めることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが夢中になるような課題を設定できるよう、さらに研修を積み重ねる必要がある。</li> </ul>	
重点目標3	心と体によい健康教育を推進する。	4
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養教諭と連携し、「健康の日」を設け、食育について全校体制で取り組んでいる。各学年で学んだことを学校公開日の学校保健委員会の場で発表することで、保護者や地域とともに健康教育を進めている。</li> <li>・担任や養護教諭が授業や保健指導を通してバランスの良い朝食を食べることについて意識を高めている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食の大切さについて学習し、保護者・地域にも発信しているが、家庭の協力を得にくい状況である。</li> <li>・体力テストを全校で行っているが、その結果を分析したり改善案を提案したりすることができておらず、取り組みとしては不十分である。</li> </ul>	

重点目標 4	自尊感情を高め、ちがいを認め合える仲間づくりをすすめる。	4
主な方策	【成果】 ・多文化共生を学校生活の中心にすえて取り組んでいるので、子どもたちは一人ひとりのちがいを認め合える子どもたちが多い。 ・人権教育は、あらゆる機会を通じて指導をしている。そのため、いじめに対しては、ほとんどの児童が「どんなことがあってもいじめはいけない」と思っている。	
成果と課題	【課題】 ・自尊感情を高めるようあらゆる機会を通して取り組みを進めている。毎年少しずつ改善されてはきているが、まだまだ自尊感情が低い子どもたちが多い。今後もあらゆる教育活動を通して、取り組みを進めていかなければならない。	

重点目標 5	安心で安全な学校づくりをすすめる。	3
主な方策	【成果】 ・命の尊さについて、あらゆる教育活動を通して子どもたちを指導してきた。その結果、ほとんどの子どもたちが「命は大切である」と考えている。 ・避難訓練は、笹川地区での津波避難など、やや現実にそぐわないところもあったが、海岸沿いなど津波の危険がある地域で地震や津波が発生した場合など、少しずつではあるが改善できた。	
成果と課題	・保健関係の緊急時の体制を見直し、確立することができた。 【課題】 ・避難訓練を行い、命を守る行動について指導してきたが、なかなか自分で判断して行動するのは難しい面もある。	

重点目標 6	開かれた学校づくりをすすめる。	3
主な方策	【成果】 ・月に1回程度、授業参観や個人懇談会などを開催し、保護者が来校できる機会を設置している。2学期末の個人懇談会も定着し、年々参加希望者が増えている。 ・ホームページを毎日・更新し、本校の教育活動を知ってもらうよう努めている。 ・学校評価を見直し、重点目標の達成状況が昨年度よりもさらに明確になった。	
成果と課題	【課題】 ・学校評価で、保護者から意見や提案をいただいている。本校がよりよい教育を行うために、それらの意見や提案を教育活動に生かしていかなければならない。	

## 2 改善方針

・引き続き、多文化共生を人権教育の中心にすえ、多文化共生の取り組みを学年で系統立てて行っていくたい。

・基礎基本の定着に向けて、朝学習や授業を改善していかなければならない。また、家庭学習の習慣や、集団生活を送るための基本的な生活習慣が身につけていない子どもたちもいるので、粘り強く指導していくとともに、懇談会や家庭訪問を利用し、家庭の意識改善を引き続き行っていかなければならない。

・支援の必要な子どもたちには、子どもたち一人ひとりのアセスメントに基づいて、指導計画をたて支援方法を考えていかなければならない。



【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 桜台小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①基礎的・基本的な知識と技能の定着</li><li>②思考力・判断力・表現力の育成</li><li>③言語活動の充実</li><li>④特別支援教育の推進</li></ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・日々の授業において「ねらい」「振り返り」を意識して行い、学習内容の定着を図った。教師の意識が高まり、児童の定着を把握することができた。</li><li>・各種研修会に積極的に参加し、力量向上に努めた。また、その内容を共有することで、授業に生かすように心がけた。</li><li>・「振り返り」については、質の向上を図ることが今後の課題である。</li></ul>	
重点目標2	豊かな人間性	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①なかまづくりの推進</li><li>②人権教育の推進</li><li>③道徳教育の推進</li></ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「いじめ防止月間」の取り組みとして「サンタさんに幸せプレゼントを贈ろう」と、親切にしてもらったことや優しくしてもらったことを掲示して、全校の子どもたちで交流しお互いの優しさについて見つめ直すことができた。</li><li>・職員研修としてなかまづくりレポートを書くことで、自分自身の振り返りをすることができた。また、各学級の取り組みの様子や現状、課題を知り合うことができた。更に日常的に職場で気軽に話し合える場を作っていけるとよい。</li><li>・人権フォーラムでは、小中を通じた人権課題について前向きに議論し、学び合うことができた。</li><li>・授業参観で道徳の授業を公開し、小学校における道徳の授業について、保護者と共に考える機会をつくることができた。</li></ul>	
重点目標3	健やかな体の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>①健康・安全についての意識の向上</li><li>②体力・運動能力の向上</li><li>③豊かな生活を営む食育の推進</li></ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・運動会では、開閉会式や係の仕事など、子どもを中心とした企画・運営を行うことができた。</li><li>・水泳では、大きな事故もなく、安全に活動できた。プールでの安全指導や、各泳法の練習例などを共有したことで、全員が高い意識を持って水泳指導することができた。</li><li>・業間駆け足は、運動量の確保、持久走に向けての意欲づけとなり、児童の感想に、もっと走りたかったという声が寄せられた。</li><li>・体力向上に関わって、ミニ研修会を行うことで共通理解を図り、各自がすぐに授業等で活用することができた。</li><li>・避難訓練での児童の様子から、緊急時対応への意識の低さがわかった。事前・事後、そして日々の指導を行い、意識を高める必要がある。</li></ul>	

重点目標 4	子どもが主役の学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>①規範意識の向上 ②生活科・総合的な学習の充実 ③特別活動の充実</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会などの行事で運営委員に活躍の場を持たせたことで、行事に意欲的に取り組むことができた。</li> <li>・挨拶やトイレのスリッパなど、当たり前のことが徹底されていない部分がある。「きまり」の確認を行い、一人ひとりが実践していけるようにしていきたい。</li> <li>・生活科・総合的な学習、特別活動等においては、各教科との横断的な授業も考慮し、計画的に進めているが、今後は地域とも連携し、人々との人柄に触れて、自分の生き方をより深く考える機会としたい。</li> </ul>	

重点目標 5	信頼される学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>①学校の情報発信の充実 ②PTA・地域との連携 ③学校評価を活用した学校づくり</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、学校だよりや学年だより、HP等で情報発信をし、共通理解や話題提供等を進め、家庭との連携を図る。</li> <li>・学習ボランティアの方に学習支援していただくことで、よりきめ細かな指導ができた。しかし、指導にあたり、事前の打ち合わせをきちんと行う必要がある。特に、実験や実習などのボランティアについては、指導者とボランティアの方の共通理解が大切である。また、計画的に活用するとともに、活用内容を広げていきたい。</li> <li>・保護者の声に真摯に耳を傾け、学校アンケートの結果を大切にして、学校教育活動及び学校運営の改善を行う。</li> </ul>	

重点目標 6	教職員の資質向上	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>①授業改善のための校内研修の充実 ②目的意識を持った研修の推進 ③OJTの推進</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内で各種研修会を行うなど、研修内容の充実を図ってきた。年間を通して多くの教職員が発表をする機会を持つことで、児童の実態を把握するとともに、共通理解を図ることができた。</li> <li>・多くの方にプレゼンをしてもらったが、テーマに合った内容を行うなどの必要がある。</li> <li>・ミニ研修会や還流報告会を行うことで、教師間の共通理解を図るだけでなく、各自の授業改善に向けて振り返ることができた。</li> </ul>	

## 2 改善方針

- 重点1 確かな学力の定着
  - ・ 基礎学力の定着、向上 → 個人差への対応、家庭学習（プラス・ワン）のさらなる充実
  - ・ 少人数教育の充実 → 個に応じた効果的な少人数授業の方法を探る
- 重点2 豊かな人間性の育成
  - ・ 人権教育の充実 → 一人ひとりの子どもの思いを受け止める。なかまづくり研修の充実を図る。
- 重点3 健やかな体の育成
  - ・ 健康・安全についての意識の向上 → 日常の安全指導に取り組む。危機管理意識を高める。
- 重点4 子どもが主役の学校づくり
  - ・ 規範意識の向上 → 基本的な生活態度及び規範意識の育成に向けて、日頃から保護者と連携をとりながら進める。
- 重点5 信頼される学校づくり
  - ・ 地域や保護者との連携 → 学校だより、HP、学年通信などの内容充実及び定期的・継続的な発信を行う。
  - ・ 地域ボランティアの活用 → 地域ボランティアの人材発掘及びねらいをもって、計画的に活用する。
- 重点6 教職員の資質向上
  - ・ 学び合い、支え合う職員集団づくり → 研修で学んだことを日常的に生かし、授業改善を図る。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 八郷西小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	学力を高める	3
主な方策 成果と課題	<p>具体的方策 ①基礎基本の確実な定着②自ら考え、語れる子</p> <p>成果と課題 □児童「授業はわかりやすい」95%、「ききあい考え合って学習している」93% □保護者「学習内容を理解している」76% 「意欲的に学習している」72% ○授業や朝学習、学びっこタイム等の充実、少人数・ITによるきめ細やかな指導、家庭学習の習慣化によって、児童の学習意欲と学力（基礎基本）は向上している。 ○ノート指導、考える時間の保障、ペア学習、全員の前で話す機会の設定等により自ら考え話し、説明することができるようになってきた。 ●問題解決能力向上のための5つのプロセスを取り入れ授業に反映し、活用力を伸ばす。 ●活用力が必要な問題でも、指導方法を工夫し、段階的に指導するなどして、粘り強く取り組ませ、できる喜びを感じさせ、挑戦していく気持ちを育てていく。</p>	
重点目標2	心を育てる	3
主な方策 成果と課題	<p>具体的方策 ①きまりを守る②仲間と協力する子</p> <p>成果と課題 □児童「きまりを守っている」97% 「学校が楽しい」95% 「いじめや差別は絶対にいけないと思う」99% □保護者「家庭や地域であいさつをしている」90% 「楽しく学校に通っている」97% ○児童は、きまり（挨拶・時間・清掃等基本的な生活習慣）を守って行動できており、落ち着いた学習生活環境になっている。 ○いじめアンケート、教育相談、QU分析を計画的に実施し、職員間の情報交換を密に行うことにより、問題の早期発見・即時対応ができています。さらに、委員会や集会活動で児童間の仲間づくりを進めている。 ●単級であり児童間の切磋琢磨等が少ないので、様々な体験活動をさせたり、問題解決のできる場を設定したりして、自らの考えを伝え合える場をつくり、児童間のつながりをより強くしていく。 ●掃除の仕方などよりきめ細かい指導をしていく。</p>	
重点目標3	健やかな体をつくる	3
主な方策 成果と課題	<p>具体的方策 ①自らすすんで命や体を大切に子どもを育てる②根気強くやり遂げる子</p> <p>成果と課題 □児童「体育の授業や運動会・かけ足などを頑張っている」98% 「健康で安全な学校生活を送っている」98% □保護者「安全・健康の意識を高めるための指導を行っている」96% 「施設・設備がよく整備されている」96% ○「生活習慣チェックシート」による家庭への啓発をし、計画的に、よりよい生活習慣をつける健康教育や安全意識の育成を図る訓練や指導を行ってきた。 ○運動会、水泳、マラソン、なわとびを核とした体力づくりの取り組みを進め、児童一人一人にめあてを持たせ、タイムを記録したり、振り返りをさせたりすることで、体力や粘り強く取り組む力を向上させることができた。 ●苦手意識を持っている児童もいるので、より楽しくできる体育の授業を工夫していく。</p>	

重点目標 4	教師力を高める	3
主な方策	<p>具体的方策 ○わかる授業づくりを工夫する。</p> <p>成果と課題 ○市教委の指導主事や教育アドバイザーを活用し、一人1回は研究授業をし、「伝え合い学び合う授業」について検討してきた。個々の授業力向上に成果があり、さらに児童が熱中するような授業実践を目指していきたい。</p> <p>成果と課題 ○「めあてと振り返り」のある授業が定着してきている。 ○校内支援委員会を定期的に開催しスクールカウンセラーを交えて情報共有を行い児童理解が進み、手立てを講じることができた。 ●各職員が校務分掌をたくさん持ち、多忙感があるので、定時退校や会議精選などの取り組みとともに仕事の仕方等のアイデアや工夫を検討する。</p>	

重点目標 5	地域とつながる	3
主な方策	<p>具体的方策 ①地域の人とつながる場を工夫する。 ②ゲストティーチャーやボランティアによる『本物』に触れる機会の設定する。</p> <p>成果と課題 □児童「地域の人に教えてもらったりしたことは勉強になる」92% □保護者「学校の様子を積極的に知らせている」96% ○読み聞かせ・お話の会・ふれあいランチタイム・八郷西文化祭・クラブ活動・陶芸製作・社会見学、防犯教室等、さまざまな学習場面で、地域と連携した教育活動を推進し「本物」に触れる機会を設定してきた。 ○授業参観・フリー参観を定期的に行い教育活動を公開している。また各種通信やHPによる学校からの情報発信も頻繁に行っており一定の評価をいただいている。 ●地域教材の開発や人材活用などさらに取り組んでいく。</p>	

## 2 改善方針

<p>①問題解決能力向上のための5つのプロセスを取り入れ授業に反映し、活用力を伸ばす。 ②活用力が必要な問題でも、指導方法を工夫し、段階的に指導するなどして、粘り強く取り組み、できる喜びを感じさせ、挑戦していく気持ちを育てていく。 ③単級であり児童間の切磋琢磨等が少ないので、様々な体験活動をさせたり、問題解決のできる場を設定したりして、自らの考えを伝え合える場をつくり、児童間のつながりをより強くしていく。 ④掃除の仕方などよりきめ細かい指導をしていく。 ⑤より楽しくでき、力をつける体育の授業を工夫していく。 ⑥各職員が校務分掌をたくさん持ち多忙感があるので、定時退校や会議精選などの取組とともに仕事の仕方等のアイデアや工夫を検討する。 ⑦地域教材の開発や人材活用などさらに取り組んでいく。</p>
---

## 【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 三重北小 学校

## 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の向上	4
主な方策 成果と課題	<p>○「学び合う」学習を授業に位置づけ、基本の課題と活用の課題を設定し、学校全体として考え合う児童の育成に積極的に取り組んだ。</p> <p>○書く力や論理的思考力を高めるために、系統的に指導したことにより、子どもたちの読みの力や書く力がついてきた。全ての教科で書くことを大切にしてきたことにより、国語科で培った文章構成力を各教科でも活用している。</p> <p>○平成23年度より継続している朝の帯時間の読書、漢字、計算の活動は、「朝の学習」として定着し、漢字の習得や四則計算技能の向上に結びついている。</p> <p>○年度初めより月1回のペースで「算数チャレンジタイム」を実施し、算数の基礎基本の習得をめざした。</p> <p>○保護者へのアンケートでは、「読み書き・計算の力を定着させ、学力を高める教育を進めている」「読書週間や読み聞かせ等読書への意欲が高まる取り組みがなされている」の質問項目で、いずれも92%の保護者が「そう思う・どちらかといえばそう思う」と回答し、昨年度と同様に高い評価が得られている。</p> <p>○「学習習慣や生活規律が身についている」「子どもの家庭学習の定着・習慣化に協力できている。」の項目では、保護者の20%以上が「どちらかといえばそう思わない・そう思わない」と回答している。家庭学習の定着について保護者との連携が必要である。</p>	
重点目標 2	健康な体の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○体力テストの結果分析から明らかになった課題（巧緻性・瞬発力・柔軟性）を改善するため、ビジョン部（体力・健康）から提案された運動をもとに、全学年が授業に取り組んだ。その結果、体力テストで平均値の低かった投力の記録が伸びた。</p> <p>○運動会や朝のかけ足運動、持久走やなわとび集会等、体育授業・体育行事の工夫・改善が行われ、子どもたちの体力向上や健康増進がなされ、体力テストの結果にもその成果が表れた。</p> <p>○遊びの環境を整え、外遊びへの意欲を高めるために「三重北チャレンジカード」を作成した。子どもの実態として、外遊びの割合が昨年度より減少したことから、子どもが「本当に遊んでみたい」と思えるカードに改善する必要がある。</p> <p>○三重北遊び週間を年間2回設定し、児童や教師が考えた遊びを通して体力の向上を図った。</p> <p>○校内保健委員会を開き、健康や食育の指導等に取り組んだ。</p> <p>○学期ごとに、歯みがき強化週間を設け、家庭での取り組みを記録させ、歯みがきの習慣化を図った。今後は、保護者との連携を図り、歯みがきの大切さを継続して伝えていく。</p>	
重点目標 3	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○仲間づくりを基本としながら、各学級で道徳教育および人権教育を推進してきた。8月と2月には仲間づくり研修会を実施し、各個人が作成した仲間づくりレポートをもとに取り組みの振り返りを行った。また、学びの一体化において人権の公開授業研究を行った。</p> <p>○道徳の時間における人権学習を実施するとともに、Q U調査やいじめ調査、教育相談などを実施し、心の教育の推進を図った。</p> <p>○児童アンケートで「将来の夢や目標を持っていない」「自分にいいところなし」と回答する児童が共に13%と、否定的な思考の児童が意外と多く、注意を要する。中学校と連携したキャリア教育や地域人材の活用、地域での学習などを推進し、社会とのつながりに関心を持たせるとともに、学校生活全体（学び合い・道徳・行事等の活用）を通して、自尊感情を育てていく必要がある。</p> <p>○豊かな人間性の育成として、「あいさつ」運動に取り組む。「自分から進んであいさつできる」と回答する児童は94%、「場に応じたあいさつができる」と回答する保護者は79%と差があった。社会性を育むためにも、「あいさつ」に対する取り組みを今後も続けていきたい。</p>	

重点目標 4	保護者・地域と連携した学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>○地域の人々の協力によりさまざまな体験活動が積極的に行われている。</p> <p>○たけのこ掘り、米作りなどの体験学習により、文献で学ぶ以上の学習効果があったことが児童の感想文からうかがえた。地域の恵まれた環境は、地域特有の財産であり、体や心の成長に大いに役に立っている。</p> <p>○社会科（平和学習、昔のくらし）、生活科・総合的な学習の時間（神社見学や梅ジャム作りの学習等）で、地域の教材に出会うことは、より身近に、より具体的に学ぶことができ、児童の興味・関心、学習の意欲向上に効果があった。</p> <p>○地域学習の指導案、資料、記録を三重北小の財産として残し、修正を加えながら、継続して取り組んでいきたい。</p> <p>○学校の取り組みや願いを保護者に伝えるために、学校教育ビジョンを意識した学校だより、学年・学級通信、学校HPの発信を継続していきたい。また、地域への学校だよりの回覧は今後も継続していきたい。</p> <p>○保護者への発信の場として、学年懇談会の充実をより図る必要がある。年間行事の中で回数を確保していく難しさはあると思うが、保護者との対話の場としたい。</p>	

重点目標 5	教職員の資質・能力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○教職員同士、授業を公開したり、他の教師の授業を見に行ったりして、授業力の向上をめざし、資質・能力向上に努めている。授業を公開して、指導方法等について意見交換等をするのはよい取り組みであり、今後も継続していく。</p> <p>○「わからなさ」「まちがい」を大切に授業づくりに積極的に取り組んでいく。</p> <p>○公開研究会の実施により、三重北小の「学び合いの授業」の取り組みに対する他校の教職員からの評価を得ることができ、研究の振り返りと推進の意欲に役立てた。</p> <p>○自己目標を設定し、年間を通じて個人研究に取り組んだ。個々の取り組みの振り返りを次年度に生かし、より高い目標をめざして取り組む必要がある。</p> <p>○昨年に比べ、教職員アンケートで、肯定的な回答をする教師が減少している（設問22項目のうち、13項目が対昨年△15%以上）。授業技術や学級経営に加え、教科の本質に即した課題の設定、課題の質、授業過程を研究し、仕事に自信がもてるよう研鑽を続ける必要がある。</p>	

## 2 改善方針

<p>○学校づくりビジョンに沿って、各ビジョンリーダーを中心に学校改革が進んでいる。職員の同僚性を培いながら、児童が関わり合い、互いに学び合いながら高まっていく授業の在り方について全職員が共通理解を図り、研究を進めた。本年度は各教科の本質に迫る学びの実現に向けて、研究を深めた。来年度はさらに研究実践を積み重ね、子ども一人ひとり・教師一人ひとりの学び合う学びに向けてさらに研究を進めていく。</p> <p>○11月に公開研究会を開催した。来年度も本年度の成果をもとに、研究実践を進め、外部からの参加者との協議を通して、取り組みの成果と課題を明らかにしていく。</p> <p>○本年度同様、学級を開き、授業を見合うことを進め、同僚性を高めながら、「学び合う」教職員の組織づくりをさらに進めていく。</p> <p>○特別な支援の必要な児童について、児童の実態、保護者の願いをしっかりと聞き、受け止めながら、学校全体の中での児童の安心できる居場所作りに努めるとともに、一人ひとりに確実な学力の保障を行っていく。</p> <p>○授業やさまざまな体験活動等に、多くの地域の方々の支援を受け、開かれた学校づくりが確実に進んだ。次年度もさらに地域の方の支援をいただき、学校教育活動の充実を図っていく。また、コミュニティスクール運営協議会の意見も取り入れながら、地域に開かれた学校運営を行っていく。</p>	
--	--

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 羽津北 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	共に学び、確かな学力を獲得する授業の構築	3
主な方策 成果と課題	<p>①基礎・基本の定着を図る授業の工夫                  (成果) 「学習のルールを守って友だちとなかよく勉強している94.3%」「ホワイトボードを使った学習は楽しい95.3%」「少人数やTTの授業はわかりやすい93.5%」「毎日忘れずに家庭学習をしている91.1%」など多くの児童が肯定的にとらえている。「家庭のてびき」を配付し、学年に応じた「自分学習」を指導した。朝の学習では始業とともに学習が始められるように指導するとともに、学習内容を学年で統一したり、朝学習用のノートを使用したりするなど、学習を習慣付けることができた。朝の学習について自分で振り返りを行うことでさらに意欲を持って取り組めるようになった。授業においてもめあてと振り返りを意識することで、課題を明確にすることや言語活動の充実を図ることができた。                  (課題) 学習意欲や「自分学習」の学習内容については個人差が大きい。</p> <p>②学び合いを基盤とした問題解決的な学習の充実                  (成果) ホワイトボードを活用し、話し合い、教え合い、学び合い活動を行った。ミニボードを活用しての授業も多く行われ、児童一人ひとりが深く学べるようになってきた。                  (課題) 話し合いをするためのテーマや時間の確保、教師の働きかけに課題があり、さらに研究が必要である。</p>	
重点目標 2	心の教育と安心・安全な学校づくりの推進	3
主な方策 成果と課題	<p>①心豊かな集団づくり                  (成果) いじめ調査や教育相談を学期に一度行い、子どもたちと個別に話をする事で一人ひとりの子どもの悩みを聞き問題がある場合は早めに対応することができた。兄弟姉妹学年の活動では、上級生が下級生を思いやりたり相談して良い方法を考えたりして模範となる姿が多く見られた。                  (課題) 児童の発達や特性に応じた個別指導と集団指導を組み合わせた効果的な学級経営が十分ではない学級がある。校内での情報交換がさらに必要である。</p> <p>②命を大切にする教育                  (成果) 「早寝・早起き・朝ごはんができています。91.5%」「生活リズムづくりや健康づくり・食生活についての指導を行っている100%」など、保健指導や保護者への文書を通して児童の「命」や「健康」に対する意識は高まっている。                  (課題) 啓発を行っても健康な環境を整えられない家庭もある。</p> <p>③特別支援教育の充実                  (成果) 定期的に、また必要に応じて校内の委員会を開催し児童の情報を共有し支援の在り方を考え合うことができた。                  (課題) 支援が必要な児童や保護者が増えており「個別の支援を必要とする児童について個に応じたきめ細やかな指導がなされている80.7%」と課題を感じている職員が多い。スクールカウンセラー等専門家のアドバイスが日常的に必要である。</p> <p>④規範意識の向上                  (成果) 「はづきたのやくそく・けやきっ子10か条を守っている89.5%」と肯定的に答えている児童が多い。学校集会や日常の教師の指導、児童集会での高学年や児童会役員の呼びかけから多くの児童の意識の中に「やくそく」が入っており、約束を守ろうとしている。                  (課題) 職員の指導に温度差がある。</p>	



重点目標 3	教職員の資質・能力の向上	3
主な方策	<p>①校内研修・および個人研究の充実  (成果)「校外研修に積極的に参加し校内研修も充実したものになっている100%」であり、校外の研修に積極的に参加し校内の研修に生かそうとしている。経験の浅い教員には教育 A d v を活用し一人ひとりの課題に合った研修の充実に努めた。</p> <p>②教職員の学校経営への積極的な参画  (成果)指導部会、研修委員会等が計画的に行われ、昨年度の反省を踏まえた提案がなされている。  (課題)時間が限られており十分な話し合いが行われにくい。</p> <p>③会議・業務の改善と効率化  (成果)「教育活動に対する教職員間の共通理解を深めることができ仕事が効率的に行われている84.6%」で昨年比7%増である。  (課題)協議事項を明らかにし変更事項が多い場合は、早目に学年で話し合うように提案するなどの工夫が必要である。</p> <p>④職場の活性化  (成果)職員の持ち味が活かされるミニ研修の充実、日報・打合せ、職員会議等で情報と行動の連携を図ることができた。  (課題)話し合う時間や研修の時間の確保が難しい。</p>	
成果と課題		

重点目標 4	地域・家庭と協働する学校づくりの推進	3
主な方策	<p>①情報発信等の充実  (成果)保護者「羽津北小HPや各種通信による情報が充実している87.9%」昨年比5%増。  (課題)教職員「学校から保護者や地域への細やかな情報提供が行われている100%」昨年比5%増で保護者との隔たりは変わっていない。教育活動すべてを伝えられるわけではないが保護者が知りたい内容を知り発信していく必要がある。</p> <p>②地域の方との協働  (成果)児童「ボランティアさんに来ていただく学習は楽しい96.8%」昨年比2%増。  (課題)地域の方に来ていただく授業がマンネリ化している。年間を通して教育活動に位置付ける。</p> <p>③地域の文化や伝統、産業等の教材化  (成果)全学年陶芸作品作りを実施した。子どもたちは毎年違う作品ができることを楽しみにしている。  (課題)地域の産業や文化財を意識した学習が低中学年に偏っており高学年になると意識が低くなる。</p> <p>④家庭・地域と連携した家庭の教育力の向上  (成果)個別に連絡を取り合ったり家庭訪問をしたりして意識づけを行った。学校づくり協力者会議でも話題になり、「孤立する家庭をつくらぬ地域」が大切であることを確認し合った。  (課題)協力を得られない家庭もある。</p>	
成果と課題		

## 2 改善方針

- ・「朝の学習」「自分学習」「家庭学習」の場において自ら進んで学習できるように学年に応じた指導を繰り返し行い、児童が自分から学習できる習慣を付ける。
- ・ホワイトボード（ミニホワイトボード）の有効な活用方法を研究し、児童が話し合い、教え合い、学び合える授業を創造する。
- ・学年に応じて「はづきたのやくそく」「けやきっ子10か条」を推進するとともに当たり前のことを当たり前にできる子どもを育成するため、あらゆる活動の場で温度差のない指導をしていく。
- ・個別の支援が必要な児童に対し系統的・組織的な支援を行うため、スクールカウンセラー、地域コーディネーター、校内特別支援コーディネーター等と連携し、校内特別支援委員会を中心に全職員で指導支援を行う。
- ・自尊感情を高めるために、挑戦したり活躍したりする場を保障し、教師が子ども一人ひとりのよさや成長に気づくとともに、周りの子どもたちにそのよさを広めていく。
- ・体育学習の充実と運動の習慣化を図るとともに、運動能力テストを継続して行い、児童が自分の運動能力の伸びを実感できるようにする。
- ・教師の個性や持ち味を発揮できるミニ研修を充実させ、共に学ぶ教師集団をめざす。

【様式1】

## 自己評価書

四日市市立 内部東小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>△保護者、子供に実施したアンケート結果から、読書に関する評価が、目標値に達していないことが明らかになった。全校で読書の時間を一斉にとったり、親子読書を実施したりしてきたが、さらに家庭と連携し、本に親しむ子供の育成に努めるようにしたい。</p> <p>○家庭学習の課題を学年でそろえ、継続して取り組んだことで、基礎的な学力、家庭学習の習慣が定着した子供が増えてきた。</p> <p>○3年生以上の算数科で、少人数授業を実施したことで、算数に苦手意識を持っていた子供たちに学習意欲を持たせることができた。</p>	
重点目標 2	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>△学級や学年で起きる様々な問題について子供たちで話し合い、どう行動すればよいのかを考えることができた。しかし、考えたことを実践していくという点では、まだ十分とは言えない。今後も互いの良さを認めたり、相手の気持ちを考えたりする意識を高め、行動の変容につなげていくため学校全体で取り組んでいく必要がある。</p> <p>○職員会議、特別支援委員会、教育相談、カウンセリング等で、特別な支援が必要な子供について、共通理解と支援の方法を話し合うことができ、適切な指導・支援につなげることができた。</p> <p>○生徒指導や児童会から、挨拶や学校生活のルールについて全校にはたらきかけを行ったことで、子供たちへの意識付けになり、徐々に子供たちの行動に変化が見られている。今後も継続した取り組みが必要である。</p>	
重点目標 3	健康・体力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>△スポーツテストの結果を活用して、授業改善に努めるよう心がけた。授業内容を工夫することで、運動が苦手な子供にも、運動する楽しさを味わわせることができた。また、学級を超えた子供たちのつながりを深めることができた。しかし、1時間の授業における子供たち一人ひとりの運動量の確保という点においては十分とはいえない。</p> <p>○業間かけ足、マラソン記録会、長縄記録会等の取り組み以外に、児童会の取り組みとして、業間に全校遊びを行うことによって、外遊びをする子供が増えつつある。</p> <p>○保健委員会の活動の一環として、保健委員の児童が行った、手洗いチェック、ハンカチ調べ、早寝・早起き・朝ごはん等の活動によって、子供の健康に対する意識を高めることができた。</p>	

重点目標 4	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○学年での研修をもとにした授業公開を行うことで、教材や指導方法についてより深みのある研修が実践でき、指導力の向上につなげることができた。また、OJTを活用したミニ研修会、研修会後の振り返りなど、自分たちで研修を進めたり、自分の実践に返していこうと意識したりすることができた。さらに校内研修の取り組みに力を入れて、授業の質の向上を目指したい。</p> <p>○子供の様子について学年間で交流できたことで、子供たちに関わる課題等について早期に発見し、適切な対応をすることができるようになってきている。</p> <p>△仕事の精選・効率化をさらに進め、子供に直接関わる仕事や時間を充実させていきたい。</p>	

重点目標 5	家庭・地域との連携	3
主な方策 成果と課題	<p>○保護者対象にアンケートを実施して、学校教育に対するニーズを把握したり、達成度の状況を確認したりすることで、教育活動を見直し、改善につなげることができた。また、クラブ活動、ふれあいまつり、読書推進にかかる取り組み、交通安全指導等の教育活動に、保護者や地域の方々の協力を得ることができた。今後も家庭や地域と協力しながら子供を育てるという姿勢を大切にしていきたい。</p> <p>△学校だより、学級通信、ホームページ等で、学校からの発信をさらに充実させていくと同時に、オープンスクールや懇談会など、学校と保護者が交流できるような機会を充実させていくことが大切である。</p>	

## 2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の課題を学年でそろえるなどの取り組みにより、子供たちの家庭での学習習慣や基礎学習の定着に効果がみられた。今後も子どもたちの実態に応じて、課題の内容、量などを検討しながら取り組みを進めていく。</li> <li>・少人数授業については、クラス編成や指導方法等、子供の実態に応じ、より効果的な運用について研究していく必要がある。</li> <li>・特別な教育的支援を必要とする子供については、今後も特別支援委員会、職員会議等で教職員の共通理解を図り、保護者、関係諸機関と連携をとりながら支援体制づくりに努める。</li> <li>・アンケート結果から明らかになった様々な課題を改善するための方策について、組織的かつ効果的な対応・指導にあたることを本校の姿勢として今後も大事にしていきたい。</li> </ul>
--

【様式 1】

## 自 己 評 価 書

四日市市立 中央小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着（・問題解決能力の向上・少人数教育の活用・読書活動の推進）	3
主な方策 成果と課題	<p>○算数科の基礎学力向上のために、朝のチャレンジタイムを5月の連休明けから実施している。「さかのぼりプリント」を使って下の学年の課題から順に現学年まで、計算問題に取り組んでいる。</p> <p>○学校独自でCRTに取り組み、4月の国語科で児童の実態把握、1月の算数科で1年間の学習の振り返りをを行い、次年度につながる取り組みに役立てている。</p> <p>○「担任はお子様のことをよく見届け、伸ばそうとしている・先生は自分にあった教え方やアドバイスをしてくれ、自分は楽しく授業に参加している」のAB評価が、保護者88%、児童91%と高い。</p> <p>○「自分は、めあてを決めて学習したり、友達と話し合ったりして、自分の力で問題を解決している」のAB評価が、児童84%と高い。</p> <p>○「毎日10分×学年以上家庭学習をしている」のAB評価が、保護者80%、児童84%と高い。</p> <p>○「自分は読書がすきである」のAB評価が、児童84%と高い。</p> <p>●「お子様は、読書への関心が高くなっている」のAB評価が、保護者69%と低い。家庭で読書をする暇がない児童の実態がある。</p> <p>○少人数を活かした、異学年の児童とのつながりを意識した縦割り活動を行った。単学級なので、友だち関係が固定されがちだが、異学年の児童と遊ぶことで、子ども同士のつながりが深まった。</p> <p>○児童会活動で外遊びや挨拶運動を行い、よかったことをお昼の放送で発表するなど児童の意識が高まる工夫で、外遊びや挨拶をする児童が増えた。</p> <p>●地域の方などに挨拶を自ら行うことに課題がある。</p>	

重点目標 2	豊かな人間性の育成（・道徳教育の推進・規範意識の向上・人権教育の推進・特別支援教育の推進・キャリア教育の推進）	3
主な方策 成果と課題	<p>○年度初めに各学年で視点児を決め、学校全体で視点児を確認し、居心地のよい学級づくりができるようなかまづくりの研修会を行った。さらに、夏休みと3学期になかまづくりの研修会を行い、QU検査の結果をもとにして、学級の実態や方策について話し合った。なかまづくりの研修会を行うことで、学校全体で視点児を把握し、視点児にとっても居心地のよい学校づくりを進めた。</p> <p>○「お子様は、自分のよさを自覚している・自分にはよいところがある」のAB評価が、保護者83%、児童79%と高い。</p> <p>○「学校は、いじめや差別がなく、安心して生活できる場所になっている・互いのことを思いやり支え合ったりして、みんなが安心できる学級になっている」のAB評価が、保護者88%、児童79%と高い。</p> <p>○「お子様は、友だちと仲良く生活できている・自分は、相手のことを思いやり、友達との関係がうまくいっている」のAB評価が、保護者94%、児童84%と高い。</p> <p>○「障がいのある子どももない子どもも、自分の力を発揮して学習や様々な活動に参加している」のAB評価が、保護者92%と高い。</p> <p>●「自分は、困っていることや悩んでいることなどを、友達や先生に相談できる」のAB評価が、児童74%と少し低い。</p> <p>●単学級ということもあり、人間関係が固定化してしまうことが課題である。低学年のうちから居心地のよい学級を作るために、1～3年生でもQU検査を実施することも考えていくとよい。</p>	

重点目標 3	健康・体力の向上(・体力、運動能力の向上・心と体の健康教育の推進・子どもの安全意識の向上)	3
主な方策 成果と課題	<p>○「お子様は、外で体を動かすことが好きである・自分は、外で運動することが好きである」のAB評価が、保護者87%、児童81%と高い。</p> <p>○「自分は、毎日給食を残さず食べている」のAB評価が、児童87%と高い。</p> <p>●「お子様は、嫌いなものでも残さず食べる」のAB評価が、保護者69%と低い。</p> <p>○なわとびチャレンジ大会では、どの学年の児童も意欲的に取り組むことができた。</p> <p>○多目的ホールに、「スポーツテストコーナー」を設置して、日常的に、握力、立ち幅跳び、反復横とびに取り組めるようにした。コーナーを利用する児童が多い。</p> <p>○スポーツテストコーナーを設置したことで、運動のコツをつかんだり高学年に教えてもらったりすることで種目になれることができた。</p> <p>○夏の校内研修において、今年度の体力調査をもとに体力向上にかかわる研修会を実施した。本校では特に個々の運動傾向を分析しながら体育の授業の計画を立てていく必要性や、5分間運動などの充実について話しあった。</p>	

重点目標 4	保護者・地域との協働(・学校からの情報発信・家庭学習チェックシート等の活用・教育支援ボランティアの活用・学校評価を活用した学校づくり・和太鼓など、地域の特色を生かした学習や活動の充実)	3
主な方策 成果と課題	<p>○「学校は、保護者や地域の人々へ学習を公開したり、地域の人々に教えてもらったりする機会を設けている」のAB評価が、保護者92%と高い。</p> <p>○「学校は、学校、学年の通信、ホームページなどを通じて、保護者へ情報を発信している」のAB評価が、保護者96%と高い。</p> <p>○図書ボランティアが発足して、2年目になるが、館内の掲示だけでなく、独自の読み聞かせ、ワークショップなども開催している。</p> <p>○家庭学習チェックシートを年間3回実施して、家庭学習の意欲付けや充実を図っている。チェック週間には、児童の意欲も高まっている。</p> <p>○諏訪太鼓の指導者として、地域の方に協力をいただきながら6年生が三四季音楽会や校内音楽会で成果を披露している。</p>	

重点目標 5	学校教育力の向上(・豊かな人間性や確かな教師力の育成・教職員の意思の反映、満足度の向上・各種会議の改善、業務の効率化)	3
主な方策 成果と課題	<p>○校内研修では、算数的活動の充実を図った授業構想や展開を考えながら取り組みを進めた。</p> <p>○単学級の強み、弱みを活かした取り組みを重点的に行った。算数のノート作りを統一して進めた。また、思考力の系統性を考え、数直線の指導についても共通理解し、研修会で検討し、指導方法について研修を進めてきた。</p> <p>○算数を窓口とした研修は3年目となり、より具体的に研修を進めていくことができた。</p>	

## 2 改善方針

・児童数が減少し、学年の特徴がはっきりしているため、集団としての分析・対応より、個々の児童の能力・特性に応じた分析と指導の工夫が、より必要である。

・家庭学習が、高学年になると目標時間を達成できない児童の割合が高くなるため、内容の充実とあわせて取り組み方についても検討していく。

・読書好きであるのに、家庭ではその力を発揮できていない。「親子読書」などの取り組みを検討していく。

自己評価書

四日市市立 橋北小 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

<p>重点目標 1</p>	<p>「確かな学力」                  ○基礎的・基本的な知識や技能の定着                  ○問題解決能力の向上に向けた授業づくり                  ○読書活動の推進</p>	<p>3</p>
<p>主な方策 成果と課題</p>	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の基礎基本の定着を図る取り組みの推進</li> <li>・「話す・聞く力」「書く力」「読む力」を向上させる学習の充実</li> <li>・家庭学習の習慣化</li> <li>・知識・技能を活用する授業づくりの充実</li> <li>・問題や課題の解決を大切にした授業の取り組み</li> <li>・子どもが意見を交流したり、考え合ったりする授業の充実</li> </ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・100マス計算は、さわやかタイムだけでなく、授業の中でも取り組むうちにできるようになってきた。</li> <li>・漢字は繰り返し学習するうちに漢字を苦手とする児童が減ってきた。50問テストのときは意識も高く達成率もよい。</li> <li>・児童にとって意欲的な課題設定によって、話す意欲が高まった。</li> <li>・さわやかタイムでの「話す」「聞く」の活動は有効であった。スピーチでは、メモの取り方や友だちの考えを知ることができた。</li> <li>・学習課題の提示をいつもするようになった。そのため、子どもたちが意欲的に学ぶようになった。</li> <li>・ペアやグループ学習を取り入れたことで、共に学ぶ意欲を高めたり、自分の考えを広げたりすることができた。児童アンケートからも意識が高まっていることがわかる。</li> <li>・授業の「めあて」は意識させることができたが、「ふりかえり」の時間を確保することが難しかった。</li> <li>・読書週間でのさまざまな取り組みやさわやかタイムの読書の時間の増加により、本に親しむ機会が増えた。さわやかタイムでは、本を交換することなく、十分間集中して読書に取り組む姿が多く見られた。</li> <li>・さわやかタイムの読書の時間に、まだ、本に興味を示さない子もいるため、読み聞かせを多く取り入れるなどの工夫が必要である。</li> <li>・日常生活において学んだ漢字を使おうという意識が弱い。</li> </ul>	

重点目標 2	<p>「豊かな心」  ○温かい心で支え、認め合う仲間づくりの推進  ○夢や意欲を育むキャリア教育の推進</p>	3
<p>主な方策  成果と課題</p>	<p>【主な方策】  ・あいさつ等、基本的生活習慣の定着  ・人権感覚・自己有用感を高める取り組みの推進  ・互いがつながり、励まし合う仲間づくりの推進  ・「考え・議論し、行動する」道徳の授業の推進  ・人や文化、自然等から学ぶ体験活動の充実  ・学年段階に応じたキャリア教育の推進</p> <p>【成果と課題】  ・毎月の「スーパー橋北っ子」の取り組みによって、子どもたちの意識の向上が見られた。しかし、あいさつの声が小さかったり、廊下歩行も守られていないところもあつたりするので、今後も引き続き行っていくことが必要である。  ・自分や友だちのよいところをみつめていく取り組みや自尊感情を高める取り組みなどを進めることにより、昨年度に比べ肯定的な回答が20%程度増えた。  ・集団としての成長は見られるが、一人一人の個性を活かすところに至っていない。今後も一人一人を認めていく取り組みをより進めていくことで、個性を活かすことにつなげていきたい。  ・道徳の授業では、学級の実態に合った内容に取り組んだ。また日常的になかまづくりに取り組むことができた。また、行事を通して視点児と周りを意図的につなげていく取り組みを行うことができた。</p>	

重点目標 3	<p>「健康でたくましい力」  ○体力向上をめざした取り組みの推進  ○健康・安全意識の向上の推進</p>	3
<p>主な方策  成果と課題</p>	<p>・楽しく運動量のある授業づくりの推進  ・めあてを持って取り組む体育的行事、運動に親しむ取り組み等の推進  ・「早ね、早起き、朝ごはん」の生活リズムの推進  ・食教育・健康教育の充実  ・避難訓練、安全教室等による危機回避能力の育成</p> <p>【成果と課題】  ・主運動につながる5分間運動を意識し取り組んできたことで、子どもたちは楽しく体を動かすことができた。  ・体育的行事にあわせた授業内容となってしまう、運動のおもしろさを感じさせる授業の取り組みが弱かった。  ・生活習慣が整っている子が多いが、親の関わりが薄く生活習慣が確立していない児童もいる。繰り返し家庭へ生活リズムについて啓発していきたい。  ・食育の一貫として、全校で残菜について確認をしていくことは大切であると感じられた。特に、児童集会における委員会の報告は効果的だった。定期的にグラフ化し、視覚的に掲示することでわかりやすく全校児童に伝えることができた。  ・避難訓練については、命がかかっているという意識や危機感をもう少し持たせる必要がある。また、教師側の訓練も行う必要がある。</p>	

重点目標 4	「地域とともにある学校づくり」 ○家庭・地域との連携・協働による教育活動の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域人材を活用した活動、家庭・地域との連携による活動の推進</li> <li>・学校・学年だよりやホームページ等による積極的な情報発信</li> <li>・学校評価（児童・保護者）</li> <li>・学校関係者評価（学校づくり協力者会議）の声を把握し、教育活動の改善を推進</li> </ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校自己評価の保護者アンケートの結果からも見られるように、「学校は、保護者や地域の人々と一緒に子どもを育てる取り組みに努めている」の項目において、「そう思う」が、昨年度に比べ11ポイント上がった。積極的に地域と連携した体験活動に取り組むことができた。</li> <li>・新たな試みとして、6年生が市民センターの講座「おとなの小学校」の活動に参加し、地域の人々との交流や繋がりをもつことができた。地域との合同防災訓練において、防災グッズ作製のブース運営を行うことにより、地域の人々との交流を図ることができた。また、2年生による「祖父母の会」で、昔遊びや給食交流を行うことにより、地域のお年寄りとの触れ合いを図ることができた。</li> <li>・各学年ともにホームページを更新してきている。忙しい中ではあるが、これからもできる限りの情報発信、有益な内容の情報発信を続けていく。</li> </ul>	

重点目標 5	「学校の教育力の向上」 ○教職員が研修を重ね、互いの教育力を向上 ○教職員が効力感の持てる環境づくりの推進	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実践推進研究（言語力を高め、共に問題を解決する授業づくり）の推進</li> <li>・効果的な会議の実施等による公務能率向上の推進</li> <li>・チーム学校による組織的な対応の充実</li> </ul> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内研修を全教職員で取り組むことによって、問題解決能力向上のための5つのプロセス（四日市モデル）の組み方や単元構想の立て方、5つのプロセスの有用性をさらに共通理解することができた。プロセス5につなげるためにプロセス2での学びが大切なことや言語力の充実がさらに必要なことを、本校のみならず、中学校区連携の取り組みの中で共有することができた。また、授業の1時間の中でめあてを解決することも大切にすることができた。</li> <li>・年間を通して、学年部・全体で共通理解を図ることができた。</li> <li>・行事等では、準備から片付けまで職員が臨機応変に動き、組織的な対応ができた。</li> <li>・次年度以降も引き続き学年部会議の日を設定し、有効活用を図っていきたい。</li> </ul>	

## 2 改善方針

・様々な活動に取り組んできたが、子どもたちにしっかりと力をつけるよう、さらに取り組みを進めなければならない。今後はさらに、子どもたちにどのような力をつける必要があるのかを見極めて指導にあたる。

- ・学年会の日を有効活用し、問題解決能力向上のための5つのプロセス（四日市モデル）を活用した授業の進捗状況や自尊感情向上について、今後さらに共通認識を持ち、研修を通して深めていくべきである。
- ・問題解決能力向上のための5つのプロセスを基本にした学習については、単元に軽重をつけて取り組むこと、また、年間計画の中でどのように軽重をつけていくのか事前に計画を立てていく必要がある。
- ・言語力をさらに向上させるためには、学校に「言語文化」を築く営みをこれからも継続していく必要がある。
- ・時間的な余裕がなかなか持てないでいる。そのため、十分な話し合いや教材研究ができないという実態がある。効果的な時間の使い方を考えていくことが必要である。例えば、会議については、必要性を見直すとともに、開催時期や回数が適当であるか検討するなど工夫していきたい。また、行事についても、今後見直す方向で進めていく。



【様式 1】

## 自 己 評 価 書

四日市市立 楠小 学校

### 1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	豊かな心の育成 ～思いやりをもち、かかわりあう子～	3
主な方策 成果と課題	<p>なかまづくりの研修では、核となる子を設定して取り組みを進め、周りの子や教師自身の変容が大切だという共通認識ができてきた。子どもの生活背景も含め、さらにいねいに見ていきたい。またその際、なかまづくりの取り組みが曖昧になってしまふことのないよう、核となる子の選定を慎重にしたい。</p> <p>楠小としての人権課題（幼少期からの偏見や決めつけ）が人権教育年間計画に盛り込まれ、年度当初に全職員で共通理解していることは意義がある。</p> <p>今年度は、北勢地区人権・同和教育研究協議会発表会に向けて、人権教育の視点を特に意識して取り組めた。また、委員会活動や集会での取り組みとの相乗効果で、いじめを許さないという意識は高く、自尊感情も少しずつ高まってきた。しかし、自分のことを大切にす気持ちや道徳的態、実践力はまだ弱いので、生活全般で見届けていかなくてはならない。</p> <p>恒例となった人権ポスターを描く取り組みは、子どもたちにとって友だちへのかかわりを考えるだけでなく、普段の自分の行動を振り返る機会として定着してきている。また、地域での展示が行われるので、子どもたちにも励みになっており、地区人権協と連携する機会としても有意義である。</p> <p>道徳教育では、身近な課題を題材にし、自分の考えをもたせたところ、知識的側面の習得は進み、学級内で多様な考えを交流することができた。しかし、実生活に活かすことは難しく、実践に結びついていない。決めつけた見方も減ってはきたが、まだある。</p> <p>QU、いじめ調査、SCとの相談、担任と交流学級担任との細かい連絡の取り合いなど、よく取り組めた。教師全体に広める機会がもう少しあるといい。</p> <p>本年度は、学びの一体化の中で、清掃活動を指導重要項目として取り組んだ。小学校としては「黙動」や「時間を守る」を発達段階に合わせて行えたことは有効であった。</p>	
重点目標 2	確かな学力の育成 ～考えを伝えあい、自ら学ぶ子～	3
主な方策 成果と課題	<p>学力の向上を目指して、朝のスキル学習、少人数やTTによる指導、本校独自の学力調査などを実施した。朝のスキルの時間には、本校児童の課題である「考える力」をつけることを重視して、文章読解や思考を要する問題に重点的に取り組んだ。</p> <p>算数の時間には、TTや習熟度別の少人数による指導で、児童の振り返りを元に個人のペースやつまずきに合わせて学習に取り組めるように支援を行った。また、本校独自の学力調査では、今年度からは技能・表現問題だけでなく、思考・判断や知識・理解の問題の到達度も分析し、他学年や前学年との比較ができるように行った。</p> <p>ペア・グループ活動を取り入れた学習は、どの子も自分の考えをもつために有効な手立てであり、学習が苦手な子も問題解決に向けて前向きになれた。ただ、その内容や理解度を深めていくことが今後の課題といえる。</p> <p>その他にも、ICT、ホワイトボード、「めあて」「ふりかえり」の意識などの指導方法の工夫を行うなど、「わかる授業」を心がけている。その結果、自分から学習に取り組む姿勢や意識ができており、今後も粘り強く継続していく必要を感じている。</p> <p>しかし、定着の満足度が低い学年もあり、学力面での課題が見られる。家庭学習についても、「家庭学習の手引き」で必要性を伝えるなどして進んで学習する習慣がついてきた一方、一部の児童については家庭での協力が得られない状況が続いており、学校での支援が必要となっている。</p>	

重点目標 3	健康な心と体の育成 ～健康な生活を心がけ、体を鍛える子～	3
主な方策 成果と課題	<p>体育の授業で5分間運動に取り組むように、体育館に運動の動きを示したポスターを掲示した結果、意識して取り組むことができた。しかし、学級によって取り組み方に差があったので、全校的に取り組んでいくことができるようにしたい。</p> <p>業間かけ足やなわとびチャレンジなど、全校一斉に取り組んだ。また、スポーツテストも全学年で実施している。自分の記録だけではなく、仲間と協力することの大切さを学ぶことができた。</p> <p>しかし、スポーツテストの結果を見ていくと、個人差が開きつつある。どの子も楽しめる体育の授業や取り組みを考えていく必要がある。</p> <p>給食後の歯みがきは、取り組みを始めてから数年が経ち、定着しつつある。しかし、虫歯がある子どもの数の減少があまり見られない。また、定期的に「生活リズムチェック」を行い、生活習慣を見直す機会を持った。子どもたちの寝る時間を改めて把握することができた。ほとんどの子どもが、「早寝・早起き・朝ごはん」を意識し、実行しようとする姿が見られるようになった。しかし、家庭環境によって、寝る時刻が定まらない子がいる。特に高学年になると、習い事等で遅い時間にしか寝ることができない子もいる。また、取り組み期間以外では、自分の生活リズムを見直すことができていないこともある。虫歯の治療・生活リズム両方とも、保護者への啓発が今後の課題であると考えます。</p>	

## 2 改善方針

子どもたちが「認められている」と実感できる活動の場の設定を共通理解を図りながら進めていきたい。また清掃活動は中学校区でそれぞれの取り組みや現状を確認し合うだけでなく、用具の使い方や机のつり方といった掃除の流れを子どもに混乱がないように極力統一したい。また、自己評価等も取り入れ、自ら考え、行動、改善していけるように指導していき、豊かな心の育成を図りたい。

学力の育成については、学力向上に向けた考える力をつけるために、少人数で考える時間や言葉で説明する機会を取るなど、具体的な取り組み方法や内容を考え、授業形態の研究と実践を推進していきたい。

全国体力・運動能力、運動習慣等の調査の結果から、子どもたちの体力が、前年度より、上昇していることがわかった。しかし、国や県と比較すると、本校の子どもたちは総運動量が大きく下回っている。そのため、様々な種目で平均値を下回っている。全校で取り組んでいるものだけではなく、さらに休み時間や体育の時間を活用して、子どもたちが「体を動かすことの楽しさ」を味わえるような取り組みを考えていきたい。また、体育の授業の時にはその時間や単元の目標を示し、「めあて」と「ふりかえり」を行うなど、見通しを持って取り組むことができるような授業にしていきたい。